

筑後西部第 2 地区遺跡群(Ⅱ)

筑後市大字津島所在遺跡の調査(2)

筑後市文化財調査報告書

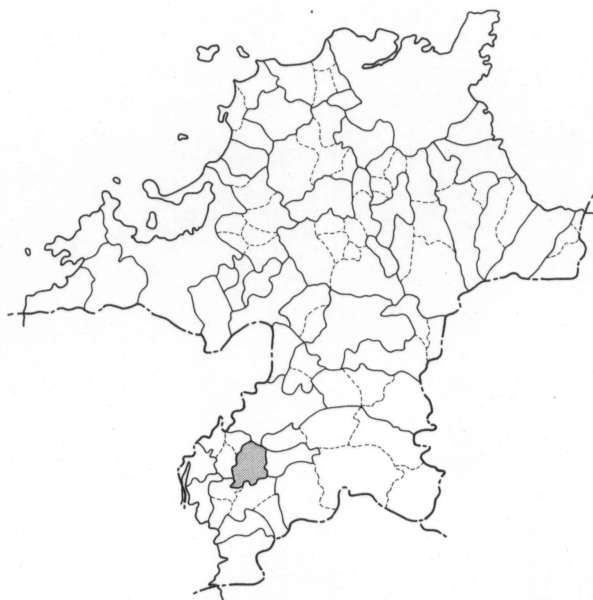
第26集

2000

筑後市教育委員会

筑後西部第 2 地区遺跡群(Ⅱ)

津島皿ヶ町遺跡第 1 次調査



2000

筑後市教育委員会

序

この報告書は、平成9年度に行った、津島皿ヶ町遺跡の調査の成果をまとめたものです。

筑後西部第2地区のは場整備に伴って、多くの遺跡が発掘調査されました。これから年次計画で報告書を刊行してまいります。その結果、この地域の歴史が少しずつひもとかれていくことでしょう。

この報告書が各方面で些少なりとも活用されれば、望外の喜びです。最後になりましたが、本報告書の刊行にあたり、ご協力いただいたみなさまに、厚く御礼申し上げます。

平成12年3月

筑後市教育委員会

教育長 牟田口和良

例言

1. 本書は平成9年度に調査を行った「津島皿ヶ町遺跡第1次調査」の成果をまとめたものである。
2. 発掘調査および出土遺物の整理等は筑後市教育委員会が行った。調査関係者は序章に記したとおりである。なお、出土遺物・実測図・写真等は筑後市教育委員会において収蔵・保管している。
3. 本書に使用した図面のうち、遺構実測図は永見秀徳、立石真二、末吉隆弥（現 川崎町教育委員会）、江崎貴浩、奥村太郎が、遺物実測図は永見、平塚アケミ、江藤玲子、末吉が作成した。また、製図は永見、平塚、江藤が行った。
4. 本書に使用した遺構写真・遺物写真は永見が撮影した。
5. 本書での報告にあたり、遺構番号を次のように決定した。調査時につけた仮番号を生かし、頭に調査次数、遺構種別を加えた。つまり第1次調査のS-1が竪穴住居であった場合、1S101となる。
6. 本書に用いた方位はすべてG.N.を、水準はT.P.を基準としている。なお、遺構の主軸等の方位は実測図上で分度器を用いて計測した。北から45°東にあたる場合、N-45°-Eと表記した。
7. 本書の執筆・編集は永見が行った。

目次

序章	はじめに	1
第Ⅰ章	位置と環境	3
第Ⅱ章	調査成果	8
	(1)遺構	9
	(2)出土遺物	17
第Ⅲ章	考察	91
終章	結語	97

序章 はじめに

本書は平成9年度に発掘調査を行った、津島皿ヶ町遺跡の調査成果を収録している。今回の調査は、平成9年度県営担い手育成基盤整備事業筑後西部第2地区に伴い、工事によって消滅する部分について記録保存の措置をとったものである。今回調査対象地となった部分は支線排水路の予定地となっており、水路の掘削によって遺跡が消滅することになった。

調査にいたる経過については、既刊の「筑後西部第2地区遺跡群(I)」に詳しいので、そちらを参照されたい。なお、整理作業は平成10年度から平成11年度にかけて、筑後市教育委員会文化財整理室で行った。

なお、調査組織は以下のとおりである。

(現地調査 平成9年度)

総括	筑後市教育委員会	教育長	森田 基之
		教育部長	津留 忠義
庶務		社会教育課長	山口 逸郎
		社会教育係長	田中 清通
		社会教育係	田中 剛 (文化財担当)
			小林 勇作 (文化財専門職)
			上村 英士 (々)
			立石 真二 (文化財学芸員)
			柴田 剛 (々)
調査担当		社会教育係	永見 秀徳 (文化財専門職)

(整理作業 平成10年度)

総括	筑後市教育委員会	教育長	牟田口 和良
		教育部長	下川 雅晴
庶務		社会教育課長	山口 逸郎
		社会教育係長	田中 清通
		社会教育係	田中 剛 (文化財担当)
			小林 勇作 (文化財専門職)
			上村 英士 (々)
			立石 真二 (文化財学芸員)
			柴田 剛 (々)
調査担当		社会教育係	永見 秀徳 (文化財専門職)

(整理作業 平成11年度)

総括	筑後市教育委員会	教育長	牟田口 和良
		教育部長	下川 雅晴
庶務		社会教育課長	庄村 國義
		文化係長	田中 僚一
		文化係	小林 勇作 (文化財専門職)

上村 英士 (文化財専門職)

立石 真二 (文化財学芸員)

柴田 剛 ()

調査担当

文化係

永見 秀徳 (文化財専門職)

なお、発掘調査前の協議から、現地調査、報告書作成に到るまで、次の方々から貴重な御助言、御指導をいただいた。記して謝意を表したい。(順不同、敬称略)

佐田 茂 (佐賀大学)、水野正好・泉拓良・酒井龍一・西山要一・植野浩三 (以上、奈良大学)、西健一郎・李タウン (以上、九州大学)、川述昭人・橋口達也・佐々木隆彦・新原正典・池辺元明・小田和利・小川泰樹・斎部麻矢 (以上、福岡県教育庁)、赤崎敏男・大塚恵治・中川寿賀子・山田朗子 (以上、八女市教育委員会)、平島勇夫・山田元樹・坂井義哉 (以上、大牟田市教育委員会)、岡美詠子 (大川市教育委員会)、塚本映子 (三潴町教育委員会)、東竜男 (山川町教育委員会)、猿渡真弓 (高田町教育委員会)、尾崎源太郎 (広川町教育委員会)、田中康信 (瀬高町教育委員会)、大島真一郎 (黒木町教育委員会)、永田寧 (立花町教育委員会)、萩原裕房・桜井康治・富永直樹・小澤太郎・白木守 (以上、久留米市教育委員会)、石井扶美子 (夜須町教育委員会)、吉留秀敏 (福岡市教育委員会)、山本信夫・城戸康利・中島恒次郎・山村信榮・井上信正・高橋学 (以上、太宰府市教育委員会)、田村悟 (直方市教育委員会)、笠原勝彦 (故人)・末吉隆弥 (以上、川崎町教育委員会)、前田達男・木嶋真治 (以上、佐賀市教育委員会) 山城敏昭 (熊本県教育委員会)、森田浩史 (宮崎県田野町教育委員会)、白岩修 (宮崎県木城町教育委員会)、古賀信幸・古賀真木子 (以上、山口市教育委員会)、村川俊明 (京都府精華町教育委員会)、狭川真一 (元興寺文化財研究所)、西川寿勝 (大阪府教育委員会)、上野裕子 (貝塚市教育委員会)、半沢幹雄・知和名明美 (以上、千葉県教育委員会)、竹内靖長 (松本市教育委員会)、田村昌宏 (石川県埋蔵文化財センター)、岡田雅人 (草津市教育委員会)、金聖範 (国立慶州文化財研究所)、李夕湖 (国史編纂委員会)

第 I 章 位置と環境

1：筑後市の位置関係

福岡県南部から佐賀県東北部に広がる筑後平野は、平坦で肥沃な土地、豊かな水資源に恵まれていて、先史時代から活発な人間生活が営まれてきた地域である。

筑後市は、一級河川である矢部川の中流右岸に位置しており、筑後平野南半部のほぼ中央にあたる。東は八女市、八女郡広川町、北は久留米市、三潴郡三潴町、西は三潴郡大木町、南は山門郡瀬高町、同三橋町に接している。市を南北に J R 鹿児島本線と国道209号線が貫き、東西に国道442号線が走る。2本の国道は、市の中央部の山ノ井で交差している。周辺都市との直線距離は、八女市5km、大川市11km、久留米市12km、大牟田市20km、福岡市45kmである。

2：自然環境

筑後市域の地形は釈迦山系から派生する「八女丘陵」と呼ばれる洪積台地と扇状地性低地で、その大部分を占めている。

市の北東部の旧洪積台地は標高30mから40mで、市域内では最も標高の高い地域である。丘陵の標高は、南に行くにつれて低くなる傾向がある。しかも、先端部は緩やかに低地に接続し、その境界が明瞭でない場合も多い。また、南西部を中心に広がる扇状地性低地は有数のクリーク地帯となっていたが、近年のほ場整備事業等でクリークは急速にその数を減少させている。

降水量については、6、7月の梅雨期に多いが、台風襲来期は場合によっては梅雨期より多いこともあり、偏異率が高い。また冬季の降水量（降雪量含む）は少なく、更に夏期の降水量は非常に不安定である。夏期は水稻耕作にとって最も水が重要な時期であるが、殆ど降らなかったり、また降りすぎたりという水害が水田灌漑用水供給の不安定性を生じさせた。これが花宗川、山ノ井川という独特の水利慣行を生み出している。矢部川の水利慣行は全国一複雑であるともいわれている。

3：歴史環境

・先土器時代

筑後平野は「筑後川の賜」であり、この肥沃な土地には古から人々が暮らしていた地域である。この筑後地域で今まで旧石器が発見された場所、遺跡は60ヶ所を超えている。しかし、明確な旧石器包含層から検出された遺跡は皆無に等しく、大半が表採か、後世の遺構への混入品である。筑後市内域でも残念ながらこの旧石器時代に関する遺跡は検出していない。しかし、表採等では蔵数坂口遺跡G地点より、角錐状石器が1点出土しており、太古のこの地に人類がいた確かな証拠といえるだろう。

・縄文時代

これまで知られていた、縄文時代の遺跡は「裏山遺跡」や「坊田・空山・石塚遺跡」に加えて、近年の発掘調査で新しい遺跡が知られるようになった。「久恵中野遺跡」や「鶴田岸添遺跡」、「志前田遺跡」や「志西野々遺跡」等である。これらの遺跡では早期のものとみられる石組炉が確認されている。いずれも市の南部域である点に注目したい。また、晩期末の夜白式土器が「常用長田遺跡」から出土している。しかし、早期以外では遺構の確認例はない。

・弥生時代

市内域において、前半期の遺跡は、その殆どが市の南部に分布する。おそらくは水田耕作を行うにあたり、より河川に近い所に住み着いたと理解するのが適当であろう。中期後半になると、市内域にまんべんなく遺跡が分布するようになり数も飛躍的に増加する。後期になると新しいムラの形成はあまり見られなくなる。これは、当時の技術で新しくムラを形成できる場所が無くなってきたのであろう。

この時代の市内域の遺跡には常用の「常用遺跡群」、「梅島遺跡」、上北島の「上北島平塚遺跡」、尾島の「裏山遺跡」、水田の「山伏遺跡」、蔵数の「蔵数遺跡群」「蔵数森ノ木遺跡」、下北島の「下北島久テ遺跡」等多数の遺跡が上げられる。

・古墳時代

この時代、八女丘陵にも多数の古墳が造築される。筑後市内域でもこの丘陵地に阿蘇凝灰岩を素材とする武装石人や、直弧文を飾した家型石棺を有する「石人山古墳」、珠文鏡や馬具等を出土した「瑞王寺古墳」、他に「千人塚古墳」、「欠塚古墳」等があげられる。

この時代のムラの生活は弥生時代とさほど変わらないが、5世紀にはいと住居端に「カマド」が造られるようになる。また、使用される土器に朝鮮半島から伝わった「須恵器」が加わるようになる。

この時代の市内域の遺跡としては蔵数の「蔵数森ノ木遺跡」、常用の「梅島遺跡」、北上島の「狐塚遺跡」、西牟田の「田佛遺跡」、高江の「高江遺跡」、欠塚の「前津塚山遺跡」等があげられる。

・奈良時代

近年の調査により、筑後市内からも西海道の一部が発見されており、ほぼ市の中央を南北に縦断する事が確認された。更に、『延喜式』に見える「葛野駅」は、筑後市内にあったと推測されている。また、筑後という地名（国名）が歴史に初見するのもこの時代である。

この時代の筑後市内の遺跡としては前津の「前津中ノ玉遺跡」、若菜の「若菜森防遺跡」、羽犬塚の「羽犬塚中道遺跡」、「羽犬塚射場ノ本遺跡」、上北島の「井原口遺跡」等があげられる。

・平安時代

桓武天皇による平安京遷都から鎌倉幕府が成立するまでの390余年を平安時代という。際限のない増税のため口分田の維持が不可能となり、三世一身の法、墾田永年私財法が開闢策として採られるが、これによって公地公民制は崩れ、新たに荘園が成立する。この荘園制は貴族や社寺のみを利するようになったが、荘園こそがこの時代の特徴といっても過言ではないだろう。

この時代の筑後市内域においての荘園の存在は、今のところ明らかではない。この時代の筑後市内域の遺跡としては、「鶴田市ノ塚遺跡」、「高江柳遺跡」、「井田堀越遺跡」等があげられる。

・中世（鎌倉・室町・戦国時代）

筑後市は平家とのゆかりの深い地域である。1185年の壇ノ浦で完敗した平家の残党や、元九州鎮定の役人であった平宗清らが落ちのびてきたという。その後1192年、源頼朝によって鎌倉に幕府が開かれ武士による政治が始まった。筑後市内においてはこの鎌倉期の1226年に水田天満宮が創建される。これに属する荘園として、現在の筑後市下妻、馬間田、富安一帯の下妻荘、並びに天満宮近辺水田の水田荘が成立する。また市の北半は、熊野の坂東寺の荘園である広川荘となっていた。

1333年、鎌倉幕府は滅亡し、後醍醐天皇による建武の新政が開始されるが、3年後には足利尊氏により室町幕府が開かれた。これより南北朝の争乱が始まる。

この当時、筑後市内域では水田荘と広川荘の間で激しい境界争いが行われた。文献に現れるのは北水田蓮信と大鳥居信高の間で行われた争いが最初である。結局これは1339年に和与をすることで

合意している。1369年、信高が境界付近に老松社を造立しようとしたところ、広川荘の熊野神社の神官らが出向いてきて妨害を働いたことをきっかけとして一段と争いが激しくなる。この争いは1381年、大鳥居亀松丸の雑掌貞蓮と広川荘の地頭代光顕の間で和与がなされ、ようやく境牟田論争について和解が成立する。

この時代の市内域の遺跡としては「長崎坊田遺跡」、「熊野屋敷遺跡」、「蔵数赤坂遺跡」、「島田外屋敷遺跡」、「井田西中野遺跡」、「上北島前田遺跡」があげられる。

参考文献

- 「梅島遺跡」 筑後市教育委員会 1992
筑後市文化財報告書第6集 「蔵数遺跡群」 筑後市教育委員会 1990
筑後市文化財報告書第3集 「瑞王寺古墳」 筑後市教育委員会 1984
筑後市文化財報告書第8集 「欠塚古墳」 筑後市教育委員会 1993
筑後市文化財報告書第1集 「狐塚遺跡」 筑後市教育委員会 1970
筑後市文化財報告書第5集 「田佛遺跡」 筑後市教育委員会 1988
筑後市文化財報告書第7集 「高江遺跡」 筑後市教育委員会 1991
筑後市文化財報告書第4集 「前津中ノ玉遺跡」 筑後市教育委員会 1987
筑後市文化財報告書第17集 「羽犬塚射場ノ本遺跡」 筑後市教育委員会 1995
筑後市文化財報告書第10集 「四ヶ所古四ヶ所遺跡」 筑後市教育委員会 1994
「山樞窩」 筑後市教育委員会・筑後郷土史研究会 1979
「筑後市史」 筑後市史編纂委員会 1998

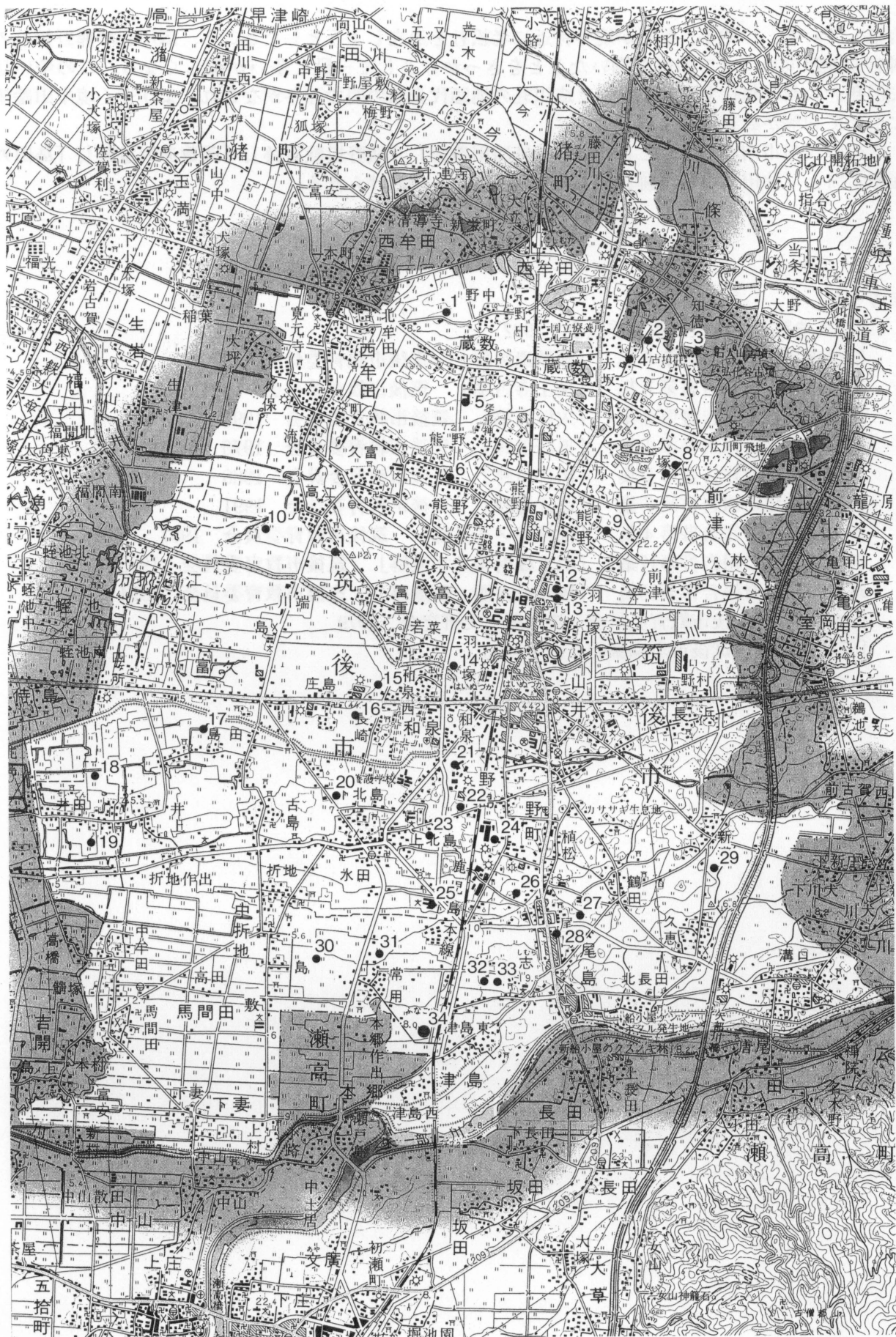


Fig.1 周辺遺跡分布図 (1/50,000)

周辺遺跡分布図 遺跡名一覧

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 田佛遺跡 | 18 井田西中野遺跡 |
| 2 千人塚古墳（一卜塚古墳） | 19 井田堀越遺跡 |
| 3 石人山古墳 | 20 下北島久テ遺跡 |
| 4 蔵数赤坂遺跡 | 21 井原口遺跡 |
| 5 蔵数森ノ木遺跡（蔵数遺跡群） | 22 狐塚遺跡 |
| 6 熊野屋敷遺跡 | 23 上北島前田遺跡 |
| 7 前津塚山遺跡 | 24 上北島平塚遺跡 |
| 8 欠塚古墳 | 25 水田山伏遺跡 |
| 9 前津中ノ玉遺跡 | 26 裏山遺跡 |
| 10 高江柳遺跡 | 27 鶴田岸添遺跡 |
| 11 高江遺跡 | 28 鶴田市ノ塚遺跡 |
| 12 羽犬塚中道遺跡 | 29 久恵中野遺跡 |
| 13 羽犬塚射場ノ本遺跡 | 30 梅島遺跡 |
| 14 若菜森坊遺跡 | 31 常用長田遺跡（常用遺跡群）※ |
| 15 長崎坊田遺跡 | 32 志西野々遺跡 |
| 16 坊田・空山・石塚遺跡 | 33 志前田遺跡 |
| 17 島田外屋敷遺跡 | 34 津島皿ヶ町遺跡 |

※ 常用長田遺跡（31）は、当市教育委員会刊行の「長崎坊田遺跡（筑後市文化財調査報告書第23集）1999」の中で常用北長田遺跡（No.93・No.96）としていたが、所在地が筑後市大字常用字長田であることが判明したため、常用長田遺跡とあらためる。

第Ⅱ章

調査成果



Fig.2 津島皿ヶ町遺跡第1次調査位置図 (1/2,500)

今回の調査では、水路部分のみの調査となったことから、当然の制約として非常に細長い調査区を設定せざるを得なかった。また水路の形状から、遺構の分布する範囲のうち、調査区は東端で鋭角に屈折するL字形となった。したがって、多くの遺構が遺構全体の掘削を断念しており、部分掘削となっている。調査区のおおよその大きさは、東西方向の部分が幅3m延長40mで、南北方向は幅2m延長35mであった。ただし西端部と南端部は、大きな溜まり状の遺構や溝状遺構を確認したため、それぞれ南と西に調査区を一部拡張している。

また、遺跡の全体像についても、それを論及するにはとうてい及ばず、極めて雑薄な調査成果のみを報告することを、はじめにお断りしたい。また、遺物については、弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての限られた時期幅の中に収まる遺物群であったため、可能な限り図化して掲載した。そのために、かなりの細片であっても図化していることを留意されたい。

(1)遺構

今回の調査では、2条の溝状遺構・掘立柱建物2棟・廃棄土壙3基などを確認した。以下、遺構種類別に報告したい。

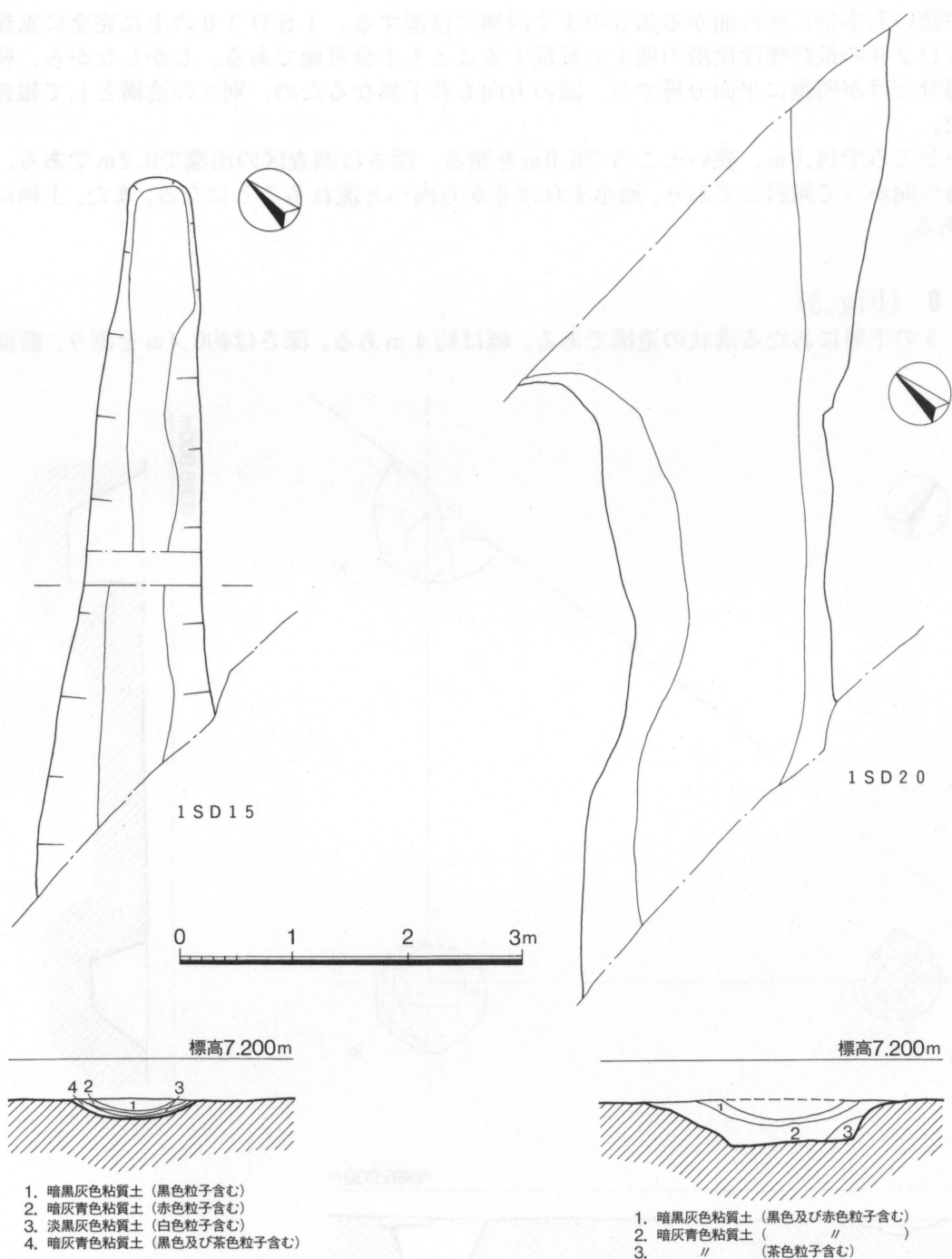


Fig.3 溝状遺構 (1SD15・1SD20) 実測図 (1/60)

溝状遺構

溝状遺構は2条を確認した。ただし、完全に重複するため、1遺構の埋土の違いと理解すべきかも知れない。ただ、調査時の所見として、埋土の状況が際立って異なっていて、しかも方向が若干ずれることから別遺構として調査を行った。

1SD15 (Fig.3, Pl.2)

調査区が深いL字型に折れ曲がる部分のすぐ西側に位置する。1SD20の上に完全に重複しており、1SD20の最終埋没段階の埋土と解釈することも十分可能である。しかしながら、検出段階でその部分だけが明瞭に平面分層でき、溝の方向も若干異なるため、別々の遺構として報告することとした。

幅は広いところで14.0m、狭いところで6.0mを測る。深さは調査区の南端で0.2mである。底面は北から南へ向かって傾斜しており、通水すれば北から南へと流れることになる。また、主軸はN-49°-Eである。

1SD20 (Fig.3)

1SD15の下層にあたる溝状の遺構である。幅は約4mある。深さは約0.4mを測り、断面はお

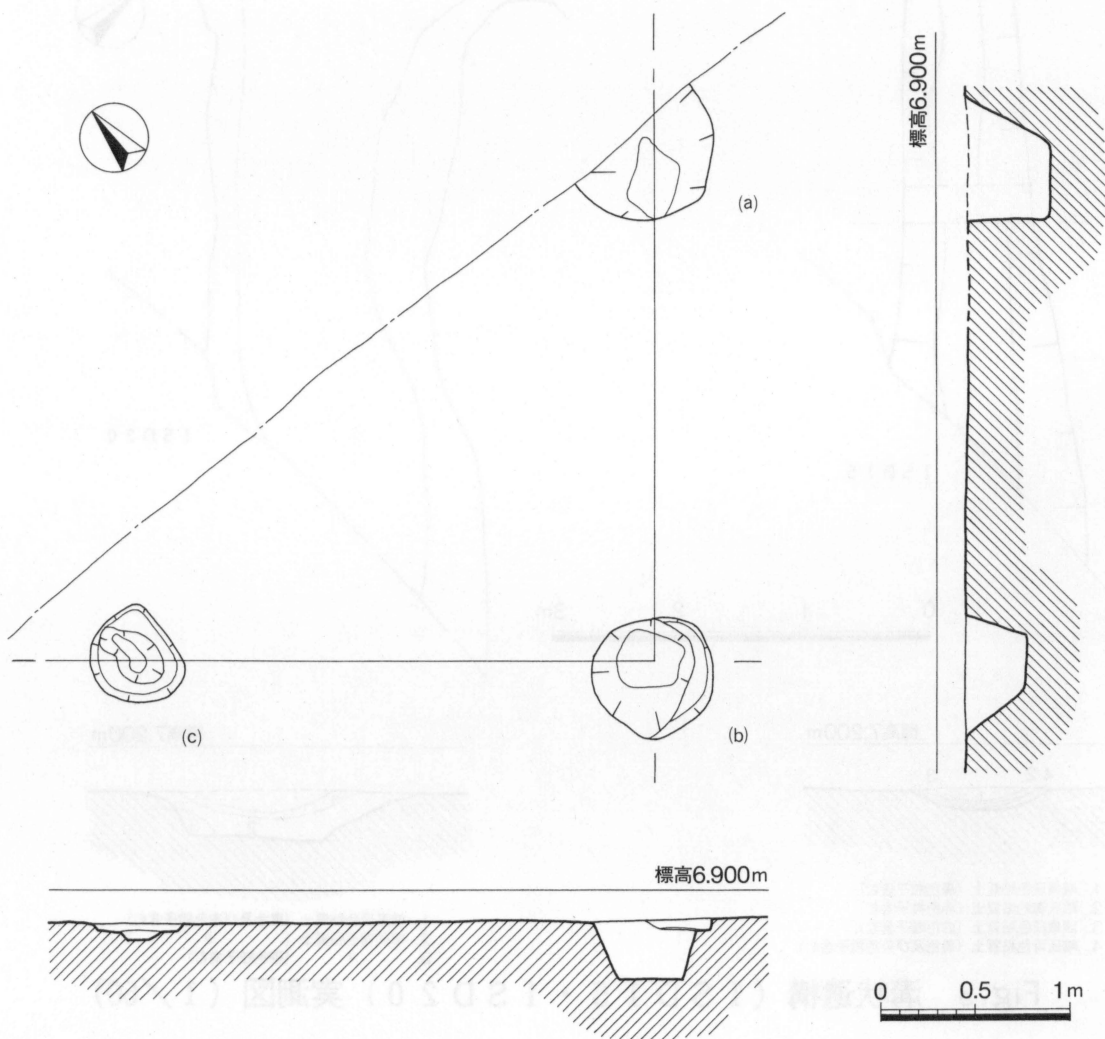


Fig.4 1SB22実測図(1/40)

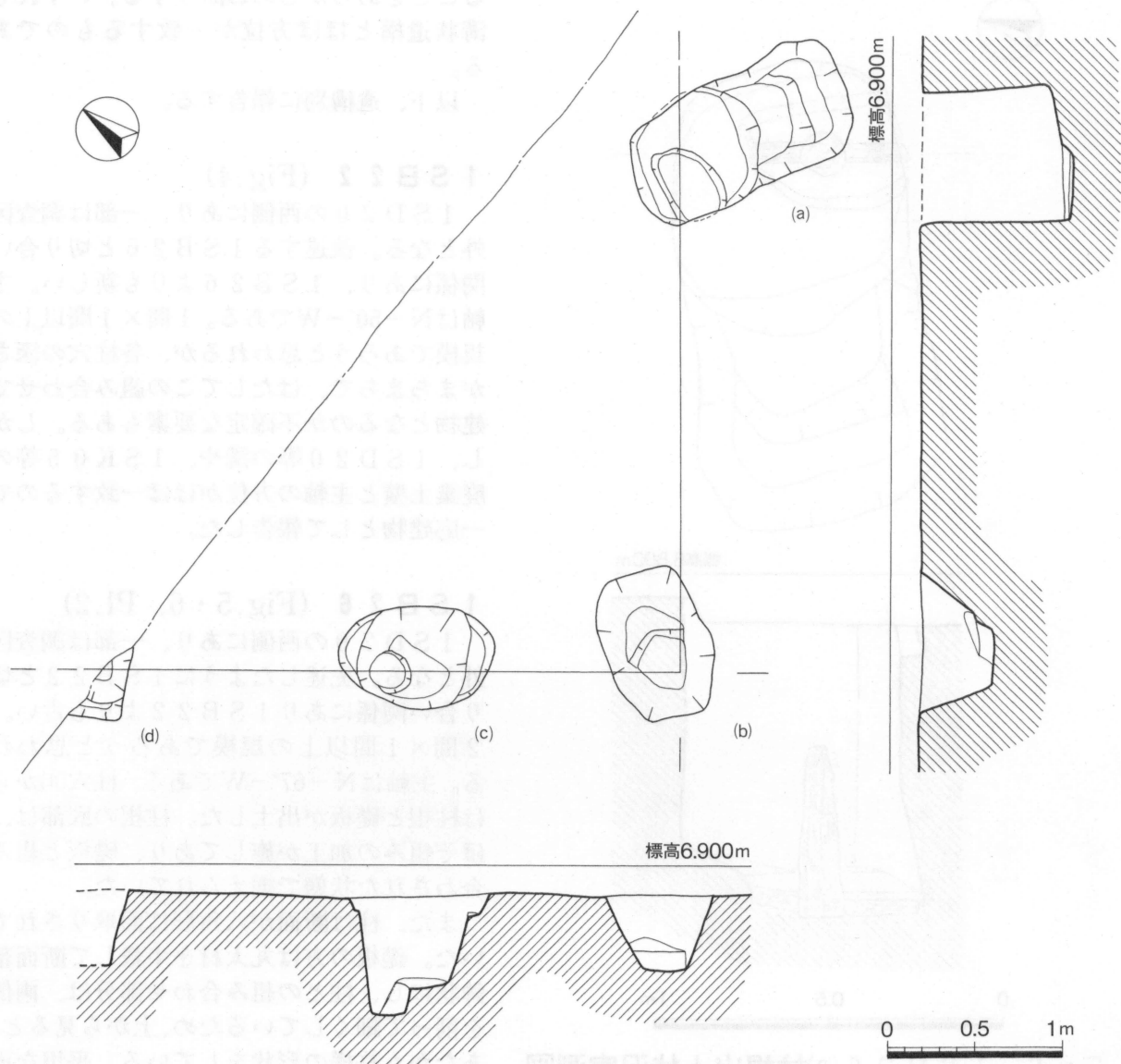


Fig.5 1SB26実測図(1/40)

よそ逆台形を呈している。また、主軸はN-41°-Eである。底面は1SD15とは異なり、ほぼ平坦であり一定方向への傾斜は認められない。

土層断面から埋没過程を復原すると、最底1回の掘り直しが認められるようである。(土層図の3層目から2層目の間)ただし、これが人為的なものか、自然の流水によるものかは不明である。

柵列状遺構

今回は、柵列となる可能性のある遺構を、1遺構のみ報告する。1SA09は調査区の西寄りにあり、柵列は南北方向に展開していて、主軸の方位はN-8°-E。柱間は約1.8mで調査区の中では2間を確認できる。柱穴の深さは0.1m~0.2mである。

掘立柱建物

今回、掘立柱建物は2棟を報告するが、建物として認知できるかどうかきわどいものも含んでい

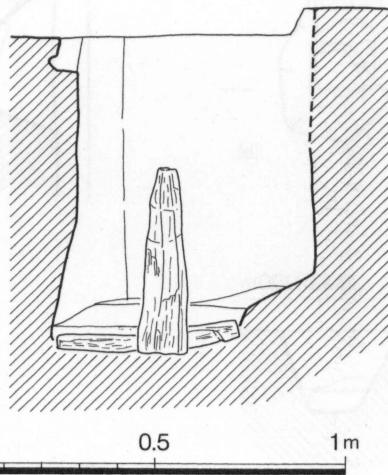
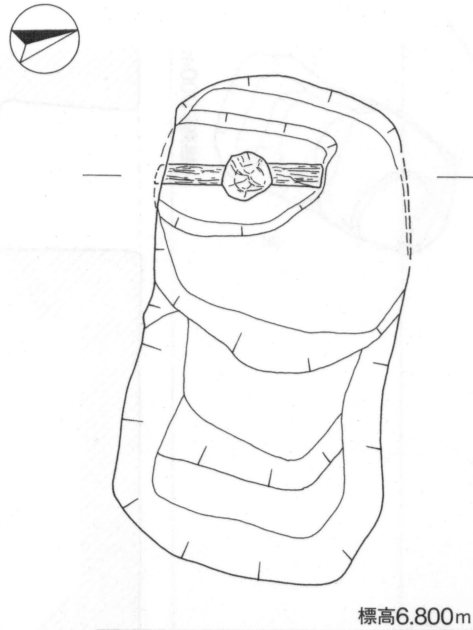


Fig.6 1SB26(a)柱根出土状況実測図
(1/20)

した痕跡は認められなかった。

廃棄土壙

廃棄土壙は、今回の調査で5基確認した。しかし、うち1基は大半が調査区外であったため図示していない。

以下、図示可能な4基を中心に報告する。

1SK05 (Fig.7、Pl.4・5)

東西方向の調査区のほぼ中央にあり、平面形はやや崩れた長方形である。主軸はN-31°-Wである。主軸方向に1.7m、短軸方向に0.9mを測り、深さは0.5mである。中央部西寄りが一段低くなっている。南東隅に小さな棚を地山削りだしでつくっている。

埋没過程は大きく3段階に分けられるため、それに従って層序別に掘り下げて、出土遺物も層序ごとに取り上げた。

ることをあらかじめお断りする。いずれも溝状遺構とほぼ方位が一致するものである。

以下、遺構別に報告する。

1SB22 (Fig.4)

1SD20の西側にあり、一部は調査区外となる。後述する1SB26と切り合い関係にあり、1SB26よりも新しい。主軸はN-50°-Wである。1間×1間以上の規模であろうと思われるが、各柱穴の深さがまちまちで、はたしてこの組み合わせで建物となるのか不確定な要素もある。しかし、1SD20等の溝や、1SK05等の廃棄土壙と主軸の方位がほぼ一致するので一応建物として報告した。

1SB26 (Fig.5・6、Pl.2)

1SD20の西側にあり、一部は調査区外となる。先述したように1SB22と切り合い関係にあり1SB22よりも古い。2間×1間以上の規模であろうと思われる。主軸はN-67°-Wである。柱穴(a)からは柱根と礎板が出土した。柱根の底部は、ほぞ組みの加工が施してあり、礎板と組み合わせられた状態で据えられていた。

また、柱は断面が八角形に面取りされていた。礎板の方は丸太材を半裁して断面蒲鉾状にし、柱との組み合わせ部分は、両側を削って細くしているため、上から見ると、あたかも杵様の形状をしている。平坦な面を下にして柱と組み合わせられており、組み合わせで据えてあるだけで特に両者を固定

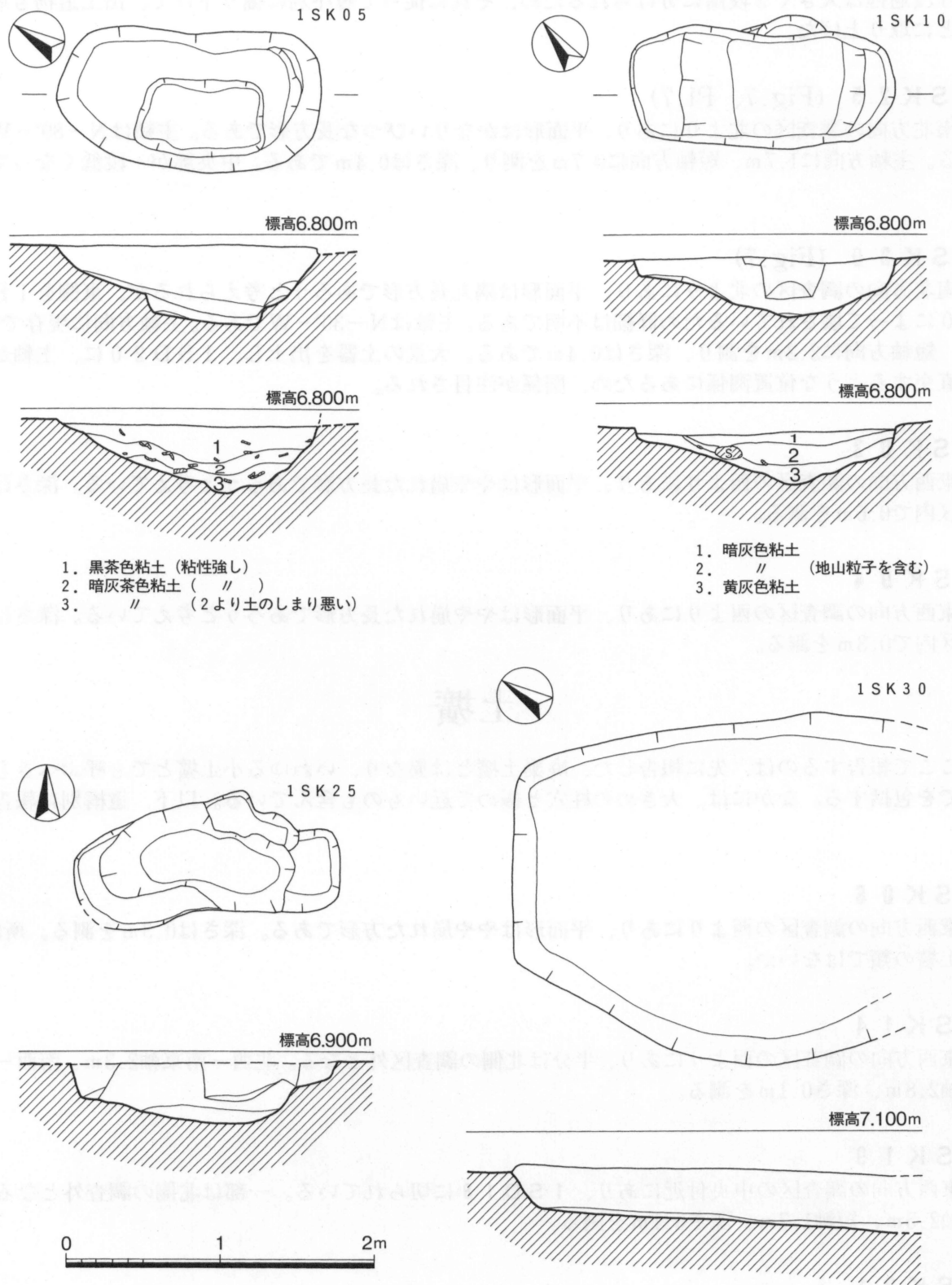


Fig.7 廃棄土壌実測図 (1/40)

1SK10 (Fig.7、Pl.5・6)

東西方向の調査区の西よりにあり、平面形はやや崩れた長方形である。主軸はN-43°-Wである。主軸方向に1.7m、短軸方向に0.7mを測り、深さは0.4mである。中央部が一段低くなっている。

埋没過程は大きく3段階に分けられるため、それに従って層序別に掘り下げて、出土遺物も層序ごとに取り上げた。

1SK25 (Fig.7、Pl.7)

南北方向の調査区の北よりにあり、平面形はかなりいびつな長方形である。主軸はN-89°-Wである。主軸方向に1.7m、短軸方向に0.7mを測り、深さは0.4mである。中央部が一段低くなっている。

1SK30 (Fig.7)

南北方向の調査区の北よりにあり、平面形は隅丸長方形であろうと考えられるが、東側を1SD20によって壊されているため詳細は不明である。主軸はN-30°-Wである。主軸方向に現存で2.5m、短軸方向に2.2mを測り、深さは0.4mである。大量の土器を出土し、1SD20に、主軸がほぼ直交するような位置関係にあるため、関係が注目される。

1SK03

東西方向の調査区の西よりにあり、平面形はやや崩れた長方形であろうと考えている。深さは調査区内で0.6mを測る。

1SK04

東西方向の調査区の西よりにあり、平面形はやや崩れた長方形であろうと考えている。深さは調査区内で0.3mを測る。

土壙

ここで報告するのは、先に報告した、廃棄土壙とは異なり、いわゆる小土壙とでも呼ぶべきものまでを包括する。なかには、大きめの柱穴と極めて近いものも含んでいる。以下、遺構別に報告する。

1SK06

東西方向の調査区の西よりにあり、平面形はやや崩れた方形である。深さは0.3mを測る。所謂、小土壙の類ではないか。

1SK14

東西方向の調査区の西よりにあり、半分は北側の調査区外となる。北西-南東軸2.3m、南西-北東軸2.8m、深さ0.1mを測る。

1SK19

東西方向の調査区の中央付近にあり、1SD18に切られている。一部は北側の調査区外となる。長軸2.5m、短軸1.7m、深さ0.1mを測る。

1SK21

東西方向の調査区の中央付近にあり、1SK19に切られている。長軸0.7m、短軸0.6m、所謂、小土壙の類ではないか。

1SK24

東西方向の調査区の中央にあり、半分は南側の調査区外となる。平面形はやや崩れた方形である。

深さは0.2mを測る。所謂、小土壙の類ではないか。

1SK34

南北方向の調査区の北よりにあり、半分は西側の調査区外となる。平面形はやや崩れた円形である。深さは0.8mを測る。

1SK36

南北方向の調査区の中央やや北よりにあり、1SK25に切られている。平面形はやや崩れた方形で、深さは0.3mを測る。所謂、小土壙の類ではないか。

1SK39

南北方向の調査区の中央やや南よりにあり、平面形はやや崩れた方形である。深さは0.5mを測る。所謂、小土壙の類ではないか。

1SK43

南北方向の調査区の中央にあり、半分は西側の調査区外となる。大きな溜まり状の遺構である。調査区内で南北5.5m、東西軸1.8m、深さ0.1mを測る。

1SK44

南北方向の調査区の中央やや北よりにあり、深さは0.2mを測る。所謂、小土壙の類ではないか。

1SK46

南北方向の調査区の南よりにあり、半分は西側の調査区外となる。平面形はやや崩れた長方形である。調査区内で、長軸1.0m、短軸0.5m、深さ0.7mを測る。

1SK47

東西方向の調査区の東よりにあり、1SK30に切られている。所謂、小土壙の類ではないかと思われる。

1SK51

東西方向の調査区の中央やや西よりにあり、半分は北側の調査区外となる。所謂、小土壙の類ではないかと思われ、調査区内で、長軸0.6m、短軸0.4m、深さ0.3mを測る。

1SK53

東西方向の調査区の中央にあり、長軸0.6m、短軸0.4m、深さ0.6mを測る。所謂、小土壙の類ではないかと思われる。

1SK58

南北方向の調査区の北よりにあり、平面形はやや崩れた長方形である。長軸1.1m、短軸0.6m、深さ0.5mを測る。

1SK64

南北方向の調査区の北よりにあり、平面形は円形である。直径は0.6m、深さは0.5mを測る。

1SK69

南北方向の調査区の南よりにあり、長軸0.8m、短軸0.4m、深さ0.2mを測る。平面形は、南北方向がわずかに長い長方形である。

1SK70

南北方向の調査区の南よりにあり、平面形は、南北方向がわずかに長い長方形である。長軸1.4m、短軸0.6m、深さ0.2mを測る。廃棄土壌の可能性がある。

1SK71

南北方向の調査区の南よりにあり、1SD75を切っている。調査区内で長軸1.2m、深さ0.4mを測る。

1SK74

東西方向の調査区の中央やや西よりにあり、平面形は、東西方向が長い長方形である。廃棄土壌の可能性がある。

柱穴

本来、建物や柵列として認知できない柱穴は単独で報告しないが、出土遺物を報告する関係でここに遺構の概略を報告する。

1SP42

南北方向の調査区の中央やや西よりにあり、1SK43を切っている。深さは0.2mを測る。調査区内には、関連する他の柱穴は見当たらない。

土器溜まり

調査区の西端で、大きな落ち状の遺構を確認した。多量の土器を包含していたので、土器溜まりとして報告したい。

1SD35

南北方向の調査区の中央やや西端にあり、深さは調査区内で0.5mを測る。調査区内で確認できた規模は南北5.4m、東西10.2mである。

(2)出土遺物

出土遺物には、弥生土器・土師器・須恵器などがある。以下、出土遺構別に紹介したい。なお、遺物の個々についての詳細については、遺物観察表を参照されたい。

1SD01 出土遺物 (Fig.8)

弥生土器が出土した。図示できるのは、甕1点のみである。口縁部は逆L字状を呈する。所謂「須久式」系統の甕であろう。口縁部の上面は、ほぼ平坦で水平である。屈曲部の内側は、わずかにつまみ出している。

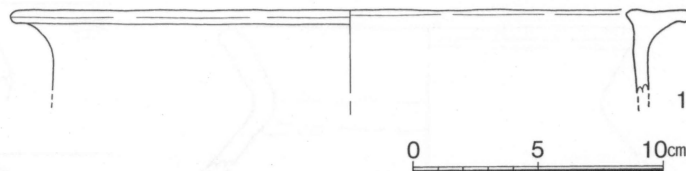


Fig.8 1SD01 出土遺物実測図 (1/3)

1SD15 出土遺物 (Fig.9)

弥生土器が出土した。器種は甕・壺・鉢・器台・高坏・面子がある。

2~20は甕である。2は口縁部を深い「く」の字状に折曲げるタイプで、口縁端部は水平に近くなる。3~5は口縁部が逆L字状を呈する。1SD15出土の1の資料と同タイプにあたる。ただし5は、口縁端部がやや反り上がるタイプである。6~14は口縁部を「く」の字状に折曲げるタイプである。そのうち6・7は器壁が厚く、口縁端部に面をもつが、8~14は口縁部を丸くおさめる。また、13は口縁端部を肥厚させるもので、14には屈曲の内側に稜線がみられる。15・16は体部の小片で、ともに外面に貼付け突帯を有する。17~19は底部の小片である。20は口縁部の小片で緩やかに屈曲する。

22~24は鉢である。24は「く」の字状の口縁部をもつ。

25は壺の底部である。

26・27は器台の口縁部である。いずれも口縁端部に面を持つタイプで、26は端部を内側につまみだし、27はつまむことによって端部を薄く仕上げている。

28~30は高坏である。28は口縁部の小片で、端部には刻み目を施す。29・30はともに脚底部の小片である。

31~33は面子ではないかと考えている。

1SD20 出土遺物 (Fig.10~12)

弥生土器・土師器・石製品が出土した。器種は、弥生土器が甕・鉢・器台・高坏・ミニチュア・面子などがあり、土師器には甕・浅鉢などがある。

34~50は弥生土器の甕である。34~37は口縁部が逆L字状を呈するもので、所謂「須久式」系統の土器にあたるが、36は口縁端部がやや反り上がるタイプである。37は、「く」の字状に折曲げるタイプに、やや近いタイプである。38~43は口縁部を「く」の字状に折曲げるタイプである。ただし、38はかなり器壁が厚い。また、41は口縁部が極端に薄く、42は口縁部が水平近くまで深く折り曲げられている。44~49は底部である。44は所謂上げ底状の底部をもつ資料で、比較的古相を呈しているのではないかと考えている。また、49は凸レンズ状の座りの悪い底部となるものである。

51~59は、土師器の甕であると考えているが、一部には弥生終末期の土器を含んでいる可能性がある。51は大型の甕で、口縁部の中程の内外面に小さな段を有する。これは二重口縁を模したものであろう。56はほぼ完形で、口縁端部を僅かにつまみ上げ、体部が倒卵形を呈する、典型的な布留系の甕である。内面も屈曲部のやや下から以下は、篋ケズリを施している。60は大型の甕であるが、

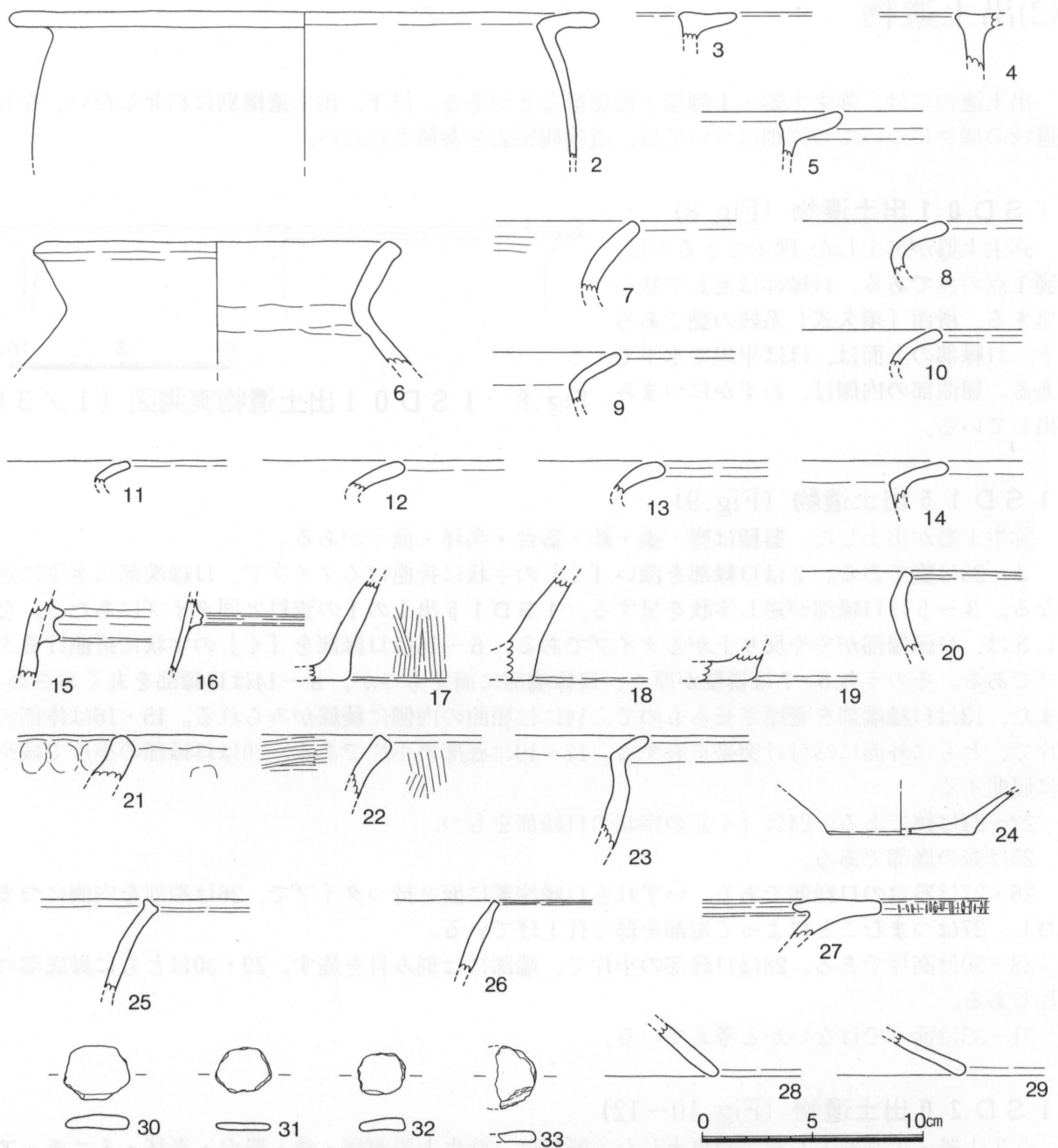


Fig.9 1SD15出土遺物実測図(1/3)

51と異なり体部内面には56と同じく篋ケズリを施している。

61~64は土師器の浅鉢である。61・62は口縁部は大きく外方に開くが、62は途中に段を持ち、あたかも二重口縁のようである。

65・66は土師器の鉢である。66は大きな口縁部が特徴的である。

67・68は弥生土器の鉢である。ともに体部が内湾し、平底である。外面には刷毛目を施す。68は内面に工具をあてた痕跡が認められる。

69~72は弥生土器の器台である。73~76は高坏であるが、74は弥生土器、その他は土師器である。73は大きく開く体部を持ち、比較的大型のものである。また、77は台付鉢であろうと考えている。

78・79はミニチュア土器でともに手づくね成形である。78は口縁部が波打っており、成形が荒い印象を受ける。

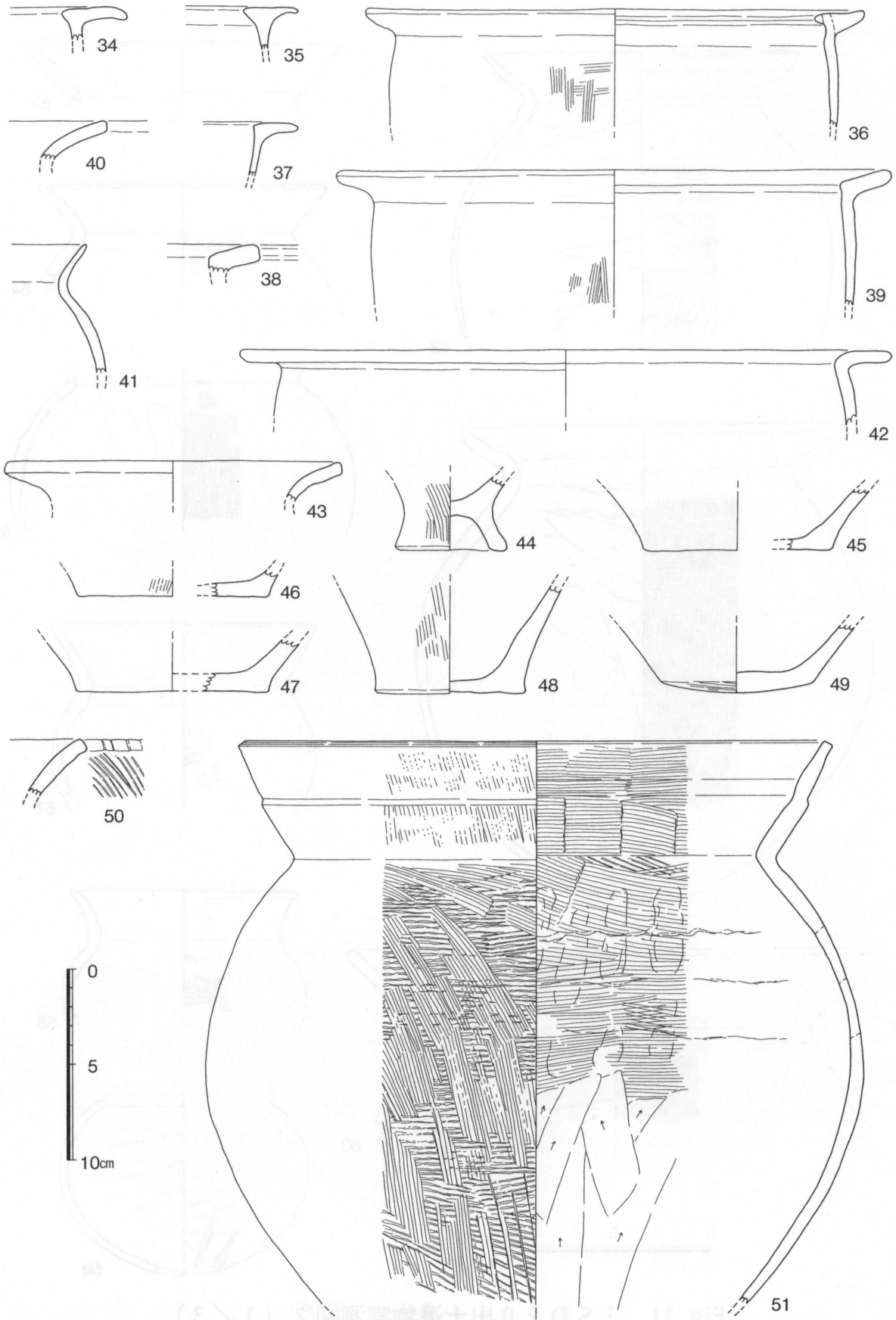


Fig.10 1SD20 出土遺物実測図① (1/3)

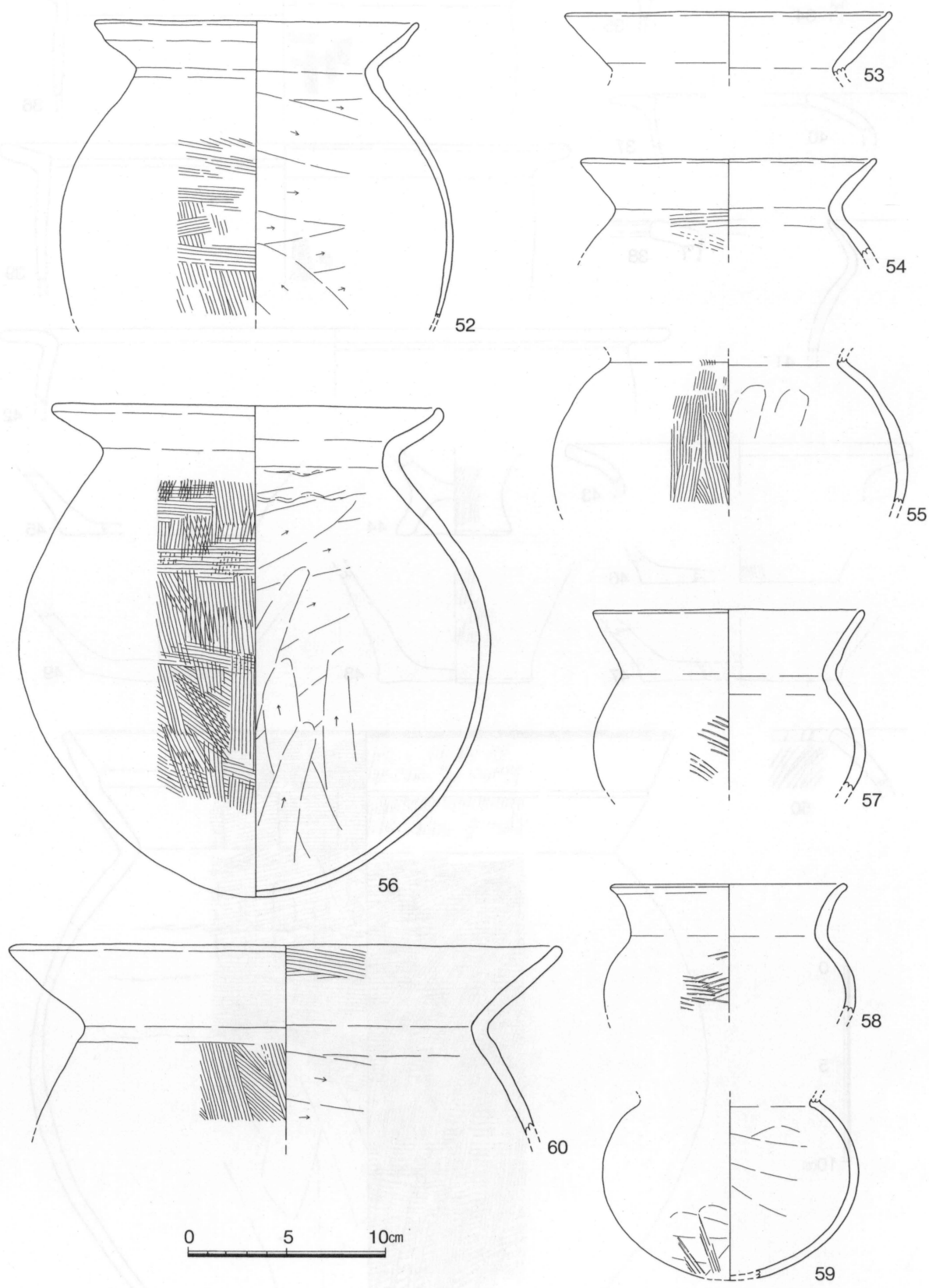


Fig.11 1SD20出土遺物実測図②(1/3)

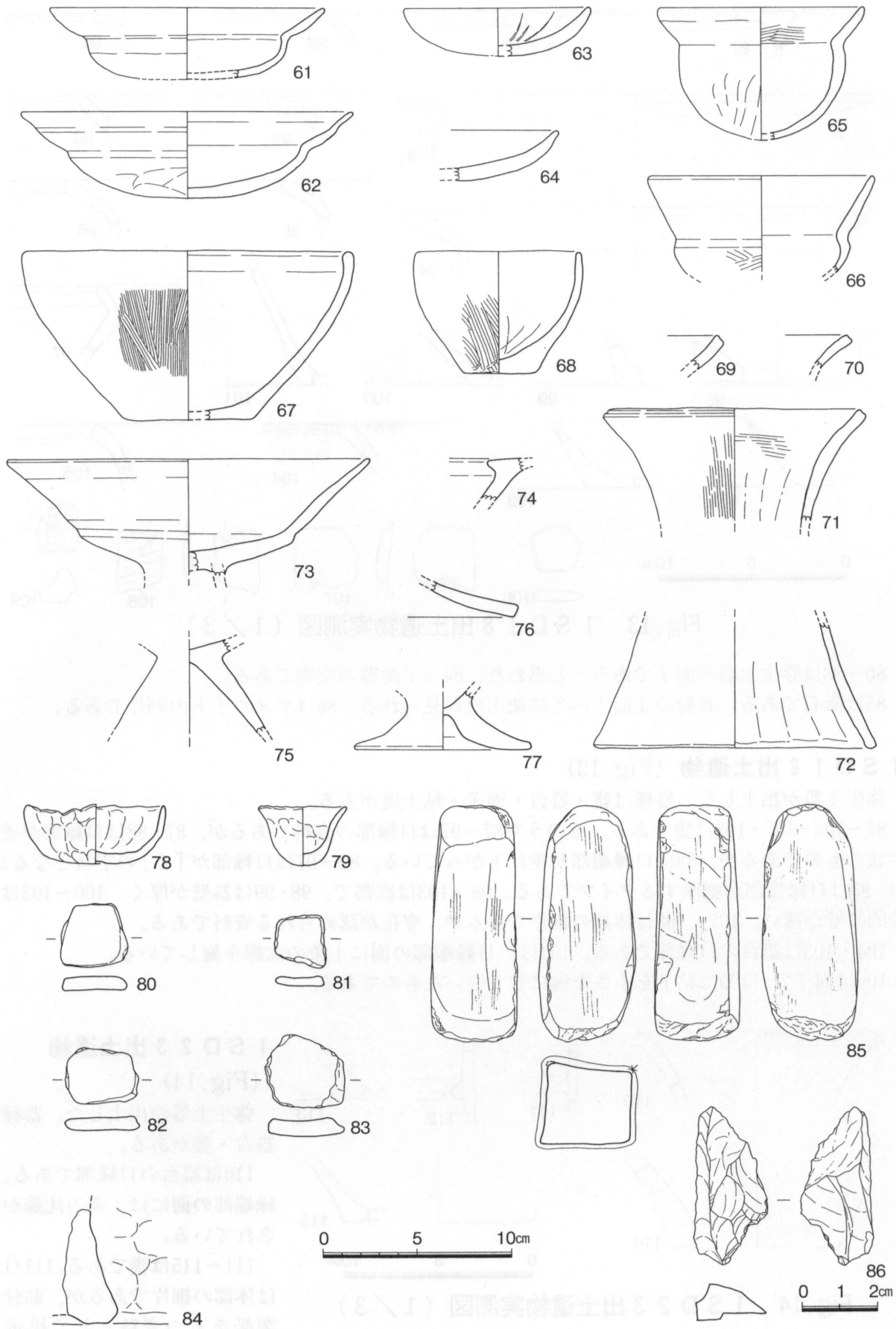


Fig.12 1SD20出土遺物実測図③ (1/3・2/3)

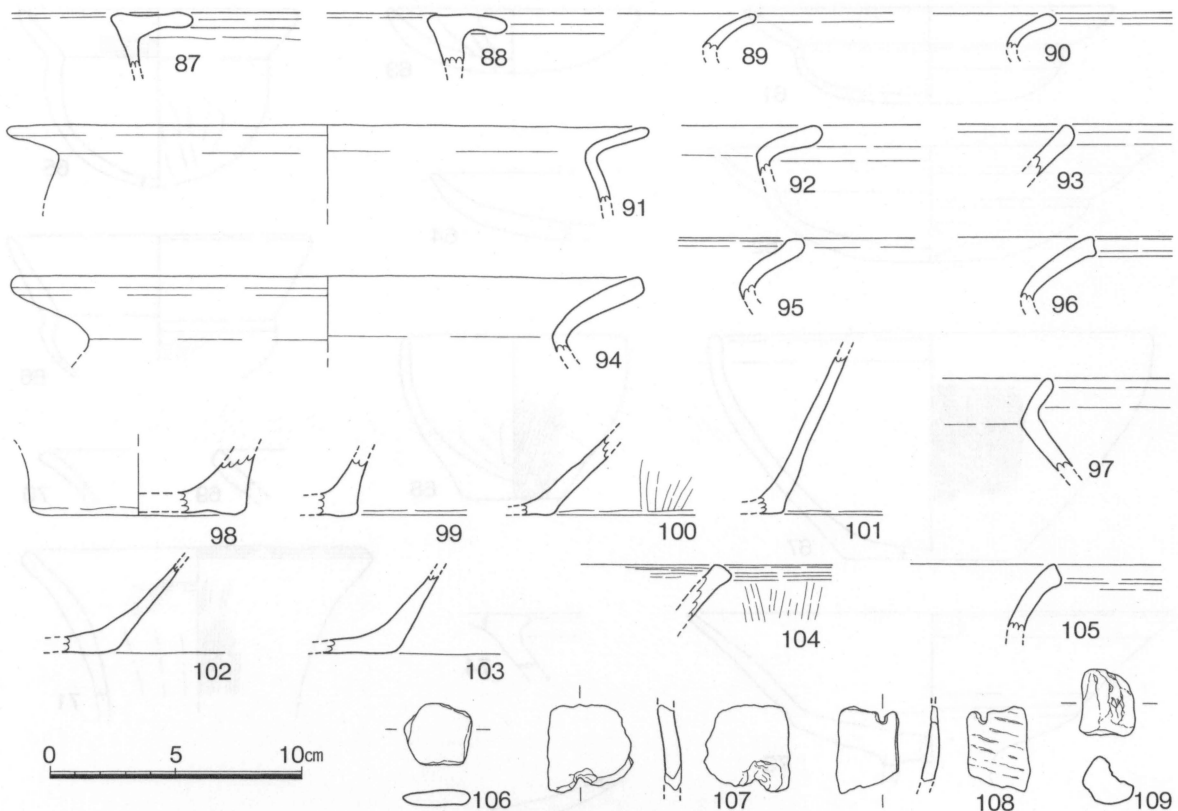


Fig.13 1SD18 出土遺物実測図 (1/3)

80~83は弥生土器の面子であろうと思われ、84は土師器の支脚である。
85は砥石である。長軸の4面すべてに使用痕が見られる。86はサヌカイトの剥片である。

1SD18 出土遺物 (Fig.13)

弥生土器が出土した。器種は甕・器台・面子・粘土塊がある。

87~103・107・108は甕である。そのうち87~97は口縁部の資料であるが、87・88は口縁部が逆L字状のものであるが、89は口縁端部が垂れ下がっている。89~97は口縁部が「く」の字状となるが、94・95は口縁端部が肥厚するタイプである。98~103は底部で、98・99は器壁が厚く、100~103は比較的器壁が薄い。107・108は体部の細片であるが、穿孔が認められる資料である。

104・105は器台の口縁部である。104は、口縁端部の面に1条の沈線を施している。

106は面子で、109は粘土を小さな塊にして焼いたものである。

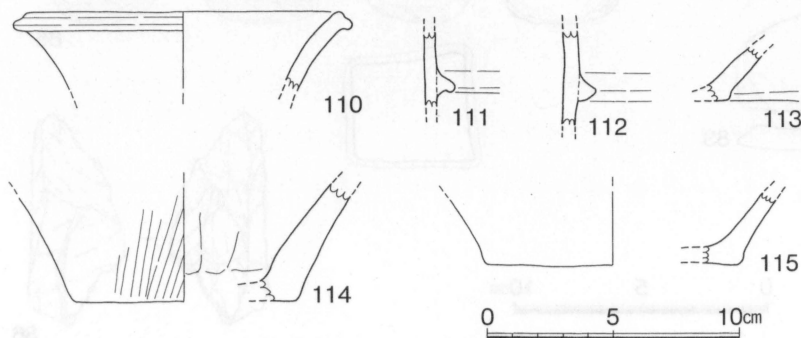


Fig.14 1SD23 出土遺物実測図 (1/3)

1SD23 出土遺物

(Fig.14)

弥生土器が出土した。器種は器台・甕がある。

110は器台の口縁部である。口縁端部の面には1条の沈線が施されている。

111~115は甕である。111・112は体部の細片であるが、貼付け突帯をもつ資料として提示し

た。

1SD41 出土遺物 (Fig.15)

弥生土器が出土した。器種は、甕・器台・鉢・面子がある。

116~120は甕である。すべて口縁部の資料で、116・117は口縁部が逆L字状で118~120は「く」の字状である。120は折曲げ部の内側に緩い稜線が認められる程度に屈曲させている。

121は器台の底部である。底端部に明瞭な面を持つが、その面は接地することはない。

122・123は鉢である。123は口縁端部直下の内面に沈線状の凹みが1条認められる。

124・125は面子ではないかと考えられる。

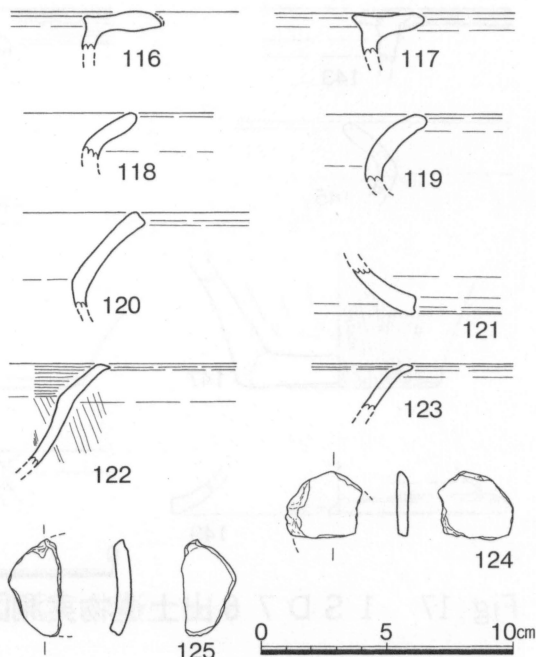


Fig.15 1SD41 出土遺物実測図 (1/3)

1SD75 出土遺物 (Fig.16)

弥生土器が出土した。器種は、甕・器台がある。

126~139は甕である。136~139は口縁部の資料である。126~129は口縁部が逆L字状を呈するものである

が、128・129は口縁端部が垂れ下がるタイプである。130は所謂「須久式」土器の逆L字状口縁とは異なり、小さな逆L字状を呈する口縁部をもつ。また口縁部分の成形も、一旦逆L字状に折曲げた後、再び内側に折返して全体を肥厚させている。131~135は「く」の字状の口縁部をもつタイプである。136・137の口縁部は逆L字状を呈するものの、端部を大きく上方に反り上げて、断面形状では一見「く」の字状にも見える。折曲げ部の内側を観察すると、逆L字状口縁をもつタイプと同じ手法でつまみ出しを行っており、成形技法的には、所謂「須久式」土器に近いものがある。また、

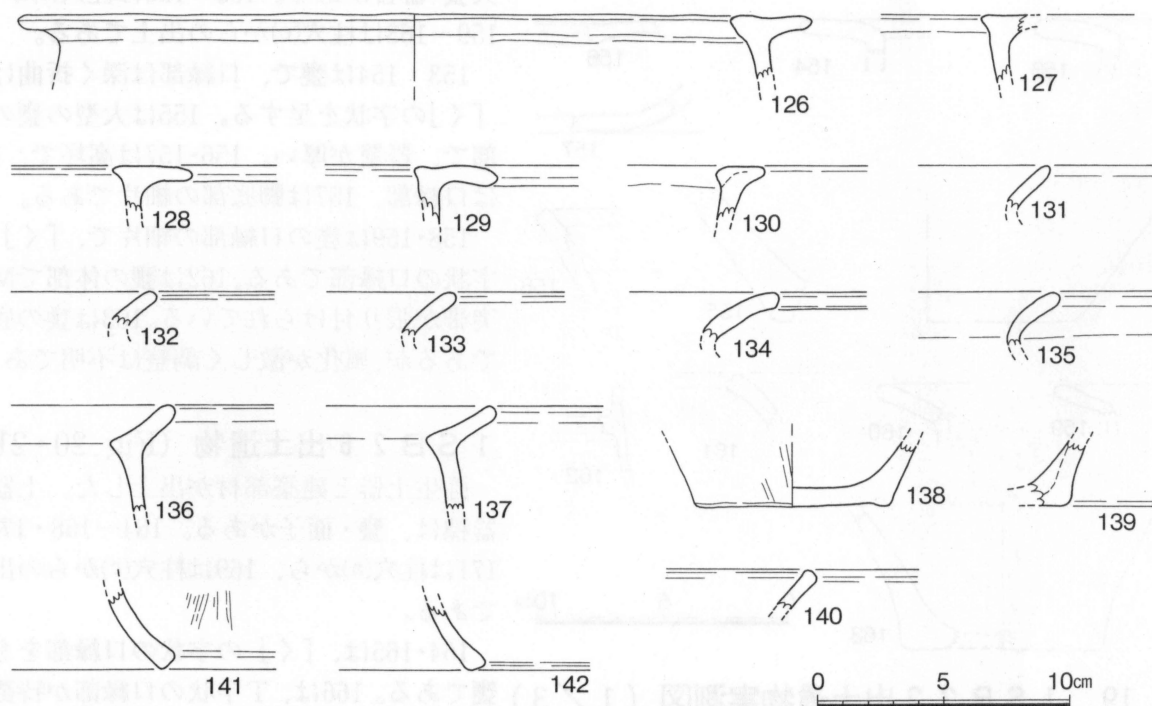


Fig.16 1SD75 出土遺物実測図 (1/3)

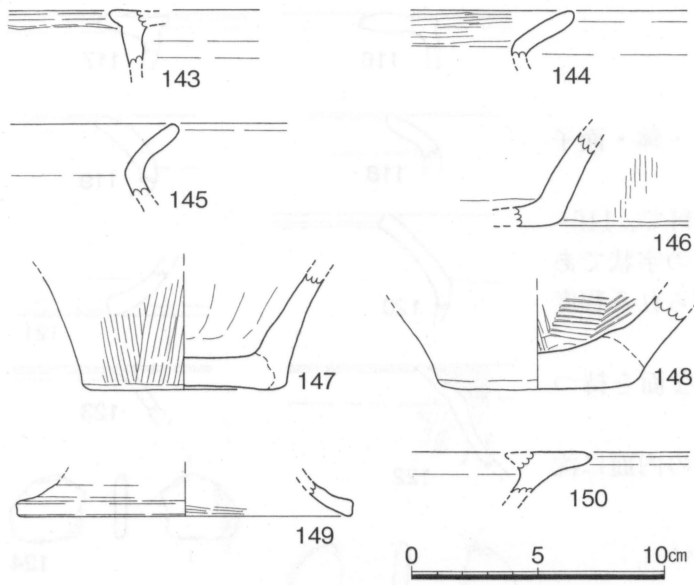


Fig.17 1SD76出土遺物実測図(1/3)

138・139は底部の細片である。

140~142は器台である。140は口縁部で他の2点は底部の細片である。ともに底端部に面を持つが、141の底端部の面がまったく接地せずに外方を向いているのに対し、142は接地こそしないものの、面はかなり水平に近くなっている。

1SD76出土遺物

(Fig.17)

弥生土器が出土した。器種は、甕・高環・器台がある。

143~148は甕である。143~145は口縁部の細片で、146~148は底部である。

149は高環の口縁部で、150は器台の底部資料である。

1SA09出土遺物 (Fig.18)

弥生土器が出土した。器種は、甕・鉢がある。

151は柱穴(c)出土で、甕の口縁部である。細片であるが、「く」の字状の口縁が特徴である。152は柱穴(a)の出土で、鉢の口縁部であろう。

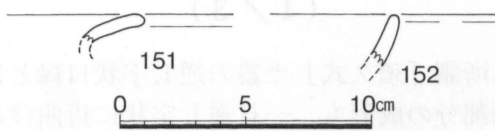


Fig.18 1SA09出土遺物実測図(1/3)

1SB22出土遺物 (Fig.19)

弥生土器が出土した。器種は、甕・高環・大甕・器台がある。153~158は柱穴(b)から、159~163は柱穴(c)からの出土である。

153・154は甕で、口縁部は深く折曲げた「く」の字状を呈する。155は大型の甕の底部で、器壁が厚い。156・157は高環で、156は口縁部、157は脚底部の細片である。

158・159は甕の口縁部の細片で、「く」の字状の口縁部である。162は甕の体部でM字突帯が張り付けられている。163は甕の底部であるが、風化が激しく調整は不明である。

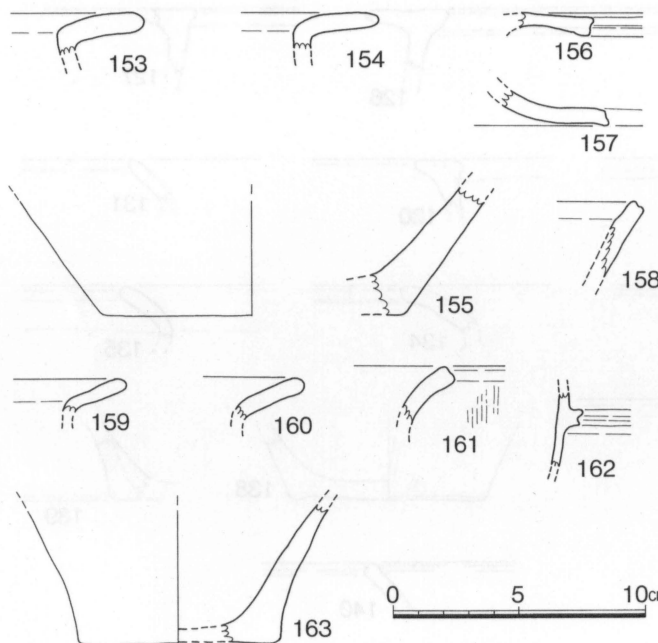


Fig.19 1SB22出土遺物実測図(1/3)

1SB26出土遺物 (Fig.20・21)

弥生土器と建築部材が出土した。土器の器種は、甕・面子がある。164~168・170・171は柱穴(a)から、169は柱穴(c)からの出土である。

164・165は、「く」の字状の口縁部をもつ甕である。166は、T字状の口縁部が特徴となる甕の細片である。167は甕の口縁部の資

料である。

168は、甕の体部を再加工した、面子ではないかと考えている。

169は、逆L字状の口縁部である。

170は柱根、171はそれに組み合わされた礎板である。

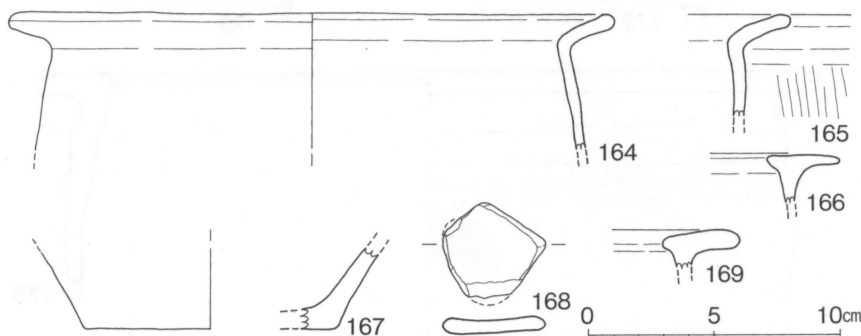


Fig.20 1SB26出土遺物実測図①(1/3)

1SK05出土遺物

(Fig.22~26)

出土したのはすべて弥生土器である。器種は、甕・高坏・器台・粘土塊がある。遺構埋土の掘削にあたっては、まず半裁して土層断面で埋没状況の確認をしてから層序にしたがって掘りすすめた。出土遺物もその順に報告したい。

・半裁時出土遺物

(Fig.22)

半裁時出土の遺物はすべて弥生土器で、甕・器台・高坏・粘土塊がある。

172~185は甕である。172~175は口縁部が逆L字状を呈するもので、175は口縁端部が垂れ下がるタイプ

である。176~180は口縁部が「く」の字状を呈するもので、179と180は口縁端部に面を有する。さらに、180は口縁端部をつまみ上げており、全面に丹塗りを施している。また、胎土も精良である。

186は器台の底部である。

187~190は高坏の口縁部の資料で187・188は全面に丹塗りを施している。また、188・189は胎土も精良である。

191は粘土塊で、精良な胎土を用いていて、焼成も良好である。

・I層出土遺物 (Fig.23)

I層出土の遺物もすべて弥生土器で、甕・高坏・器台・粘土塊がある。

192~199は甕である。200も甕の体部の資料であろうと考えている。

192~196は口縁部の資料で、192が逆L字状の口縁部を有する以外は、すべて「く」の字状の口縁部を有する。197・198は底部の資料で、199は体部の細片である。

201はT字状の口縁部をもつ高坏で、全面に丹塗りを施している。202・203は器台の口縁部の細片である。

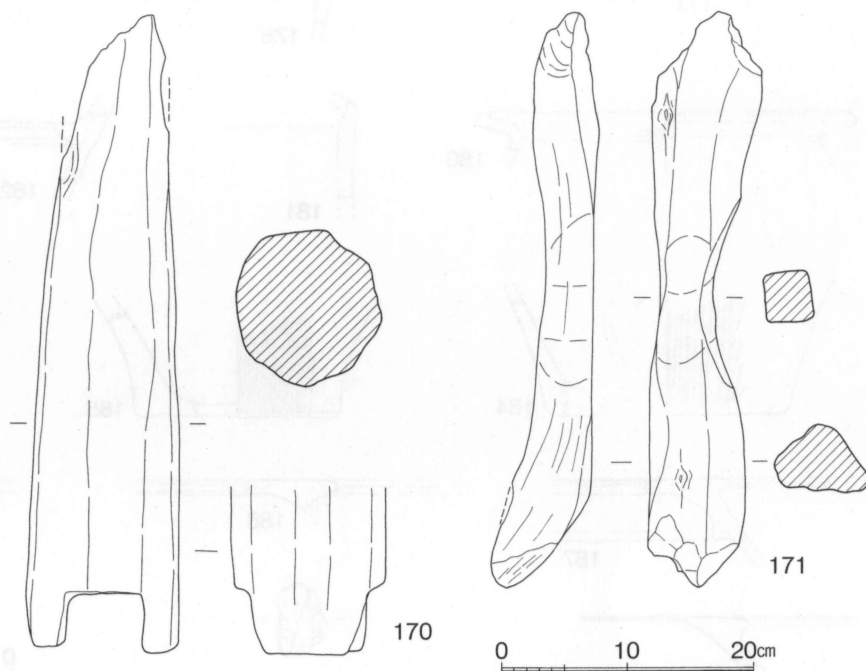


Fig.21 1SB26出土遺物実測図②(1/6)

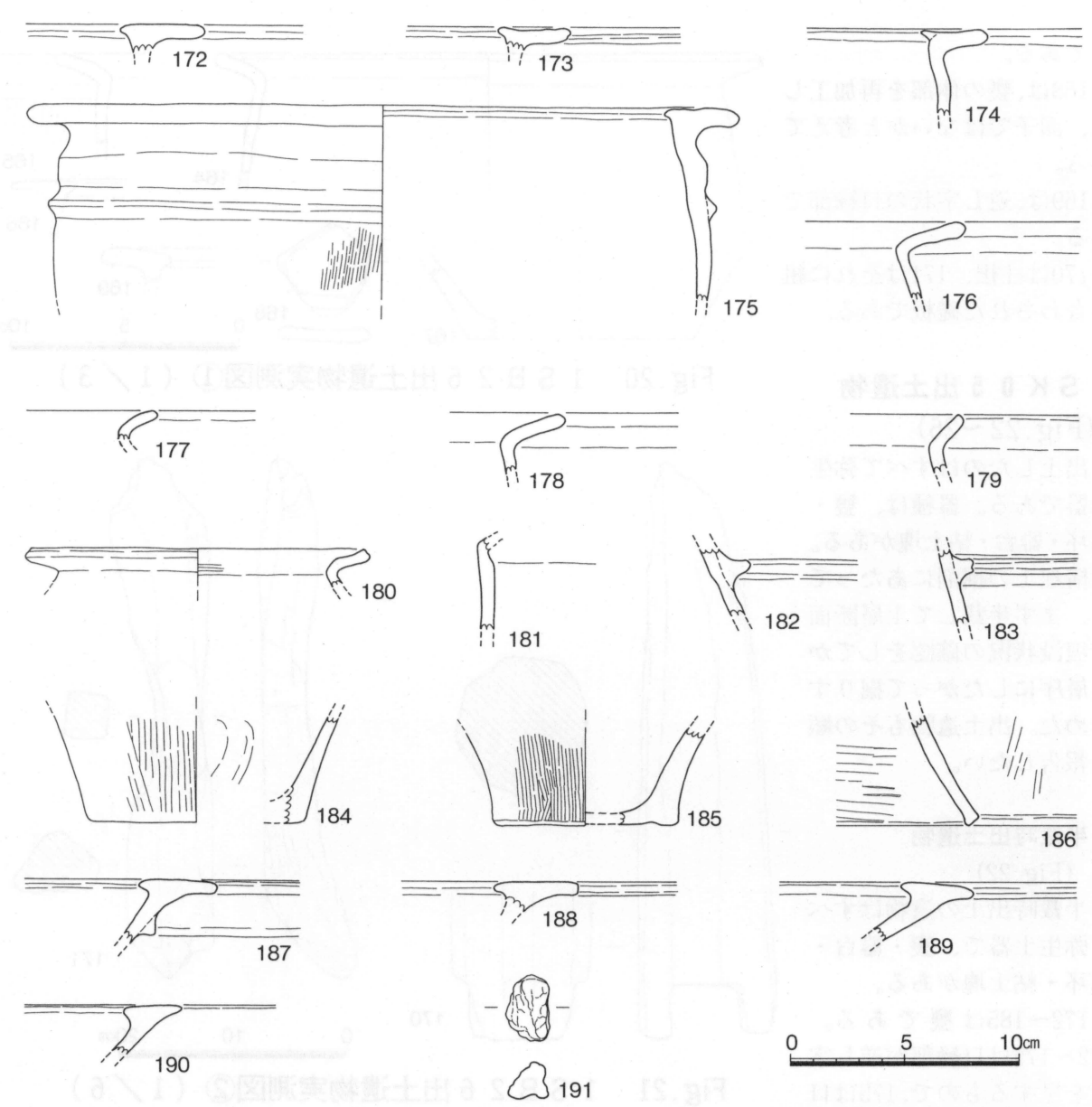


Fig.22 1SK05 半裁時出土遺物実測図 (1/3)

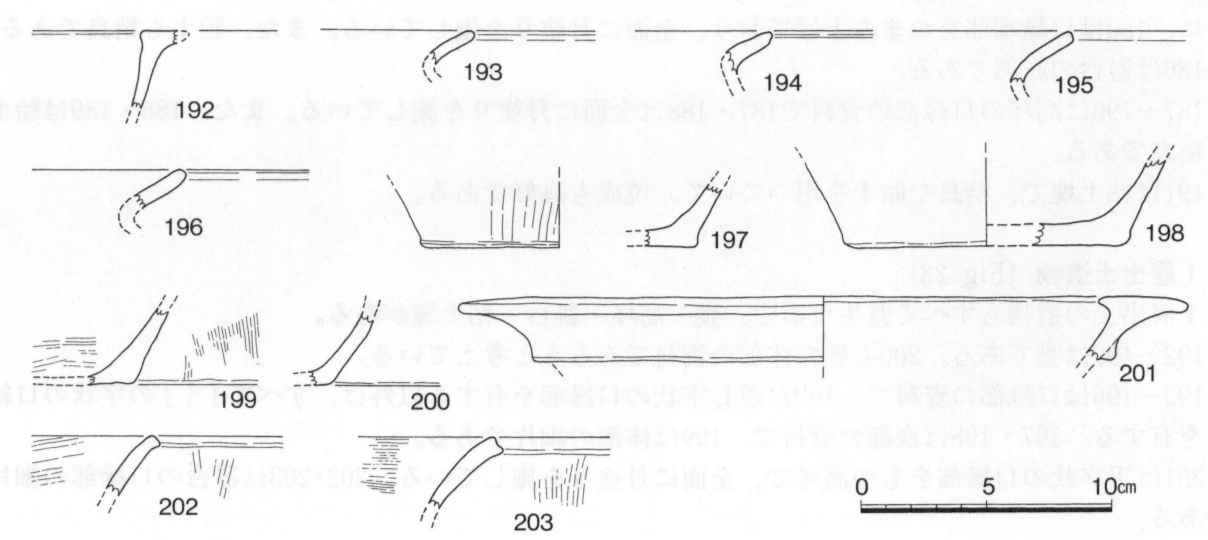


Fig.23 1SK05 I層出土遺物実測図 (1/3)

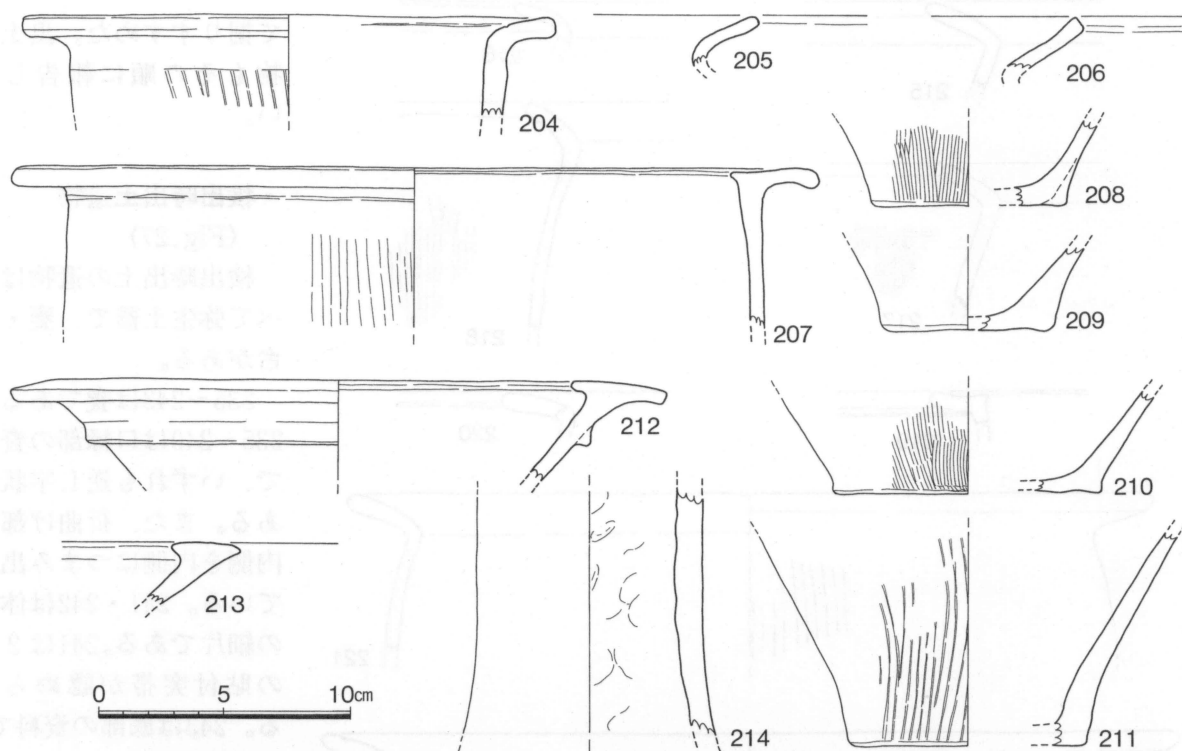


Fig.24 1SK05 II層出土遺物実測図(1/3)

・II層出土遺物 (Fig.24)

II層出土の遺物もすべて弥生土器で、甕・高坏・特殊器台がある。

204~211は甕である。204~206は「く」の字状の口縁部をもつタイプであるが、204は器壁が厚く、206は口縁端部が僅かに内湾する。207は逆L字状の口縁部を持ち、口縁端部が垂れ下がる。208~211は底部である。

212・213は高坏の口縁部である。ともにT字状の断面形状を呈し、丹塗りが施されている。214は特殊器台で、精良な胎土を用い、外面には丹が塗られている。

・III層出土遺物 (Fig.25・26)

III層出土の遺物もすべて弥生土器で、甕・高坏・粘土塊がある。

215~230は甕である。215~218は、何れも口縁部が「く」の字状を呈する破片資料である。219は逆L字状の口縁部をもち、口縁端部が少し反上がる。220は深い「く」の字状の口縁部の細片で、全面に丹が塗布されている。221~223は、口径が復原できる資料である。221・222は口縁部が「く」の字状を呈するが、222は、折曲げ部の内側に明瞭な稜線ができるほどに、きつく折曲げている。223は、口縁部から体部中位まで復原できる。逆L字状の口縁部をもち、口縁端部は垂れ下がるタイプである。224~230は底部で、器壁の薄い資料はない。

231は高坏で、全面に丹塗りを施している。また、坏部外面には突帯が1条認められる。232は器台の口縁部細片である。

233は甕の底部であるが、底部が著しい上げ底状になっており、台付甕とでもいべき器形である。

234は粘土塊で、精良な胎土を使用し、焼成も良好である。

1SK10出土遺物 (Fig.27~29)

出土したのはすべて弥生土器である。器種は、甕・高坏・器台・鉢がある。遺構埋土の掘削にあたっては、基本的には1SK05と同様に、土層断面で埋没状況の確認をしてから層序にしたがっ

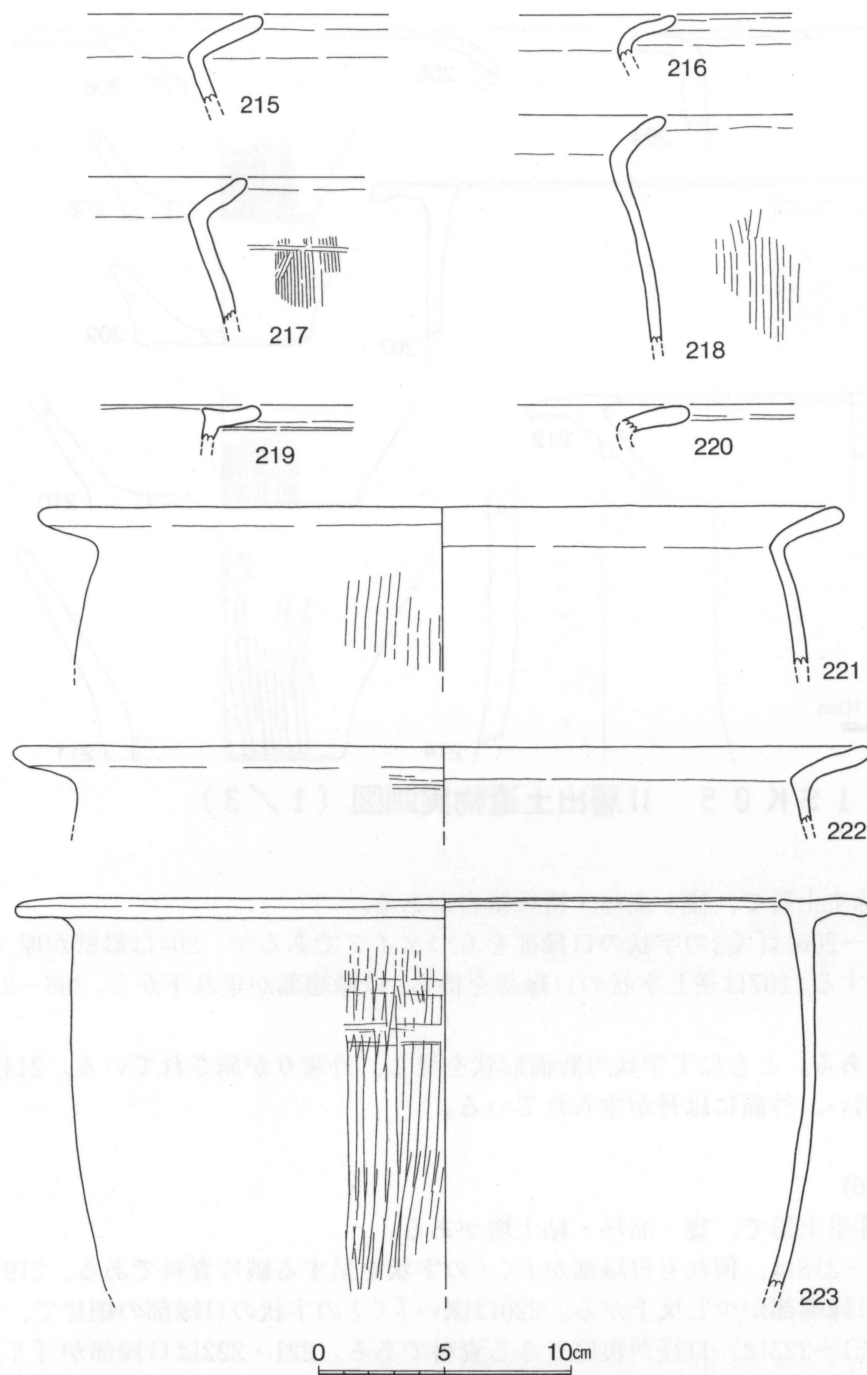


Fig.25 1SK05 III層出土遺物実測図① (1/3)

る。焼成後に外面から穿孔を施している。

249は、高坏の口縁部である。断面形状はT字状を呈し、一部に丹塗りの痕跡が認められる。

250は器台の底部の細片である。底端部に面があるが、接地しない。

・III層出土遺物 (Fig.29)

III層出土の遺物もすべて弥生土器で、甕・高坏がある。

251~254は甕である。いずれも口縁部の資料である。251は、断面形状が逆L字状となるタイプである。252は、断面形状がT字状を呈する。253・254は「く」の字状の口縁部をもつタイプで、253は端部に面をもち、口縁端部を上方につまみ上げている。

255は高坏である。口縁部の約1/8が残存していた。T字状の口縁で、一部に丹塗りが残ってい

て掘りすすめた。出土遺物もその順に報告したい。

・検出時出土遺物

(Fig.27)

検出時出土の遺物はすべて弥生土器で、甕・器台がある。

235~243は甕である。235~240は口縁部の資料で、いずれも逆L字状である。また、折曲げ部の内側を内側につまみ出している。241・242は体部の細片である。241は2条の貼付突帯が認められる。243は底部の資料で、外底面に黒斑のようなものが認められる。

244は器台の底部の細片である。底端部に面があるが、接地しない。

・I層出土遺物

(Fig.28)

I層出土の遺物もすべて弥生土器で、甕・鉢・高坏・器台がある。

245・247・248は甕である。245・247は口縁部の細片で、いずれも逆L字状である。246は口縁部の上面を強く押さえて凹ませている。248は底部であ

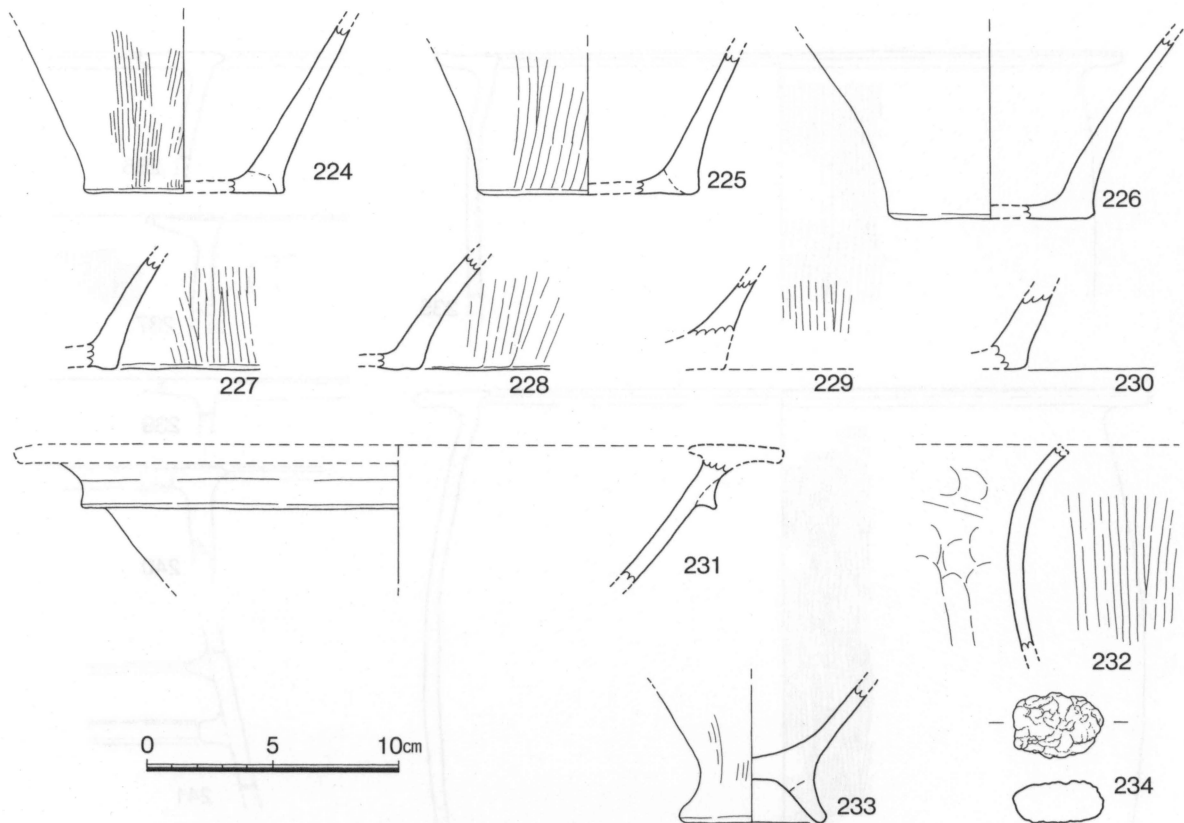


Fig.26 1SK05 III層出土遺物実測図②(1/3)

る。

1SK25 出土遺物 (Fig.30・31)

弥生土器が出土した。器種は、甕・鉢・面子・器台がある。

256～272は甕である。258は、口縁部の断面形状がT字状を呈するタイプの口縁部細片である。257・259～266は口縁部の資料で、何れも口縁部の断面形状が逆L字状を呈する、所謂「須久式」土器の系譜をひくものである。その中で、264は口縁端部に面をつくり、刻み目を施している。また、体部にM字突帯をもち、少なくとも外面には丹を塗っている。267は体部の細片で、三角突帯を1条貼り付けている。268～271は底部の資料である。268と271は外底面が未調整で、270は外面に黒斑が認められる。272は口縁部が深い「く」の字状に折曲げる小型の甕で、全面に丹塗りを施している。胎土は、ほぼ精良なものを用いている。

273は蓋である。ほぼ精良な胎土を使用し、丹塗りを施している。大きく外方に開いていて、端部の内側に凹線状の押さえが認められる。

274は鉢で、口縁部の資料である。口縁部は僅かに内湾している。

275～279は、面子ではないかと考えている。何れの資料も、2次成形ではないかと思われる、片面からの打欠きらしきものが認められる。279は土器の外面側から、それ以外は土器の内面側から2次成形を行ったのではなかろうか。

280～285は器台である。280～283は口縁部の資料で、283を除いて、口径の復原が可能である。すべて口縁端部に面をもつタイプで、280・281は口縁下端部を外方につまみ出している。284・285は底部である。ともに底端部に面をもつが、面は接地しない。

1SK30 出土遺物 (Fig.32～40)

弥生土器と土師器が出土した。器種は、弥生土器の甕・壺・鉢・浅鉢・高坏・器台・面子・支脚・

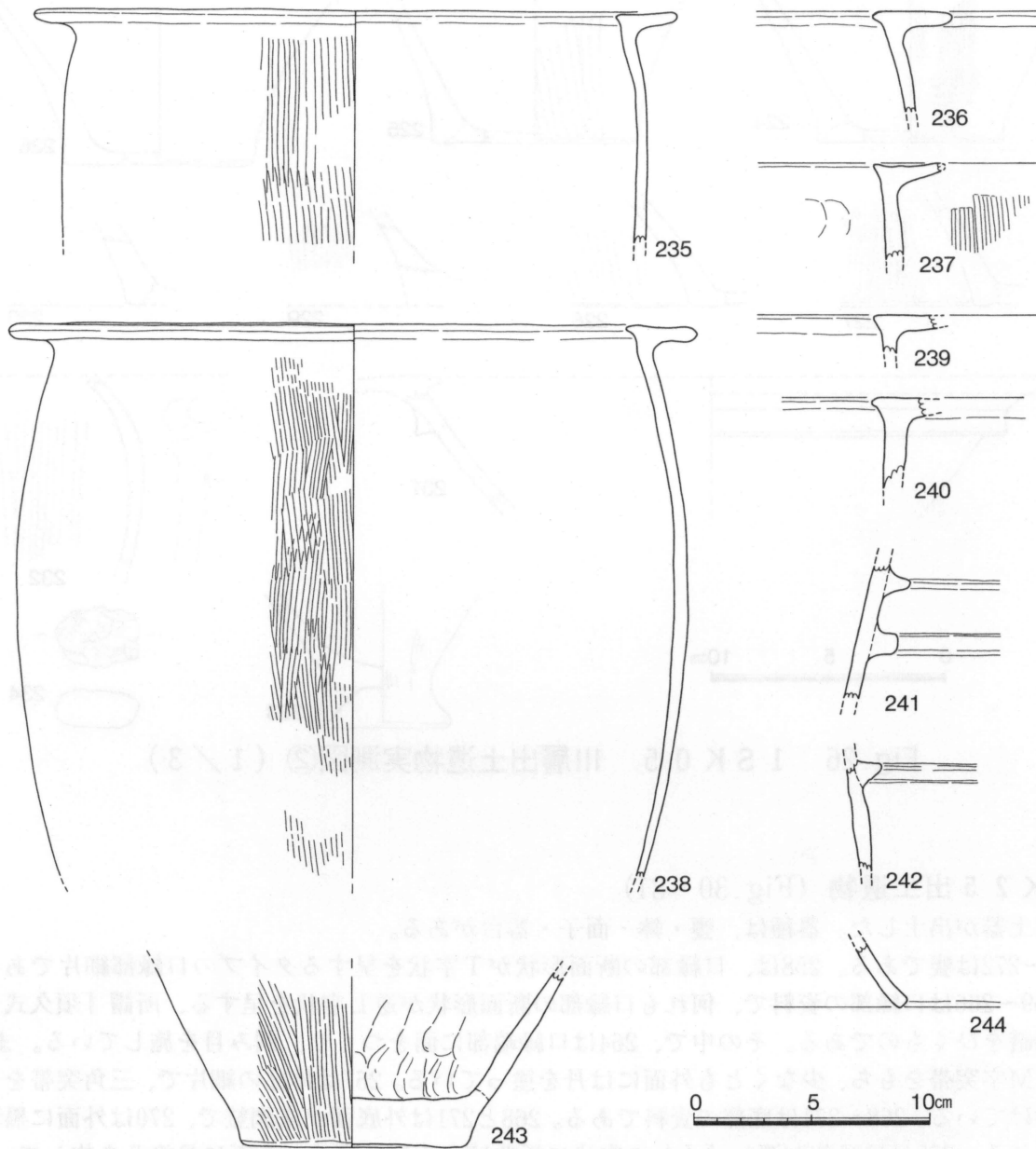


Fig.27 1SK10 検出時出土遺物実測図(1/3)

面子、土師器の甕・台付甕がある。

なお、1SK30は1SD20に切られているために、当然のことながら1SD20の掘削を完了した後に1SK30を掘削することになる。ただし、今回の調査では、1SD20と重複していない部分の掘削を先に行い、1SD20の記録が完了した後に1SD20の下になっていた部分の掘削を行った。しかも、1SD20の完掘の確認が非常に判りづらかったため、一部土器が混入した可能性も否定できない。

したがって、今回の報告にあたっては、1SD20の直下部分と、先行して掘削した部分の出土遺物を分けて報告している。ただし、明らかに混入と認められる遺物は見当たらない。

・先行掘削時出土遺物 (Fig.32~40)

326~424が先行掘削時に出土した遺物である。器種は、弥生土器の甕・壺・鉢・浅鉢・高坏・器台・面子・支脚・面子、土師器の甕・台付甕がある。

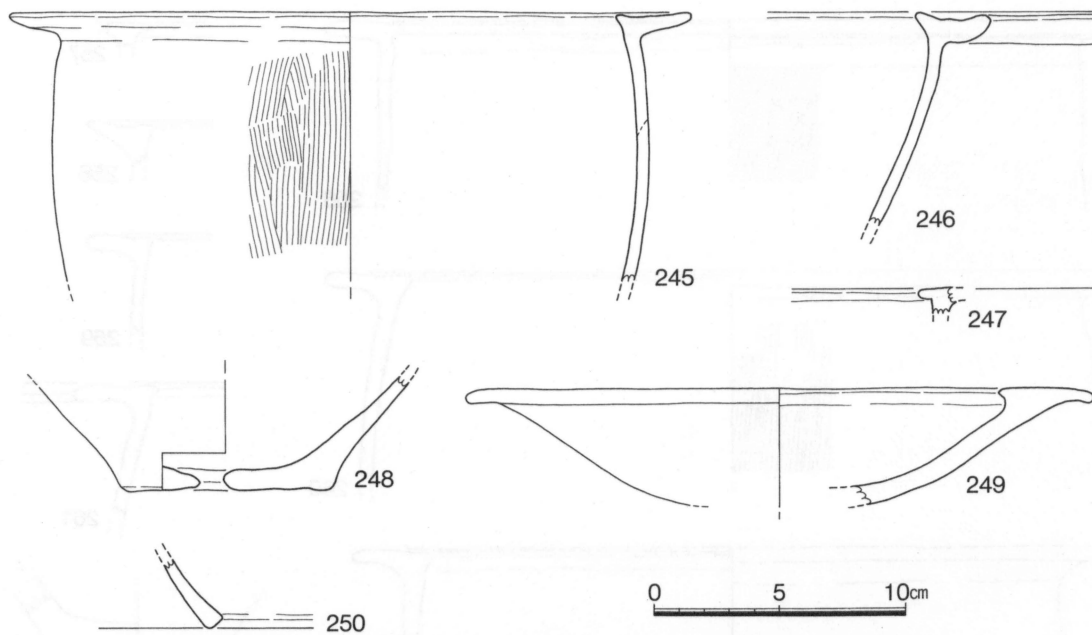


Fig.28 1SK10 I層出土遺物実測図(1/3)

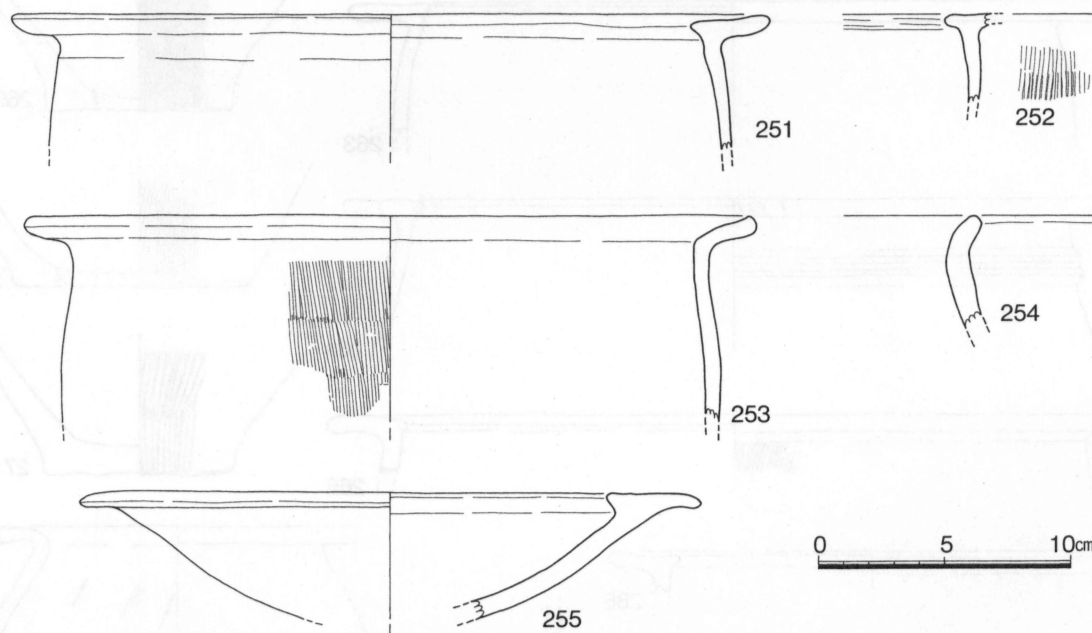


Fig.29 1SK10 III層出土遺物実測図(1/3)

286~365は弥生土器の甕で、366~369は土師器の甕である。

287は、口縁部の断面形状がT字状のもので、体部の内外面ともに刷毛目を施している。

286・288~304・307は口縁部の断面形状が逆L字状のもので、所謂「須久式」系統の土器である。292・303・307を除いては、折曲げ部の内側をつまみ出して、287のようなT字状の意匠を僅かながらに残している。304は、口縁部を逆に内側へ水平に折曲げてから、全体を滑らかに仕上げたものであるが、最終的な断面形状は逆L字状にたいへん近いものとなっているため、ここで報告することとした。286・288~295は、口縁部がほぼ水平に保たれているグループである。程度の差こそあれ、すべてが胎土に砂粒を含んである。復原できたものの口径は、すべて30cm程度で、極めて規格性が高い。器面調整は、口縁部が横ナデ、体外面は刷毛目、体内面は刷毛目またはナデである。291・292

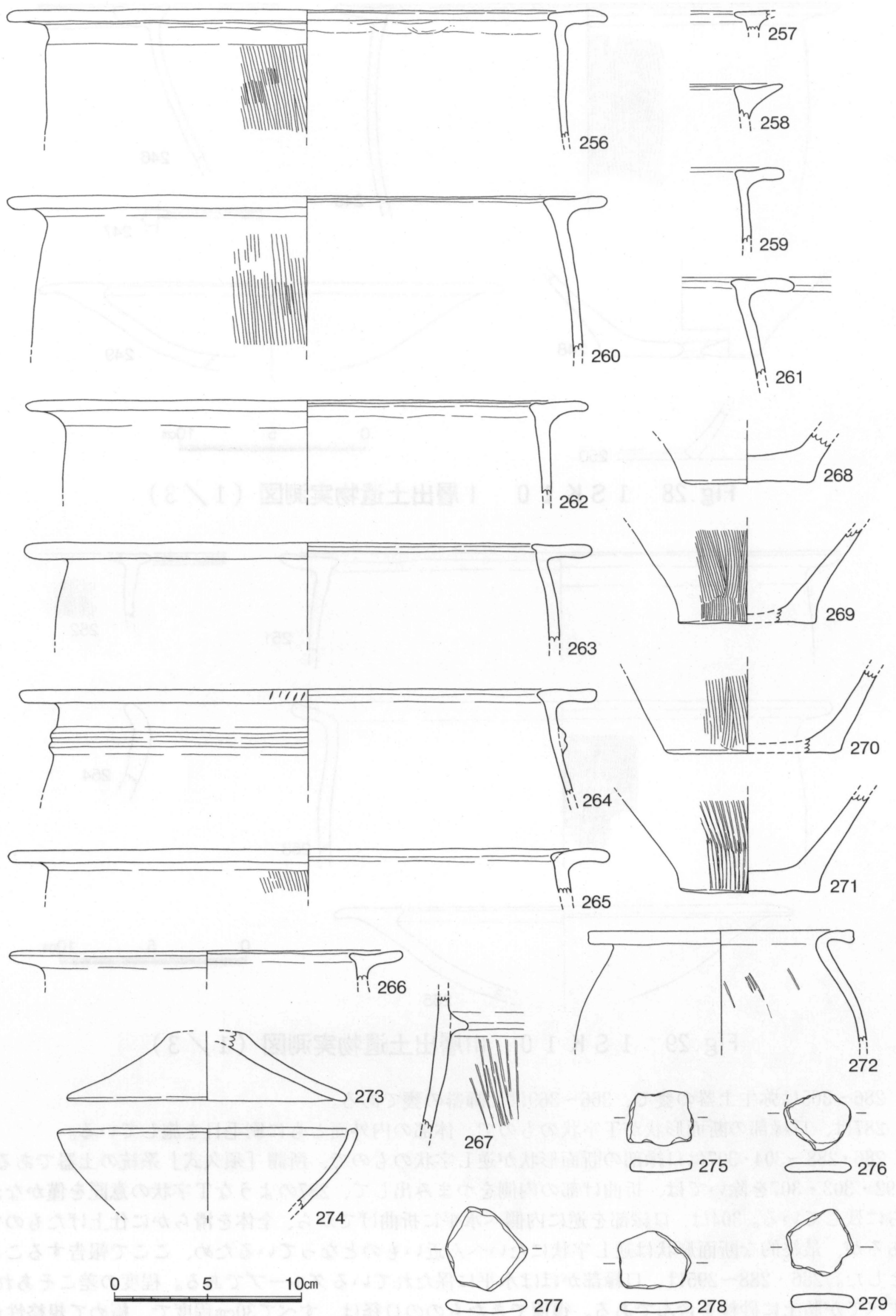


Fig. 30 1 S K 2 5 出土遺物実測図① (1 / 3)

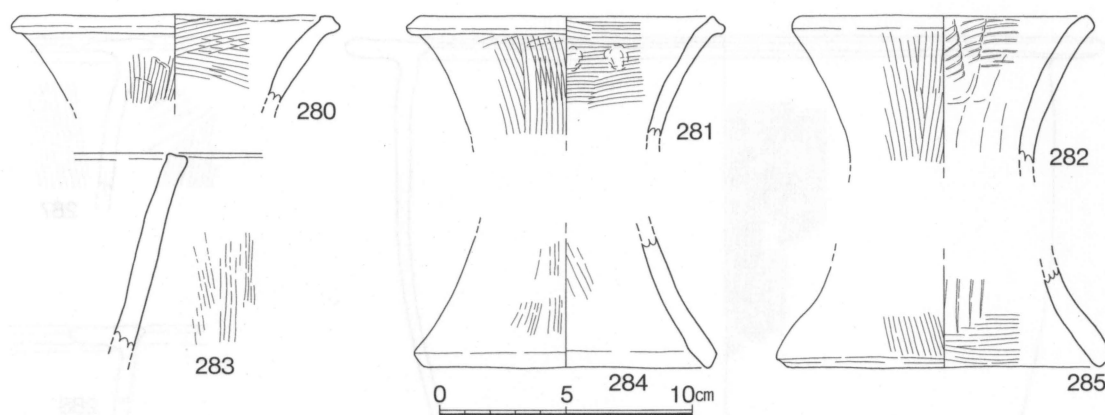


Fig. 31 1SK25出土遺物実測図②(1/3)

は断面形状は一般的な逆L字状であるが、口縁部がやや肥厚している。293は口縁部が肥厚し、口縁端部を上方につまみ上げるように跳ね上げている。294は口縁部の屈曲が鋭角気味とはならず、ほぼ直角となるタイプである。この資料も、折曲げ部の内側はわずかにつまみ出している。295は口縁端部が肥厚するもので、端部がやや下がり気味となっている。

296~298・300・302は逆L字状の口縁部ではあるが、口縁端部が垂れ下がるものである。296は風化が激しく、断面形がやや不明瞭であるが、口縁端部が下がる状況が窺われる。297は口縁端部が欠損しているが、口縁端部は肥厚し垂れ下がっている。また、体部にM字突帯が1条貼り付けられている。298は、299と同じタイプと考えると大過ないと思われる。300~302は端部が大きく垂れ下がるもので、なかでも301は極端に端部が下がっている。302は、ほぼ完形に復原される個体で、同タイプの土器の全体的なプロポーションを知る上で良好な資料である。体部の最大径は底から3/4の部分にあるが、口縁端部を上回ることはない。口縁端部は僅かに肥厚して、やや垂れ下がっている。口縁部は横ナデ、体部外面は刷毛目外底面はナデ、体内面と内底面はナデを施している。体外面の刷毛目は基本的に縦方向に施し、体内面のナデも基本的に縦方向である。ただし、他の資料と比較して、口縁の折曲げ部内側のつまみ出しはやや強めで、T字状断面のタイプのイメージを僅かに残している。

303は、口縁の折曲げ角度がほぼ直角であり、294に近い類型である。しかし、294とは異なり、口縁部の長さが短く、「城ノ越式」土器に近い断面形状を呈する。折曲げ部の内側は、一般的な逆L字状の口縁を持つタイプと同じく、内方向につまみ出している。

304は、外見状は逆L字状の口縁を持つタイプであるが、その成形技法は大きく異なっている。この資料の口縁部は、一旦、深い「く」の字状に折曲げた後に口縁の上半部を更に内側に折畳むことで形成されている。そのため、屈曲部の内側の張り出しの理解は全く異なったものとなる。つまり、逆L字状の口縁を持つタイプは折曲げ部の内側をつまみ出すことで生み出されるが、304の屈曲部の内側の張り出しは、口縁部の先端部分の残存と理解されなければならない。以上を総括すると、304は外形的には逆L字状の口縁を持つタイプにあたるが、成形技法的には「く」の字状口縁をもつタイプの亜種と捉えられるものといえる。

305・306は甕の体部の細片である。ともに貼り付けの突帯を1条認める。306は突帯に刻み目を施していて、突帯の断面は台形である。

307の口縁部は外見上、逆L字状の口縁部を持つタイプと「く」の字状の口縁部を持つタイプの中間ともいえるものである。ただし、口縁部の細片であるので、残念ながら全体の器形は判然としない。また口径が24.0cmで、逆L字状の口縁部を持つタイプが概ね30cm程度であることからすると、一回り小ぶりな印象を受ける。口縁端部は僅かに面があるようにも見える。屈曲部の内側は、逆L字状の口縁部を持つタイプと同じく、僅かに内側につまみ出している。

308~337は口縁部が「く」の字状を呈する甕である。309は、屈曲部の内側に極めて明瞭な稜線を

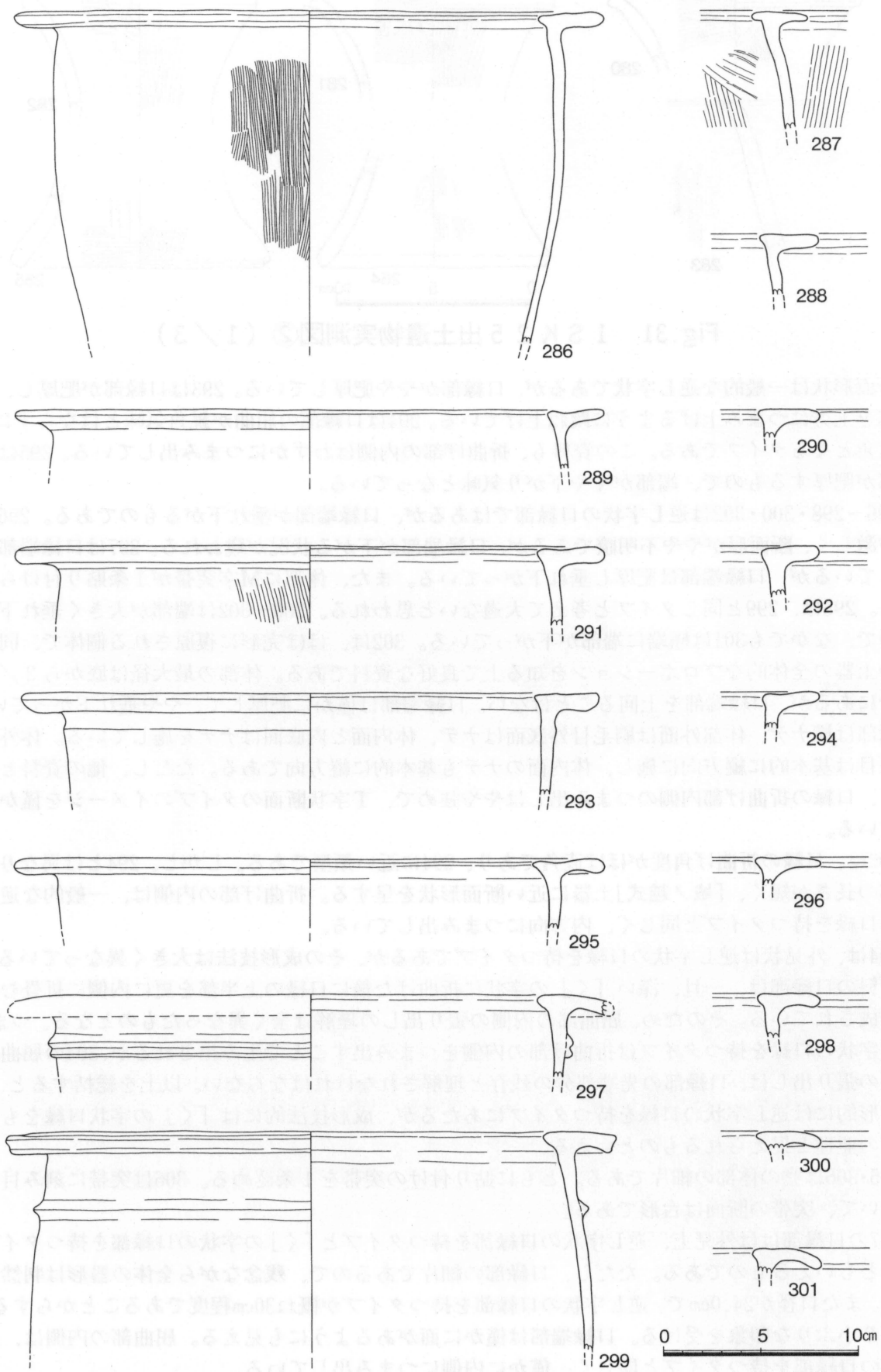


Fig.32 1 SK 3 0 出土遺物実測図① (1 / 3)

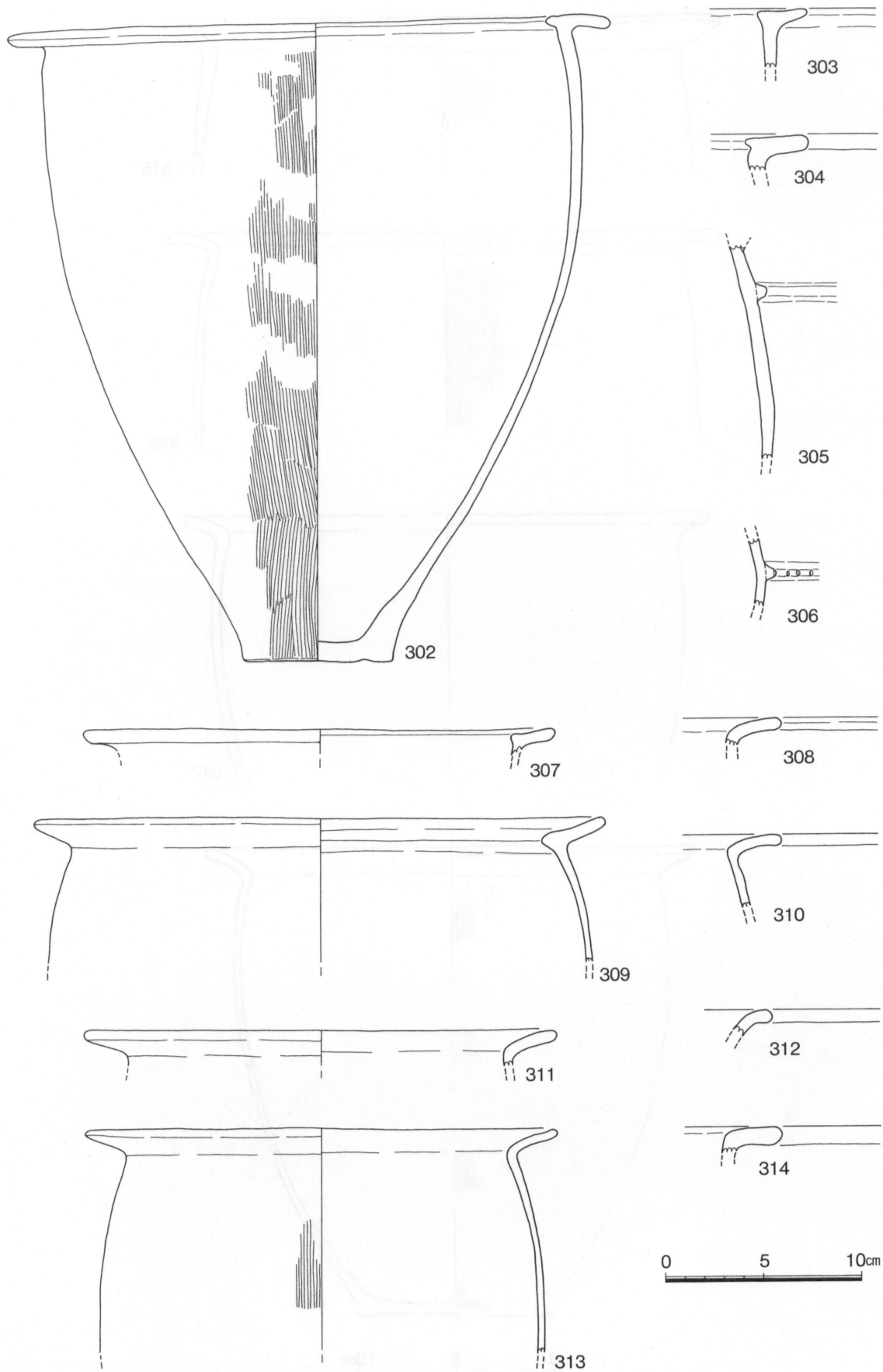


Fig.33 1SK30出土遺物実測図②(1/3)

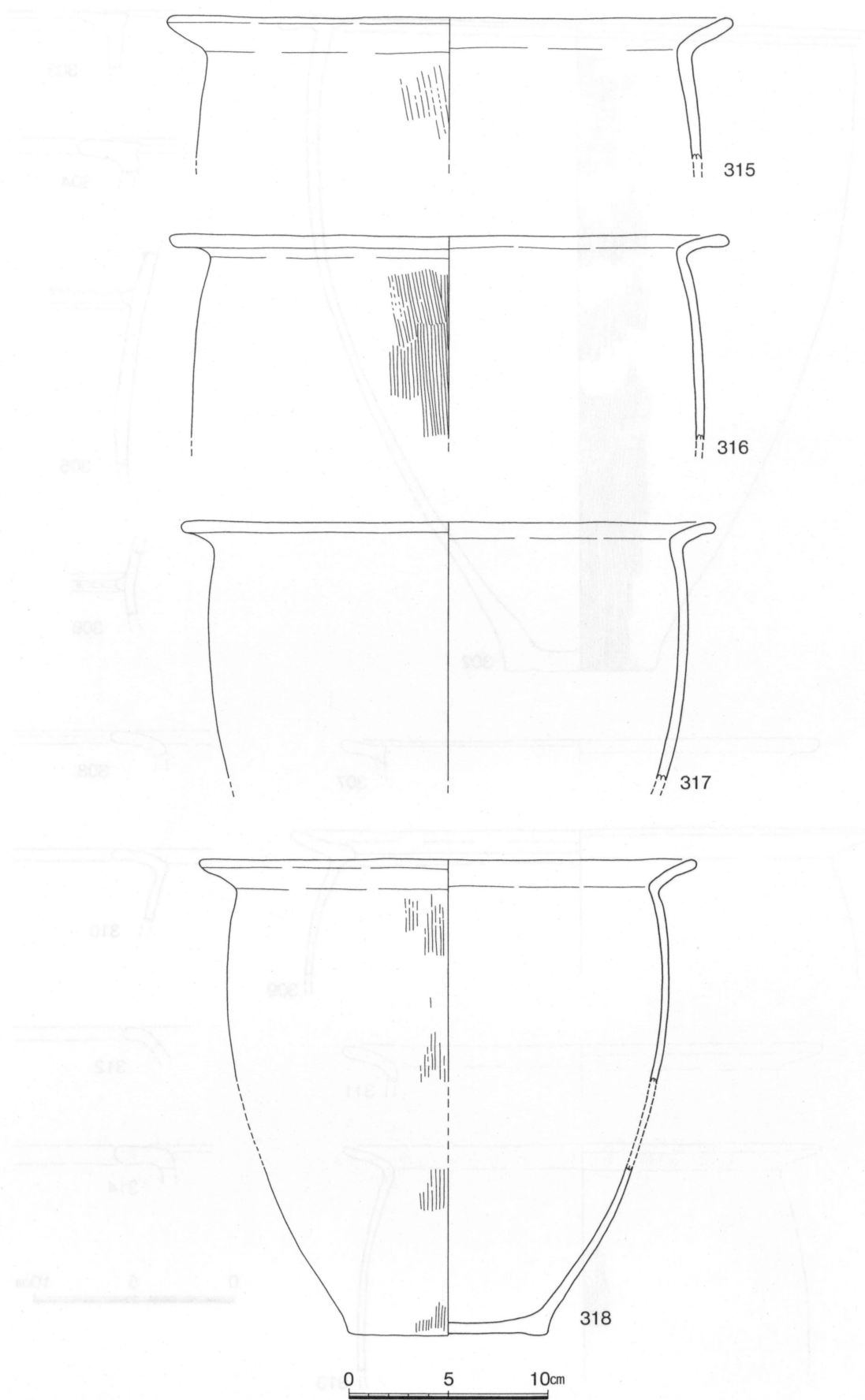


Fig.34 1 S K 3 0 出土遺物実測図③ (1 / 3)

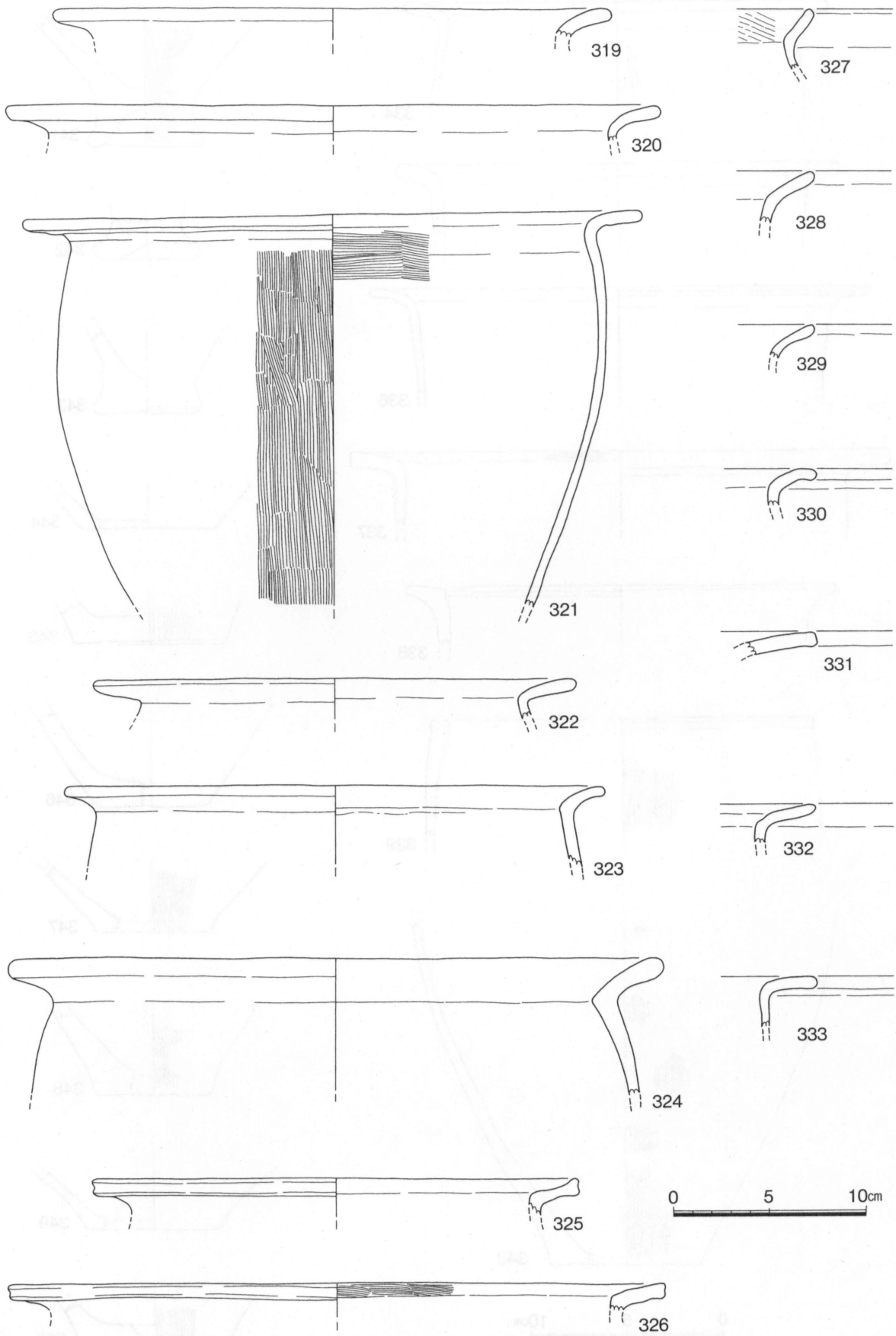


Fig.35 1 SK 3 0 出土遺物実測図④ (1 / 3)

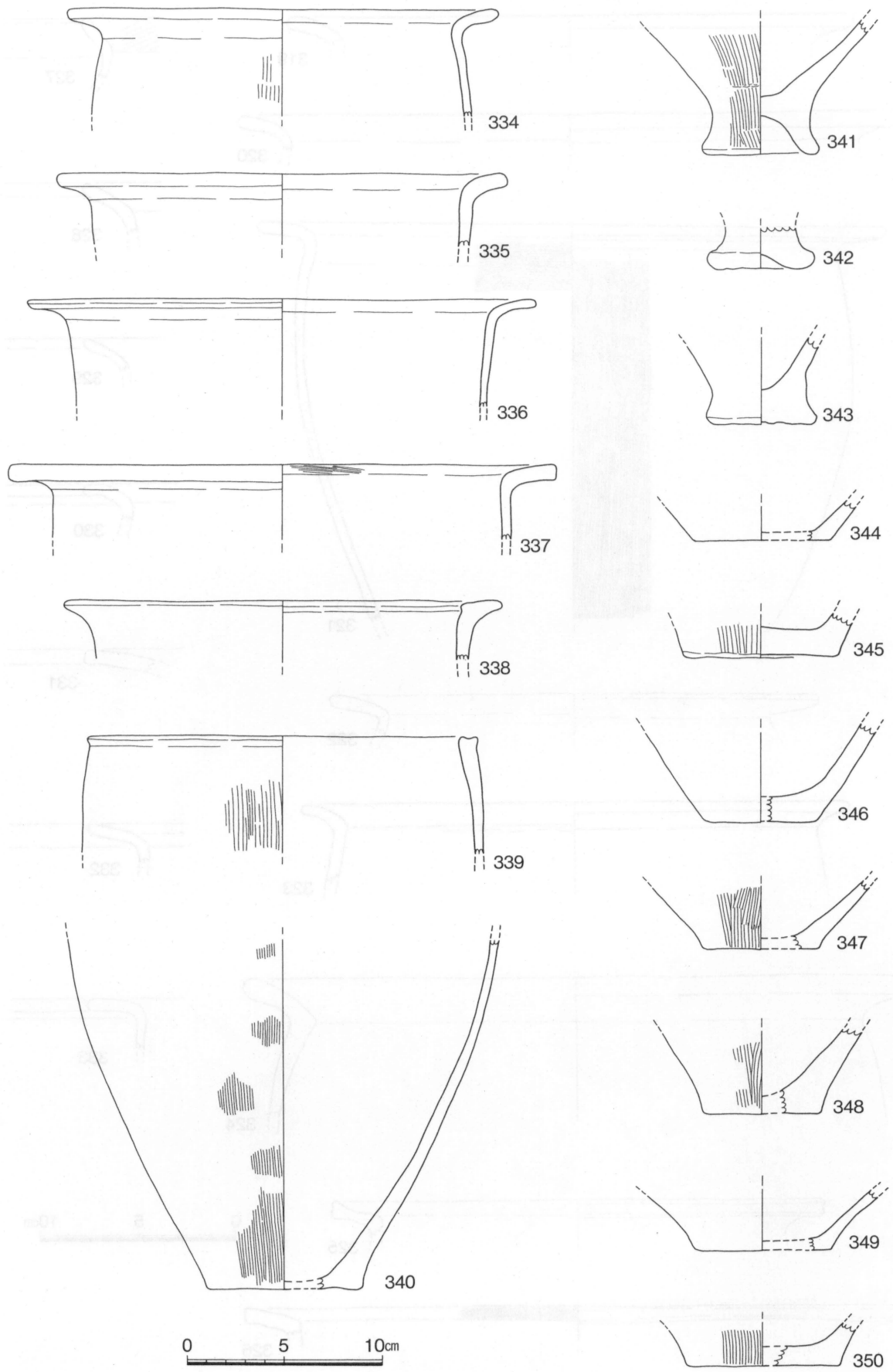


Fig.36 1 S K 3 0 出土遺物実測図⑤ (1 / 3)

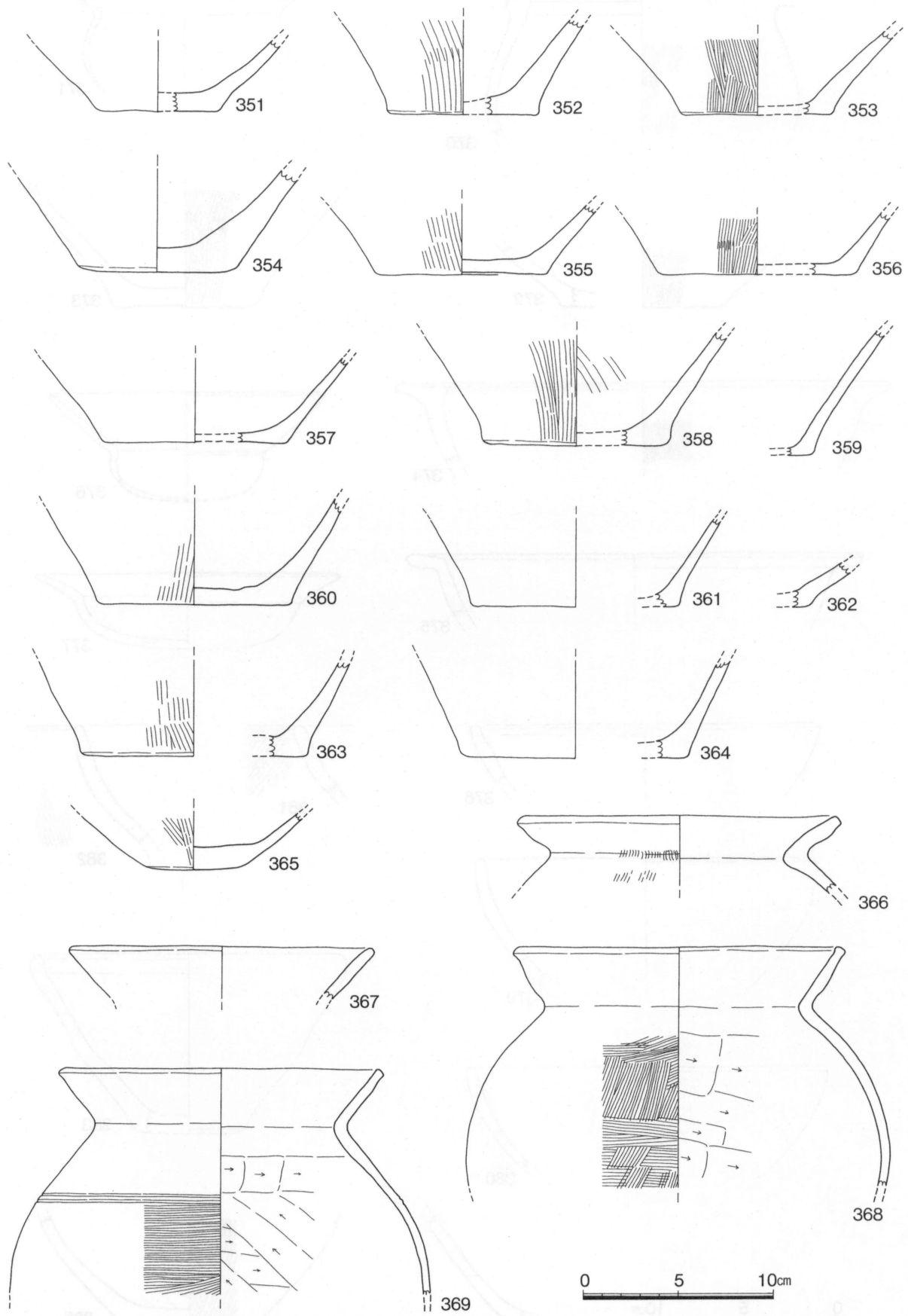


Fig.37 1SK30 出土遺物実測図⑥ (1/3)

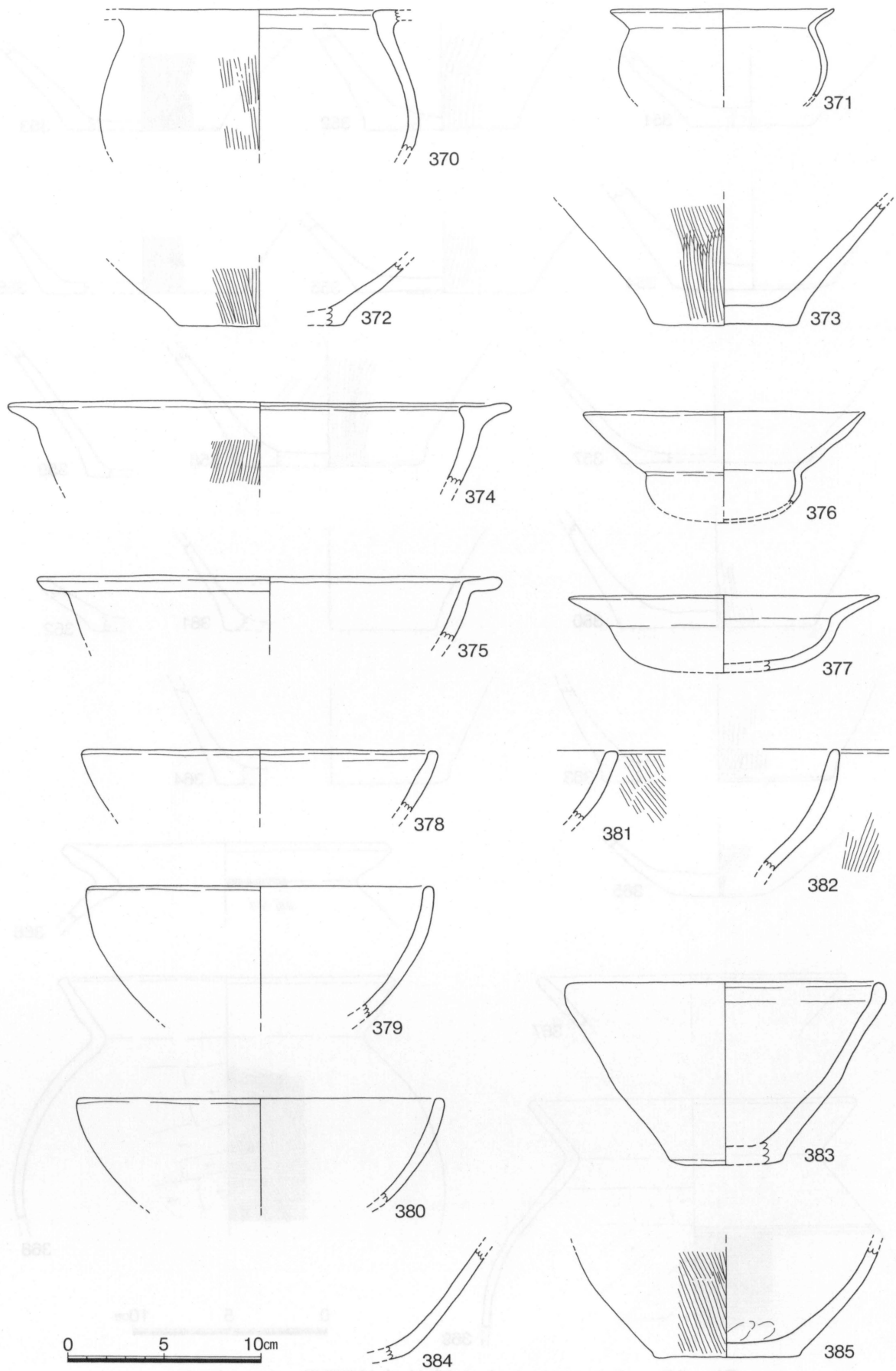


Fig. 38 1 SK 3 0 出土遺物実測図⑦ (1 / 3)

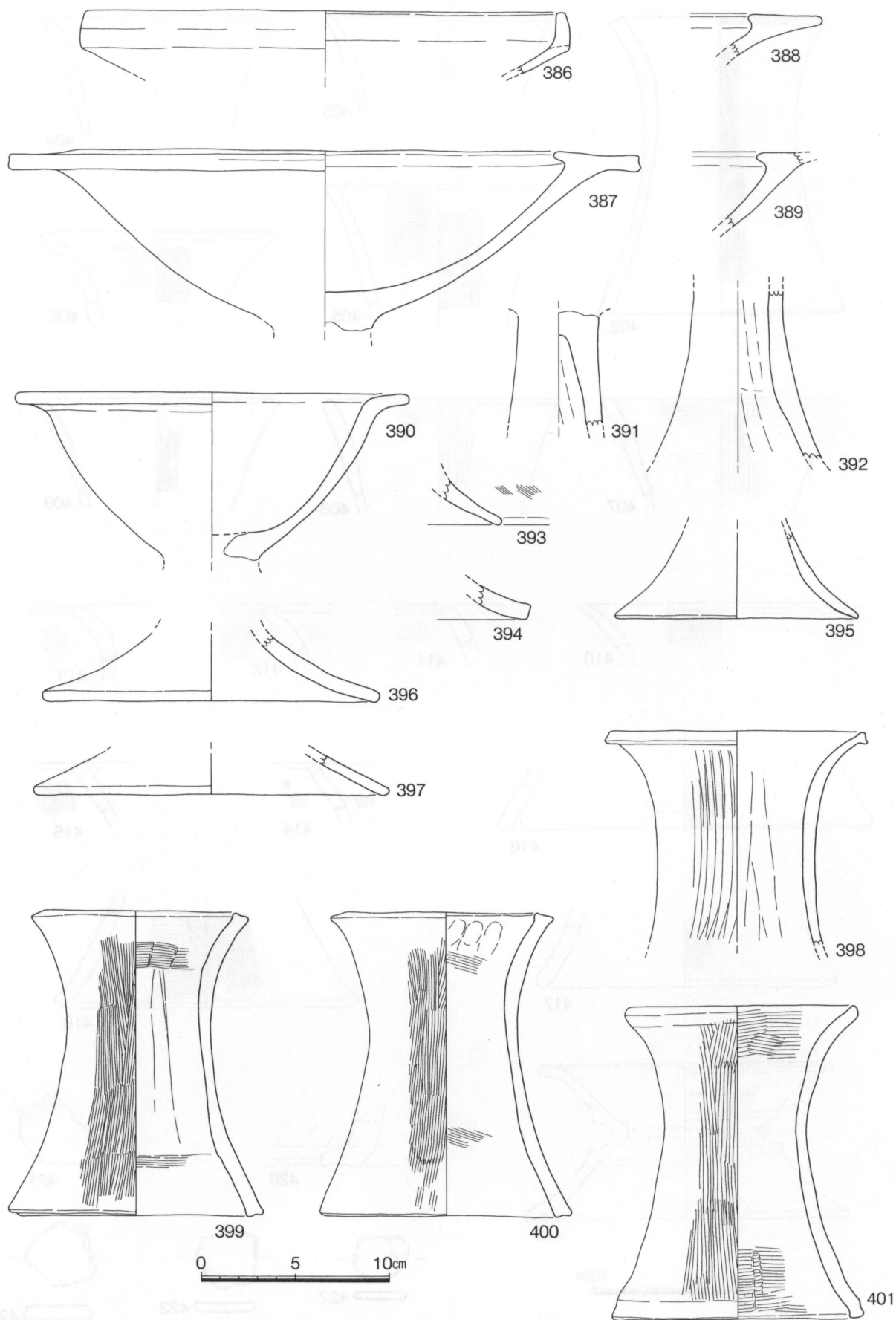


Fig.39 1 SK 3 0 出土遺物実測図⑧ (1 / 3)

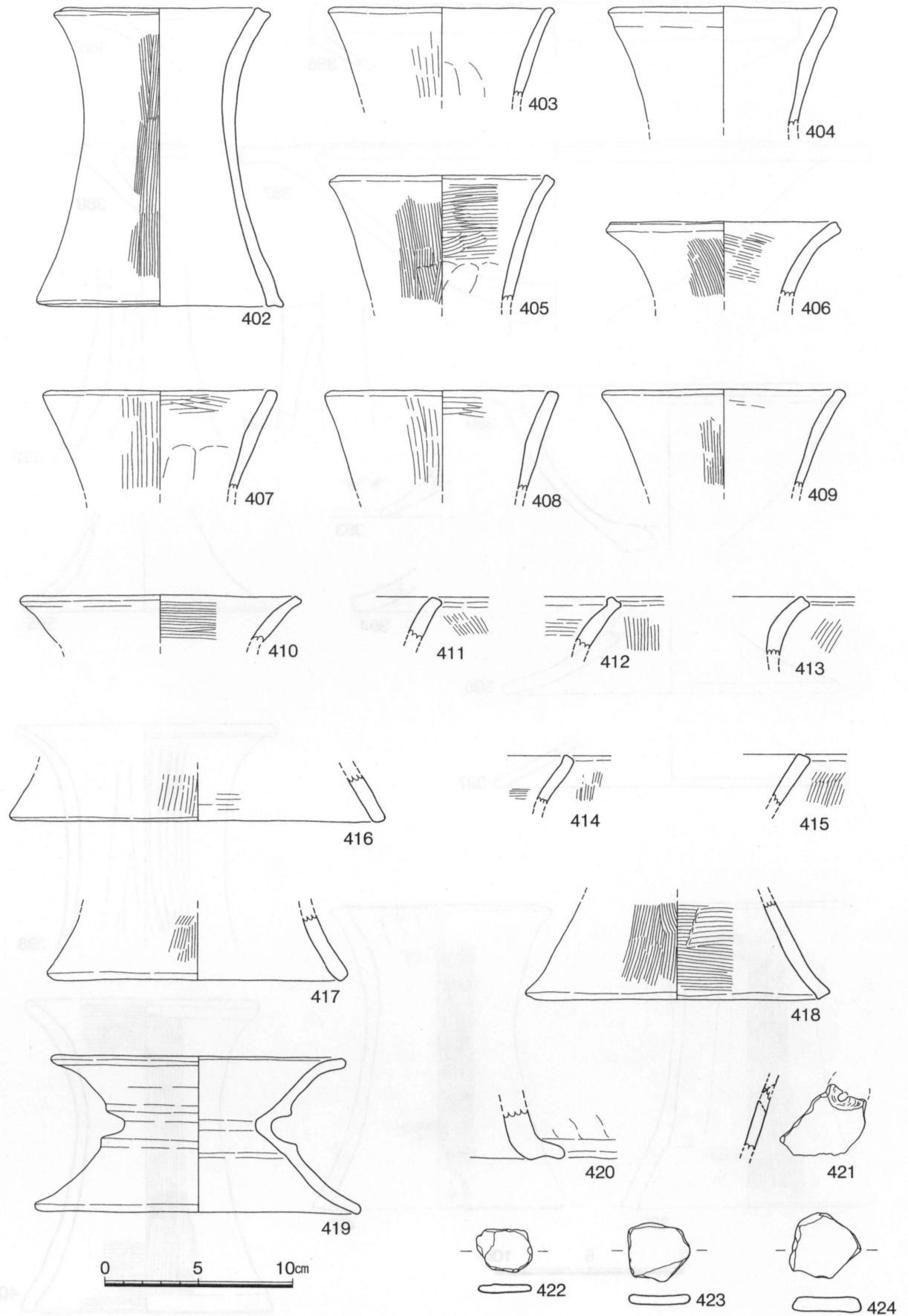


Fig.40 1SK30 出土遺物実測図⑨ (1/3)

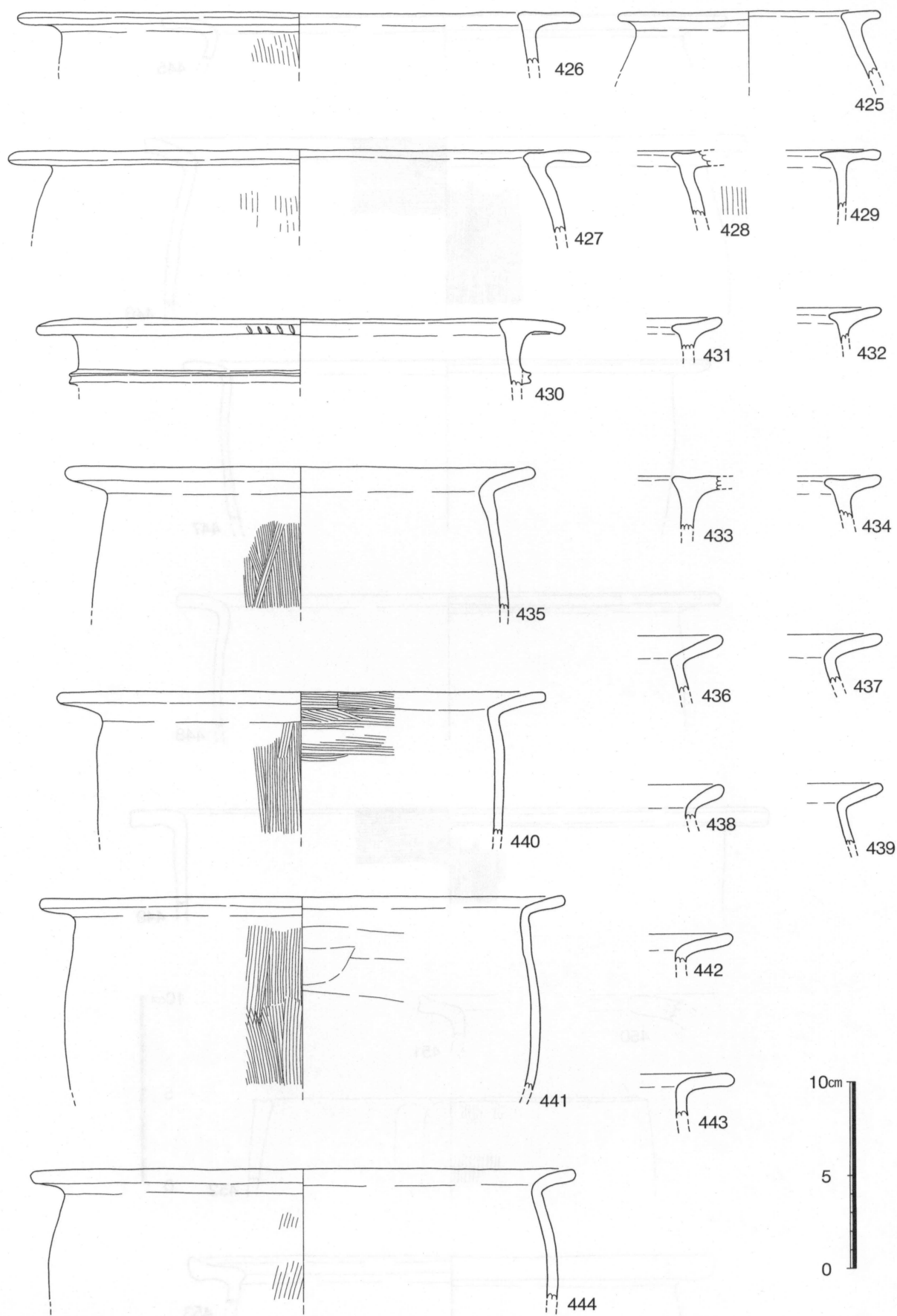


Fig.41 1SK30 (1SD20下層部分) 出土遺物実測図① (1/3)

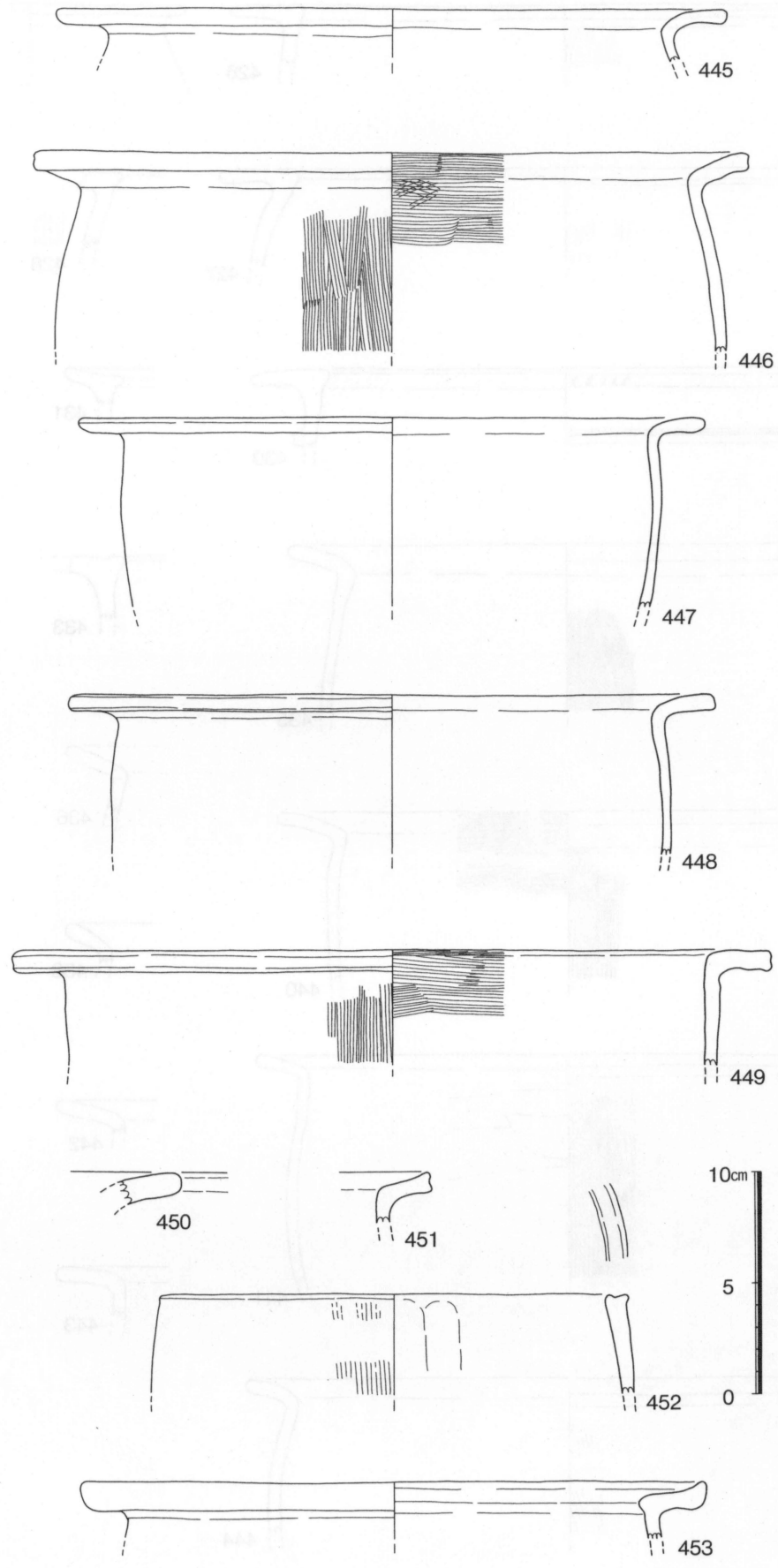


Fig.42 1SK30 (1SD20下層部分) 出土遺物実測図② (1/3)

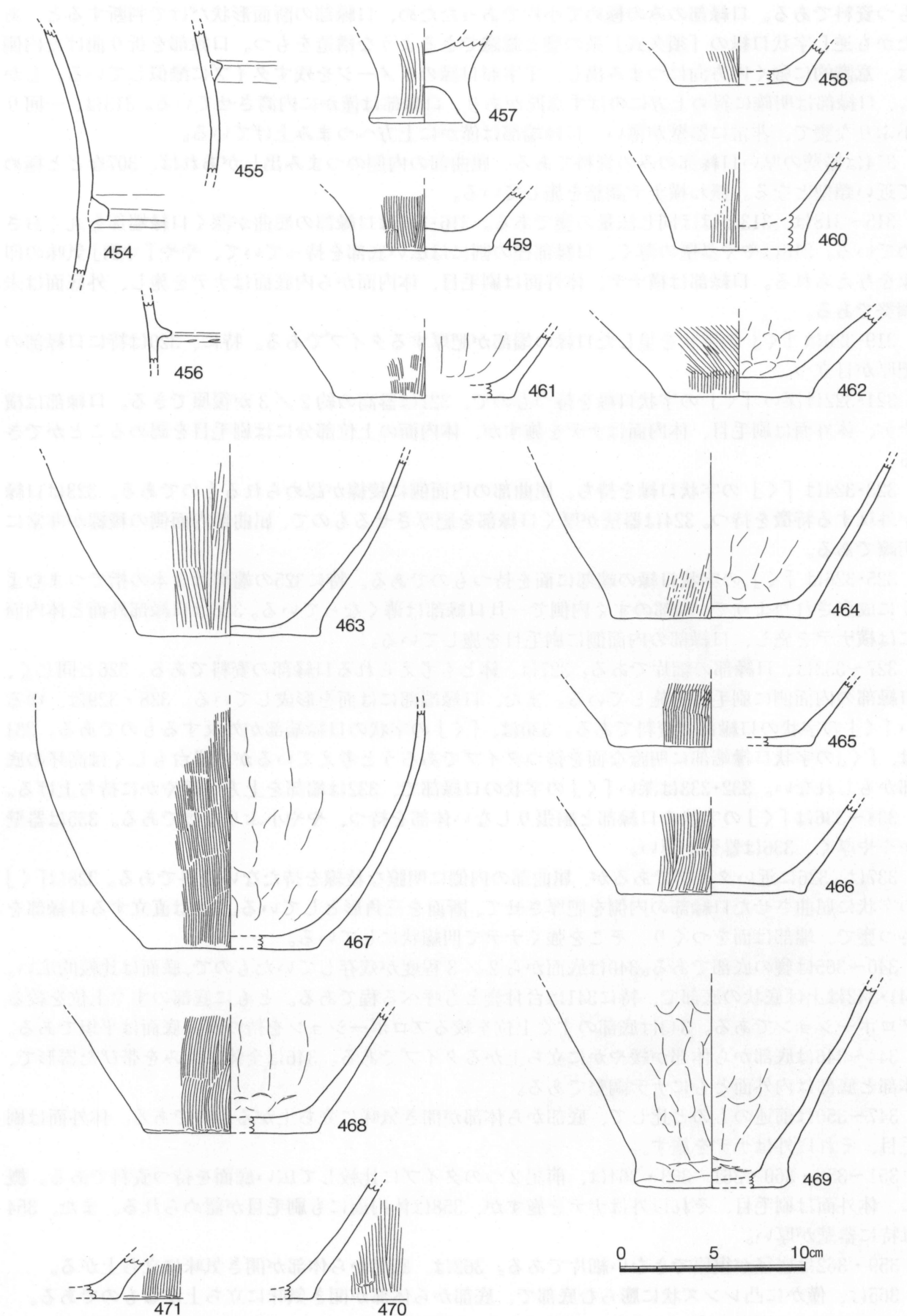


Fig. 43 1SK30 (1SD20下層部分) 出土遺物実測図③ (1/3)

もつ資料である。口縁部のみの極めて小片であったため、口縁部の断面形状だけで判断すると、あたかも逆L字状口縁の「須久式」系の甕と認識できるような構造をもつ。口縁部を折り曲げた内側は、意識的に強く内方向につまみ出し、T字形口縁のイメージを残すタイプに酷似している。しかし、口縁部は明確に斜め上方にのばす意匠があり、口縁部は僅かに内湾させている。313は、一回り小ぶりの甕で、非常に器壁が薄い。口縁端部は僅かに上方へつまみ上げている。

314は器壁の厚い口縁部のみの資料である。屈曲部の内側のつまみ出しがあれば、307などと極めて近い類型となる。概ね横ナデ調整を施している。

315～318は、313とほぼ同じ法量の甕である。316・317は口縁部の屈曲が深く口縁端部を丸くおさめている。318はやや器壁の薄く、口縁部径の割には広い底部を持っていて、やや「寸胴」気味の印象を与えられる。口縁部は横ナデ、体外面は刷毛目、体内面から内底面はナデを施し、外底面は未調整である。

319・320は「く」の字状を呈した口縁の端部が肥厚するタイプである。特に、320は特に口縁部の肥厚が目立つ。

321・322は深い「く」の字状口縁を持つもので、321は器高の約2/3が復原できる。口縁部は横ナデ、体外面は刷毛目、体内面はナデを施すが、体内面の上位部分には刷毛目を認めることができる。

323・324は「く」の字状口縁を持ち、屈曲部の内面側に稜線が認められるものである。323は口縁が外反する特徴を持つ。324は器壁が厚く口縁部を肥厚させるもので、屈曲部内面側の稜線が非常に明瞭である。

325・326は「く」の字状口縁の端部に面を持つものである。特に325の端部は3本の指でつまむように成形されたようで、端部のすぐ内側で一旦口縁部は薄くなっている。326は口縁部外面と体内面には横ナデを施し、口縁部の内面側に刷毛目を施している。

327～333は、口縁部の細片である。327は、鉢とも考えられる口縁部の資料である。326と同じく、口縁部の内面側に刷毛目を施している。また、口縁端部には面を形成している。328・329は、ゆるい「く」の字状の口縁部の資料である。330は、「く」の字状の口縁端部が外反するものである。331は、「く」の字状口縁端部に明瞭な面を持つタイプであろうと考えているが、器台もしくは高坏の底部かもしれない。332・333は深い「く」の字状の口縁部で、332は端部を上方へ緩やかに持ち上げる。

334～336は「く」の字状の口縁部と胴張りしない体部を持つ、やや小ぶりの甕である。335は器壁がやや厚く、336は器壁が薄い。

337は、326に近いタイプであるが、屈曲部の内側に明瞭な稜線を持たない資料である。328は「く」の字状に屈曲させた口縁部の内側を肥厚させて、断面を三角形としている。339は直立する口縁部を持つ甕で、端部は面をつくり、そこを強くナデで凹線状にしている。

340～345は甕の底部である。340は底面から2/3程度が残存していたもので、底面は比較的広い。341・342は上げ底状の底部で、特に341は台付甕とも呼べる程である。ともに底部のすぐ上位を絞るプロポーションである。343は底部のすぐ上位を絞るプロポーションを持つが、底面は平坦である。

344～346は底部から体部が緩やかに立ち上がるタイプである。346は全体に丸みを帯びた器形で、体部と底部は内外面ともにナデ調整である。

347～350は前述のものとは比して、底部から体部が開き気味に立ち上がるものである。体外面は刷毛目、それ以外はナデを施す。

351～358・360・361・363・364は、前記2つのタイプに比較して広い底面を持つ資料である。概ね、体外面は刷毛目、それ以外はナデを施すが、358は体内面にも刷毛目が認められる。また、354は特に器壁が厚い。

359・362は底径が復原できない細片である。362は、底部から体部が開き気味に立ち上がる。

365は、僅かに凸レンズ状に膨らむ底部で、底部から体部が開き気味に立ち上がるものである。

367～369は土師器の甕であろう。所謂「古式土師器」と呼ばれる一群に包括されると思われる。

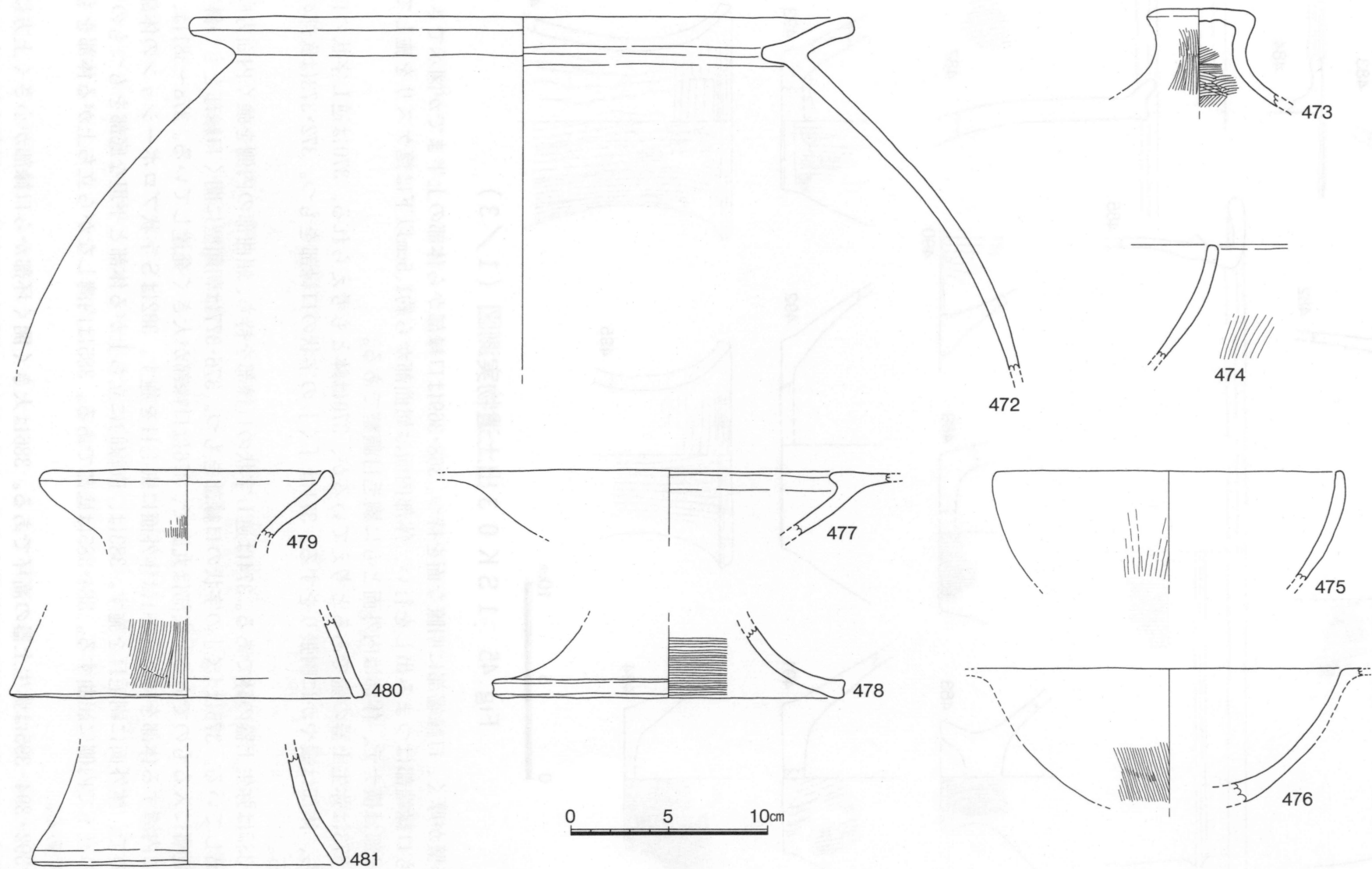


Fig.44 1SK30 (1SD20下層部分) 出土遺物実測図④ (1/3)

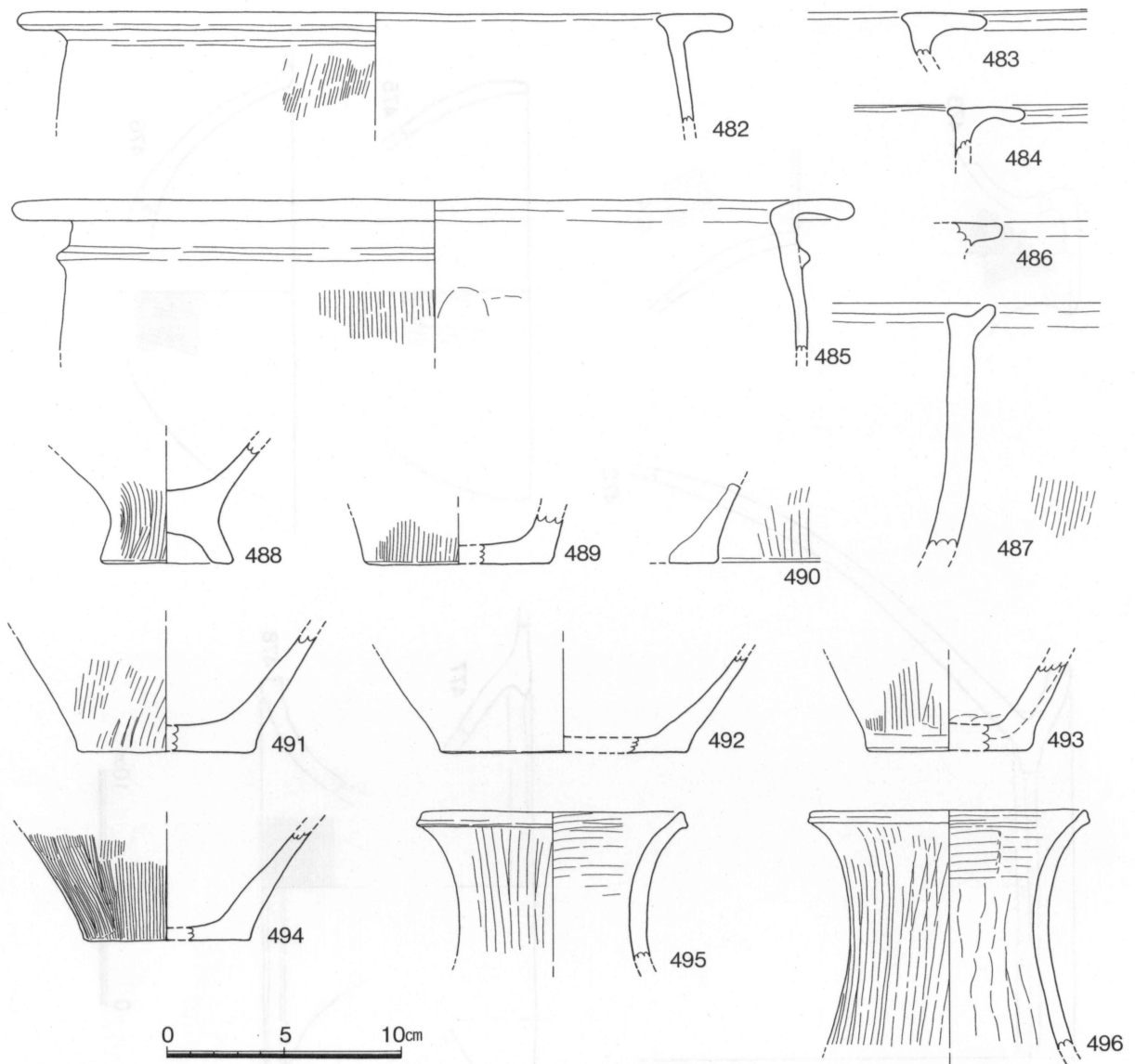


Fig.45 1SK03出土遺物実測図(1/3)

366は器壁が厚く、口縁端部に明瞭な面を持つ。368・369は口縁部から体部の上半までが図示できる。いずれも口縁端部はつまみ出しを行い、体部内面は屈曲部から約1.5cm以下は篋ケズリを施している。口縁部は横ナデ、体部は内外面ともに刷毛目調整である。

370～373は弥生土器の壺であると考えているが、370は鉢とも考えられる。370は逆L字状の口縁部を持ち、体部は緩やかに胴張りをする。371は「く」の字状の口縁部をもつ。372・373は底部の資料である。

374～385は弥生土器の鉢である。374は逆L字状の口縁部を持ち、屈曲部の内側を強く内面方向につまみ出している。375は「く」の字状の口縁部をもつ。376・377は朝顔型に開く口縁部をもつ鉢で、朝鉢の範疇に入るものである。底部は丸底で、376は口縁部が大きく発達している。378～381は、ボウル状に内湾する体部を持ち、381は体外面に刷毛目を施す。382はS字状プローションの体部を持つもので、体外面に刷毛目を施す。383は、直線的に立ち上がる体部と平坦な底部をもつもので、口縁部の直下で内側に屈曲する。384・385は底部である。385は内湾しながら立ち上がる体部をもつタイプである。

386～392・394・395は弥生土器の高坏である。386は大きく開く坏部から口縁部が小さく上方に立ち上がるもので、壺の口縁部の可能性もある。387～389は、断面がT字状の口縁部を持つもので、

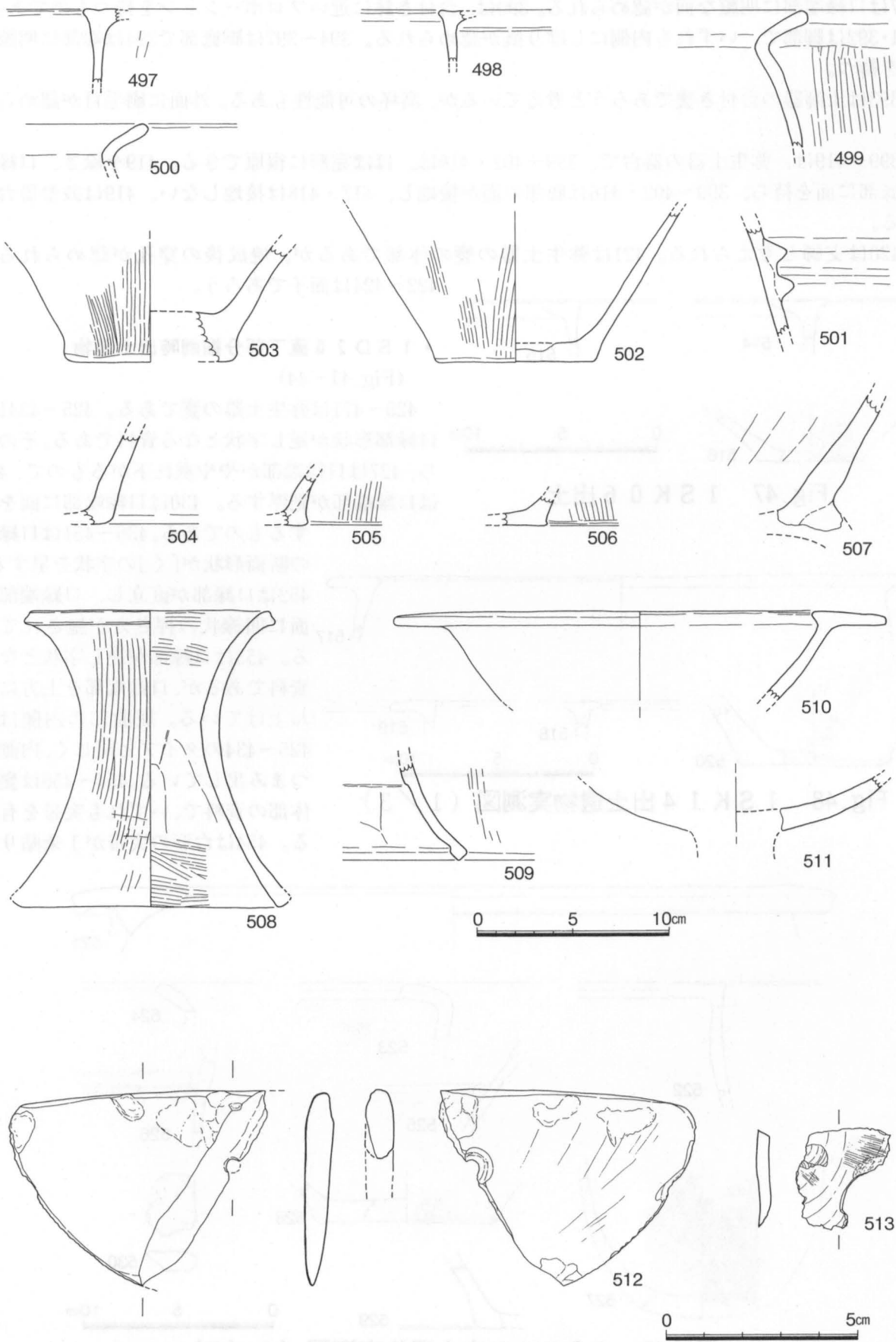


Fig.46 1SK04出土遺物実測図(1/3・2/3)

387は口縁端部に明瞭な面が認められる。390は、台付き鉢に近いプローションを持つものである。391・392は脚部で、いずれも内側にしぼり痕が認められる。394～397は脚底部で394は端部に明瞭な面を持つ。

393は土師器の台付き甕であろうと考えているが、高坏の可能性もある。外面に刷毛目が認められる。

399～419は、弥生土器の器台で、399～402・419は、ほぼ完形に復原できる。419を除き、口縁部と底部に面を持ち、399～402・416は底部の面が接地し、417・418は接地しない。419は鼓型器台である。

420は支脚と考えられる。421は弥生土器の甕の体部であるが、焼成後の穿孔が認められる。422～424は面子であろう。

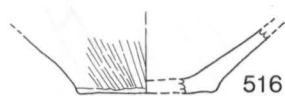


Fig. 47 1SK06出土(1/3)

・1SD20直下部分掘削時出土遺物
(Fig. 41～44)

425～471は弥生土器の甕である。425～434は、口縁部形状が逆L字状となる資料である。そのうち、427は口縁端部がやや垂れ下がるもので、429は口縁端部が肥厚する。430は口縁端部に面を有するものである。436～451は口縁部の断面形状が「く」の字状を呈する。

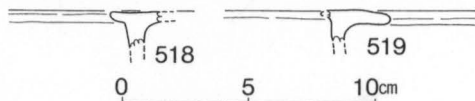
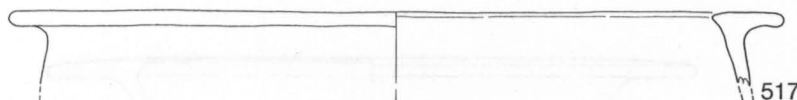


Fig. 48 1SK14出土遺物実測図(1/3)

452は口縁部が直立し、口縁端部の面に凹線状の押さえが施されている。453は口縁部が逆L字状となる資料であるが、口縁端部を上方に跳ね上げている。屈曲部の内側は、425～434のタイプと同じく、内側へつまみ出している。454～456は甕の体部の資料で、いずれも突帯を有する。454は台形の突帯が1条貼り付

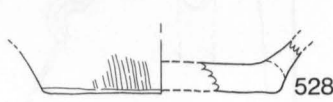
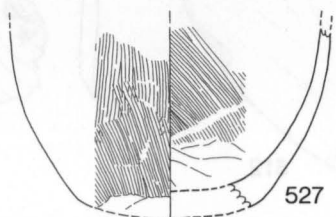
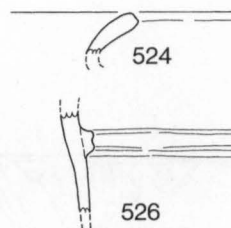
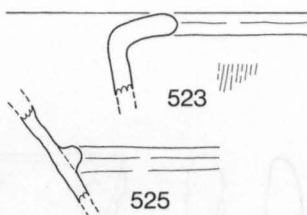
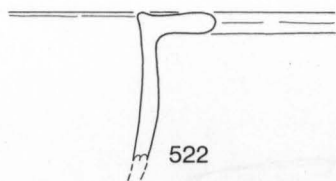
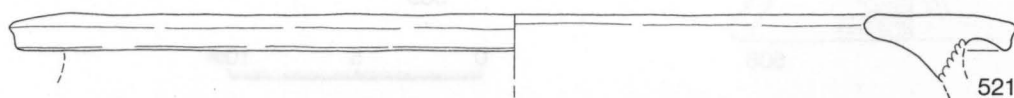


Fig. 49 1SK19出土遺物実測図(1/3)

き、455は三角突帯が1条貼り付く。457～471は甕の底部である。464は、体部内面に指頭圧痕が残る。

472は弥生土器の壺である。口縁部は甕様の逆L字状となり、端部に面を有する。473は弥生土器の蓋で、つまみ部のみ出土している。474～476は弥生土器の鉢である。474・475は、僅かに内湾する口縁部を有する。

477・478は弥生土器の高坏である。477は断面がT字状の口縁部をもつ。ともに、丹塗りである。

479～481は弥生土器の器台である。479は口縁部の資料で、端部は内湾する。

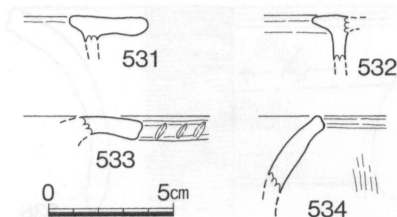


Fig.50 1SK21出土遺物実測図
(1/3)

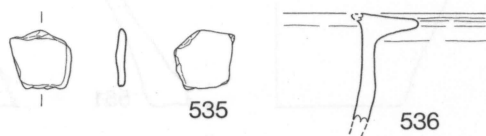


Fig.51 1SK24出土遺物実測図
(1/3)

1SK03 出土遺物 (Fig.45)

弥生土器の甕・器台が出土した。482～494は甕である。482～487は口縁部の資料で、482～484は口縁部が逆L字状を呈する。485は口縁部が深い「く」の字状である。487は、口縁端部が小さなキャリパー状となる類型で、黒斑が認められる。488～494は底部の資料である。488は、底部が上げ底になる。

495・496は器台である。同一個体である可能性が高い。ともに端部に面を持つ。

1SK04 出土遺物 (Fig.46)

弥生土器と石包丁、黒曜石剥片が出土した。弥生土器の器種は甕・器台・高坏がある。

497～507は甕である。497～500は、口縁部の資料である。497・498は口縁部が逆L字状を呈するタイプで、499・500は「く」の字状を呈している。501は体部の細片で、M字突帯がある。502～507は底部で、504は丹塗りが施されている可能性がある。また、507は台付き甕になるかも知れない。

508・509は器台で、508は口縁端部に面を有する。また、いずれの資料も底端部に面を持つが、ともに接地しない。

510・511は高坏で、510は全面に丹塗りを施しているようである。511は、坏部と脚部の接合部に粘土栓を用いる成形技法によっている。

512は石包丁で、1/3程が残存している。513は黒曜石の剥片である。

1SK06 出土遺物 (Fig.47)

弥生土器の甕が出土した。514・515は口縁部である。514はT字状、515は小さなキャリパー状の口縁を特徴とする。516は底部である。

1SK14 出土遺物 (Fig.48)

弥生土器の甕が出土した。517～519は口縁部である。517は口縁部が逆L字状を呈するタイプで、518・519はT字状を呈している。520は底部である。

1SK19 出土遺物 (Fig.49)

弥生土器の甕、粘土塊が出土した。521～529は甕である。521～524は口縁部である。521は、口縁部がT字状、522は逆L字状を呈する。523・524は口縁部断面が「く」の字状となる資料である。525・

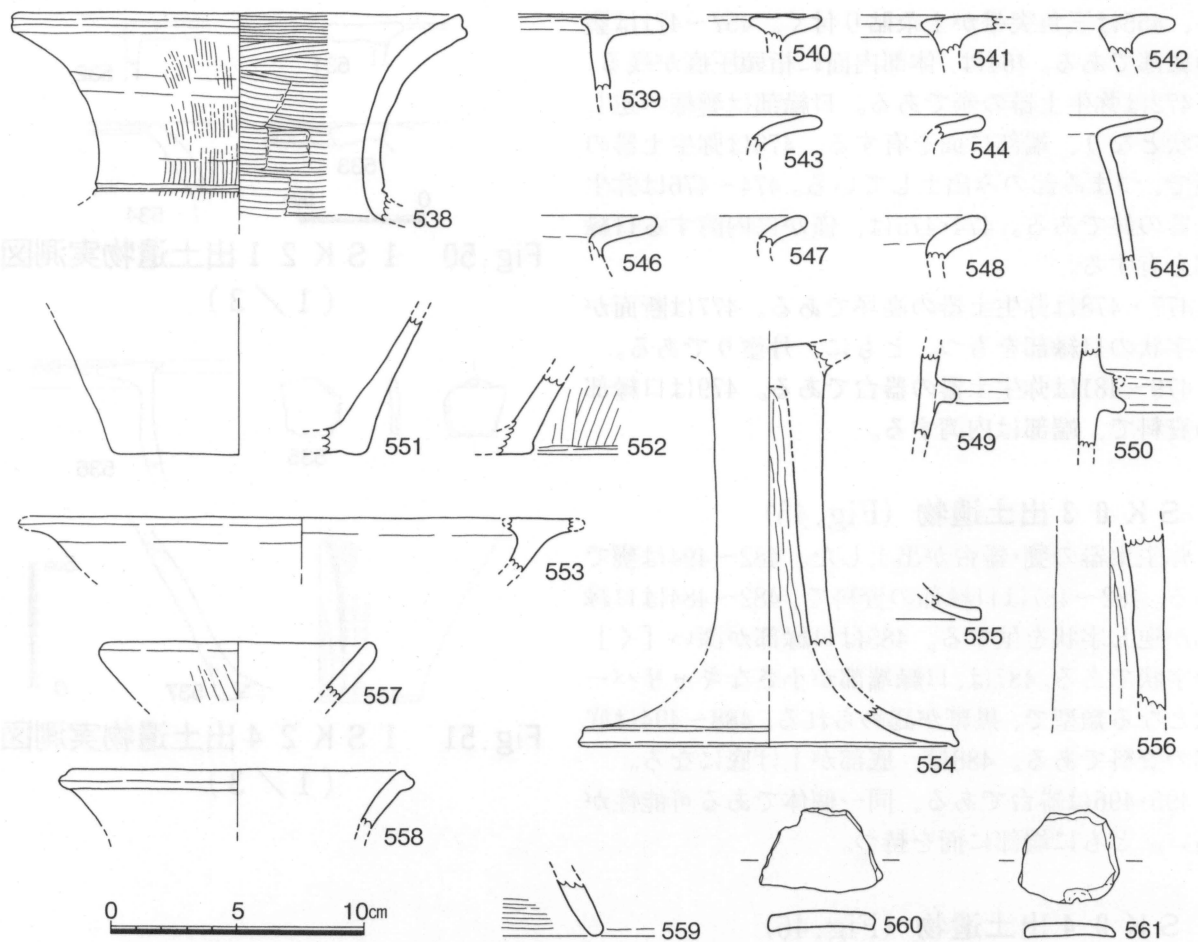


Fig.52 1SK34 出土遺物実測図 (1/3)

526は体部の細片で、525は三角突帯、526はM字突帯が、それぞれ1条貼り付けられている。527~529は底部である。528は、体外面が刷毛目でそれ以外をナデ調整によっているが、527は体内面まで刷毛目が施されている。

また、530は粘土塊である。きめ細かな胎土が使われている。

1SK21 出土遺物 (Fig.50)

弥生土器の甕と器台が出土した。

531~533は、甕である。いずれも口縁部の資料である。531・532は口縁部が逆L字状となるものである。533は丹塗が施され、端部には面を形成している。

534は器台の口縁部で、端部の面に沈線状の凹みが1条認められる。

1SK24 出土遺物 (Fig.51)

弥生土器の面子・甕が出土した。

535は、面子であろうと考えている。甕の体部片を再加工したものと理解している。

536・537は甕である。536は、口縁部の資料である。537は底部で、体部外面は刷毛目、それ以外はナデを施している。いずれも、胎土に砂粒を多く含んでいて、焼成は良好である。

1SK34 出土遺物 (Fig.52)

弥生土器の壺・甕・高坏・鉢・器台・面子が出土した。

538は壺である。復原口径は18.0cmを測る。

539～552は甕である。539～548は口縁部の資料である。539～542は、口縁部の断面形状が逆L字状を呈するタイプである。いずれも、折曲げ部の内面を内側につまみだしている。543～548は、口縁部が「く」の字状となるものである。544・548は口縁端部を肥厚させている。また、544は丹塗りを施している。549・550は体部の資料である。551・552は底部である。552の外底面が未調整となっている。

553～556は高坏である。553は口縁部で、T字状の断面形状をもつ。554・555は脚部である。いずれも内面に絞り痕が残っている。556は脚底部である。底端部に面を持つが、面は接地しない。

557は鉢である。復原口径は11.0cmを測る。

558・559は器台である。558は口縁部、559は底部の細片である。

560・561は面子である。いずれも甕体部片の再加工品であろう。

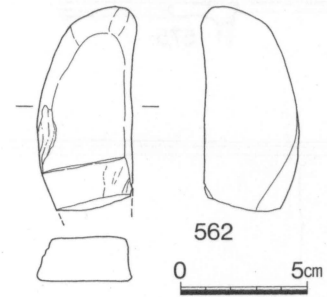


Fig.53 1SK36
出土遺物実測図
(1/3)

1SK36 出土遺物 (Fig.53)

石製品が出土した。時期や用途は不明である。

1SK39 出土遺物 (Fig.54)

弥生土器の甕が出土した。563～570は口縁部である。563～565は口縁部が逆L字状となるタイプである。564は口縁端部を上方に跳ねあげるもので、565は、逆に口縁端部が垂れ下がるものである。566～570は「く」の字状の口縁部をもつ類型である。いずれも口縁端部が肥厚する特徴をもつ。そのうち568は、折曲げ部の内側に緩い稜線が認められる。571・572は体部の細片である。571はM字突帯と三角突帯を1条ずつ貼り付けている。573・574は底部の細片である。573は体外面にも刷毛目は認められず、ナデ調整を施している。574は体外面に刷毛目を施し、その他はナデ調整によっている。また、外底面は上げ底状としていて、やや古い様相を呈している。

1SK43 出土遺物 (Fig.55)

弥生土器の甕・鉢・器台・高坏・粘土塊、須恵器の坏、黒曜石の剥片が出土した。

575～595は弥生土器である。575～587は甕で、575～585は口縁部である。575～580は、口縁部の断面形状が逆L字状となるもので、すべて折曲げ部の内面を内側につまみだしている。そのうち575は、口縁端部を肥厚させている。581～585は口縁部が「く」の字状となるものである。581は、口縁端部が僅かに内湾している。582は、口縁端部に面を形成し、そこに沈線状の凹みを1条つくっている。586・587は底部の資料である。

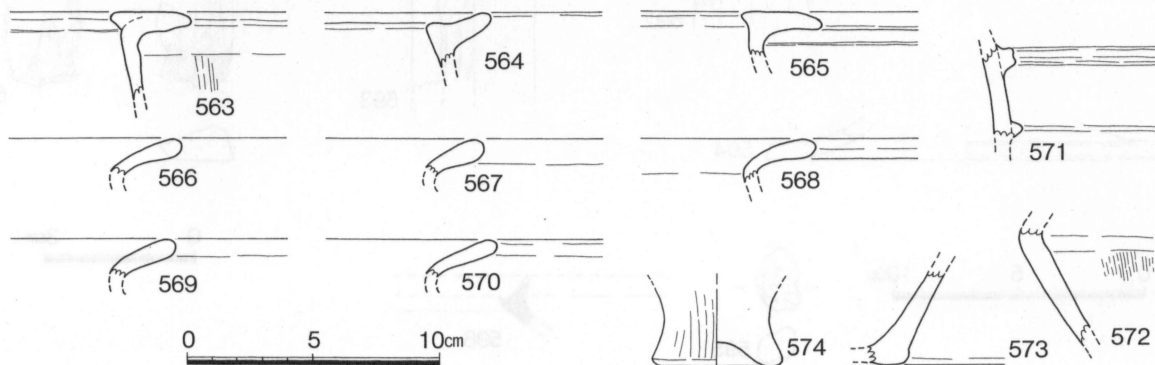


Fig.54 1SK39 出土遺物実測図 (1/3)

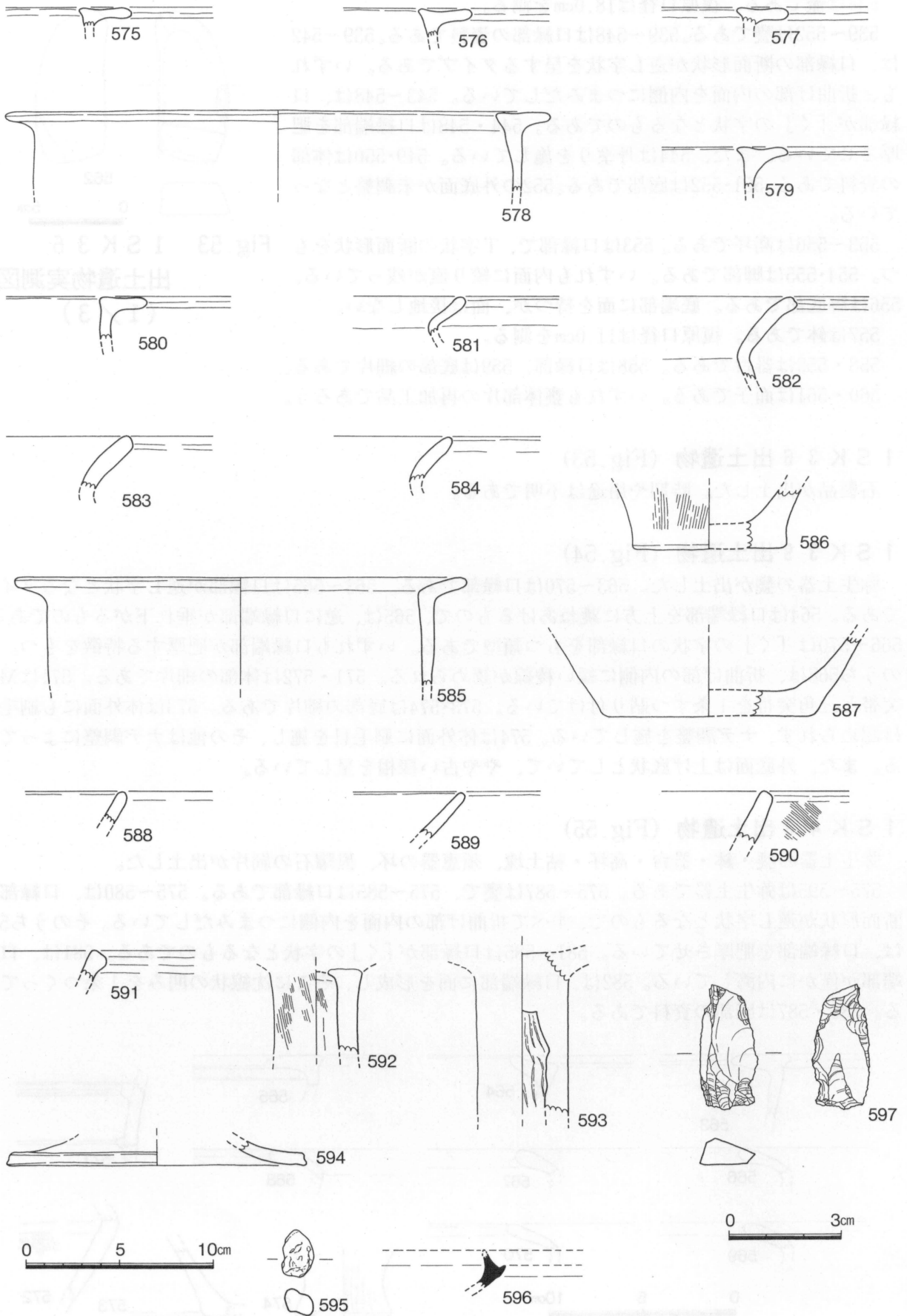


Fig.55 1SK43出土遺物実測図(1/3・2/3)

588～590は鉢である。588は僅かに内湾する口縁部を特徴とし、589は逆に外反する。590は口縁端部に面をもつタイプである。

591は器台の口縁部で、端部に面をつくりだす。

592～594は高坏で、すべて丹塗りが施されている。592・593は脚部の細片で、内面に絞り痕が認められる。594は、脚底部の資料である。

595は粘土塊で、やはり、きめの細かい胎土を使用している。

596は、須恵器の坏である。口縁部の細片で、胎土は精良である。

597は、黒曜石の剥片である。

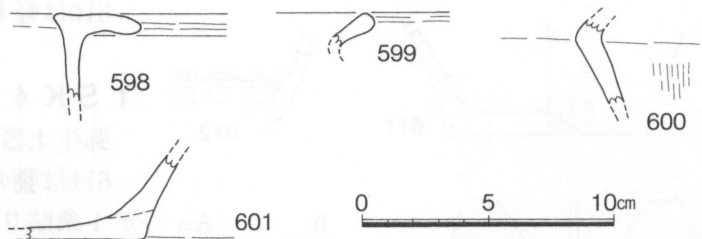


Fig.56 1SK44出土遺物実測図(1/3)

1SK44出土遺物 (Fig.56)

弥生土器の甕が出土した。598・599は口縁部の資料で、598は逆L字状、599は「く」の字状の断面形状を特徴とする。600は体部の細片、601は底部の細片である。

1SK46出土遺物 (Fig.57)

弥生土器、軽石が出土した。

弥生土器はすべて甕である。602～604は口縁部で、いずれも逆L字状の断面形状であるが、603は口縁端部を肥厚させている。605は体部の細片で、M字突帯を1条貼り付けている。606～609は底部である。基本的には、体外面に刷毛目を施し、それ以外をナデ調整によっているが、605・608は体外面もナデ調整を施している。

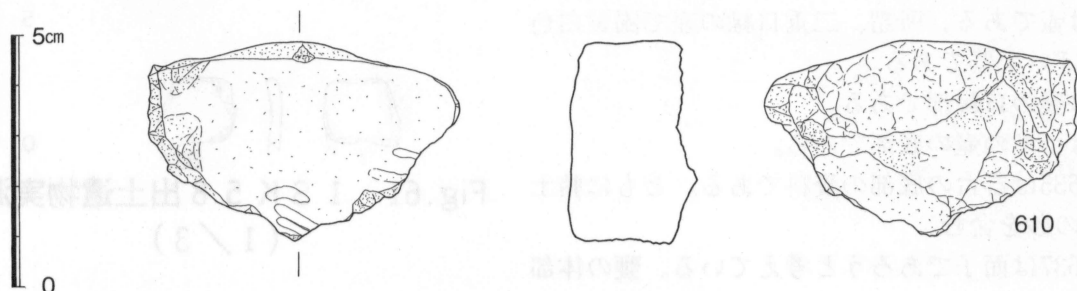
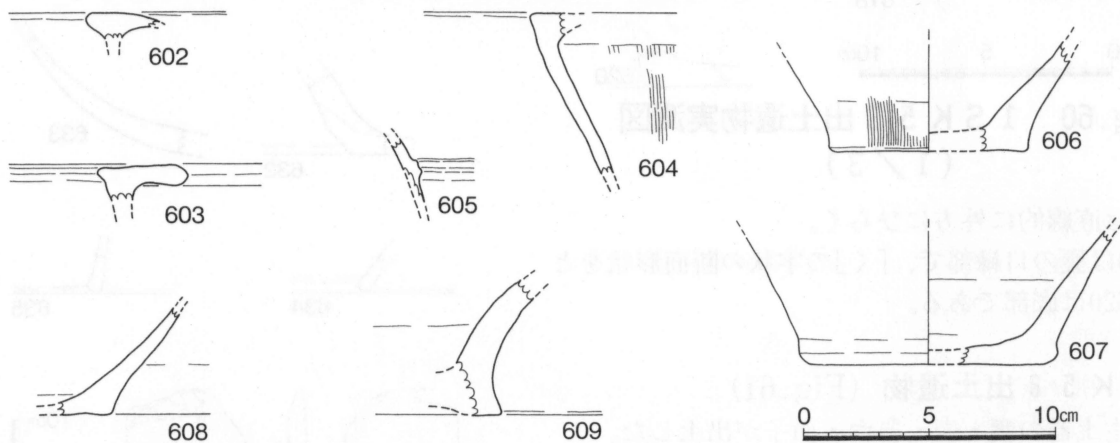


Fig.57 1SK46出土遺物実測図(1/3・2/3)

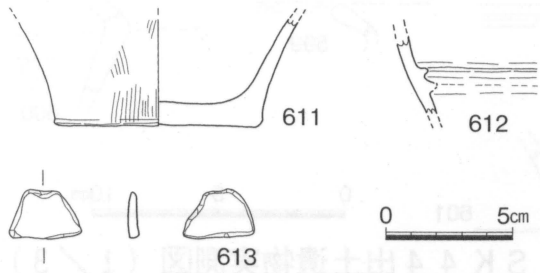


Fig. 58 1 SK 4 7 出土遺物実測図 (1/3)

610は軽石の破片である。

1 SK 4 7 出土遺物 (Fig. 58)

弥生土器の甕・面子が出土した。

611は甕の底部である。612は甕の体部で、M字突帯が1条貼り付く。613は面子であろう。

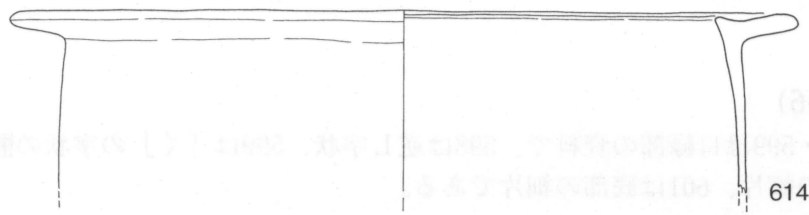


Fig. 59 1 SK 5 1 出土遺物実測図 (1/3)

1 SK 5 1 出土遺物 (Fig. 59)

弥生土器の台付鉢・甕・鉢が出土した。

614は台付鉢の底部である。

615は甕の口縁部で、逆L字状の断面形状をもち、折曲げ部の内面を内側につまみだしている。

616は、鉢の口縁部の資料である。



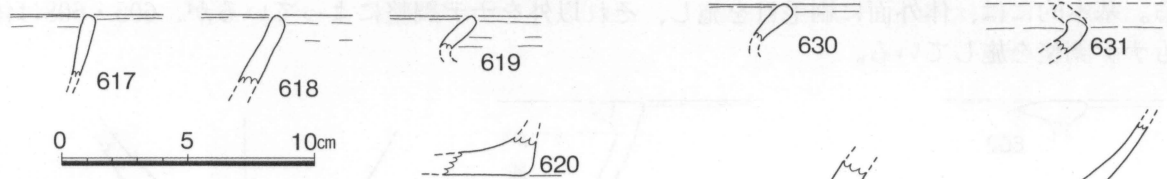
Fig. 60 1 SK 5 3 出土遺物実測図 (1/3)

1 SK 5 3 出土遺物

(Fig. 60)

弥生土器の鉢・甕が出土した。

617・618は鉢である。ともに口



縁部は直線的に外方にひらく。

619は甕の口縁部で、「く」の字状の断面形状をとる。620は底部である。

1 SK 5 8 出土遺物 (Fig. 61)

弥生土器の甕・壺・器台・面子が出土した。

630は甕の口縁部である。「く」の字状の断面形状を特徴とする。

631は壺である。所謂、二重口縁の壺で濁黄白色の白っぽい土器である。

632は甕の口縁部である。

633は小型の壺の底部である。

634・635は器台の底部の資料である。ともに胎土に多量の砂を含む。

636・637は面子であろうと考えている。甕の体部の破片の再加工品である。

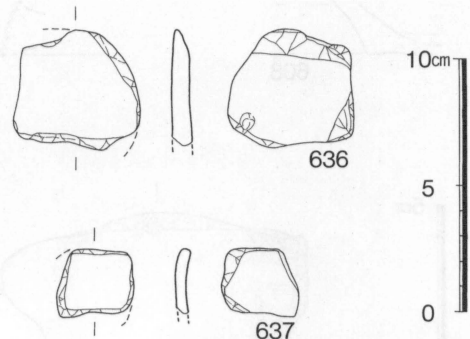


Fig. 61 1 SK 5 8 出土遺物実測図 (1/3)

1SK64 出土遺物 (Fig.62)

弥生土器の甕・器台・高坏が出土した。
638・639は甕の口縁部である。638は逆L字状、639は「く」の字状の断面形状である。

640は器台の底部細片である。641は高坏の脚部で、外面に刷毛目を施している。

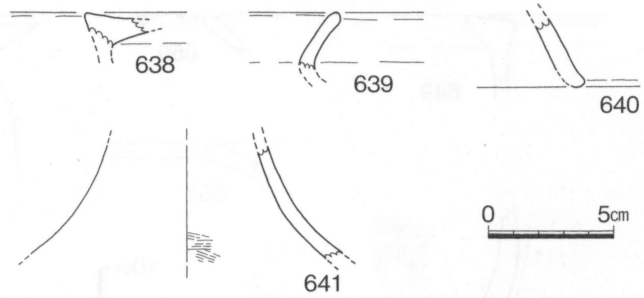


Fig.62 1SK64 出土遺物実測図 (1/3)

1SK69 出土遺物 (Fig.63)

弥生土器の甕・器台が出土した。
642~645は甕である。642・643は口縁部の細片で、「く」の字状の断面形状である。

弥生土器の甕・器台が出土した。
644は体部であるが、土師器となるかも知れない。645は底部である。

646~648は器台の底部である。

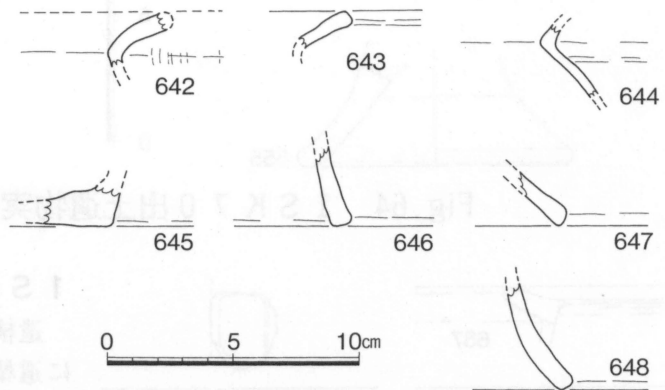


Fig.63 1SK69 出土遺物実測図 (1/3)

1SK70 出土遺物 (Fig.64)

弥生土器の甕・壺・器台、サヌカイトの剥片が出土した。

649~652・654は甕である。649~652は口縁部で、649は逆L字状、その他は「く」の字状の断面形状である。654は底部である。

653は壺の頸部の細片である。風化が激しく、調整は不明である。

654は器台で、下半の1/2が残存している。調整はすべてナデ調整である。

655はサヌカイトの剥片である。

1SK71 出土遺物 (Fig.65)

弥生土器の甕・器台・面子が出土した。

657~661は甕である。すべて口縁部の資料で、657~659は逆L字状の断面形状であるが、659は口縁端部が反り上がっている。660・661は「く」の字状の断面形状を特徴とするが、661は口縁端部を肥厚させている。

662は器台の底部である。663は面子であろう。

1SK74 出土遺物 (Fig.66)

弥生土器の甕・器台・鉢・面子が出土した。

664~669は甕である。664は逆L字状の口縁部の細片である。665・666は「く」の字状の口縁部であるが、666は屈曲が浅い。667~669は底部である。

670は器台の底部細片である。671は鉢で、直線的に外方へひらく口縁部を有する。672は面子であろうと考えている。

1SP42 出土遺物 (Fig.67)

弥生土器の鉢・甕・高坏が出土した。

673は鉢の口縁部で、外方へひらく口縁部を有する。674は甕の口縁部の細片である。675は高坏の脚部で、坏部との接合は、器台状に接続したあとに別の粘土で栓をする手法を用いている。

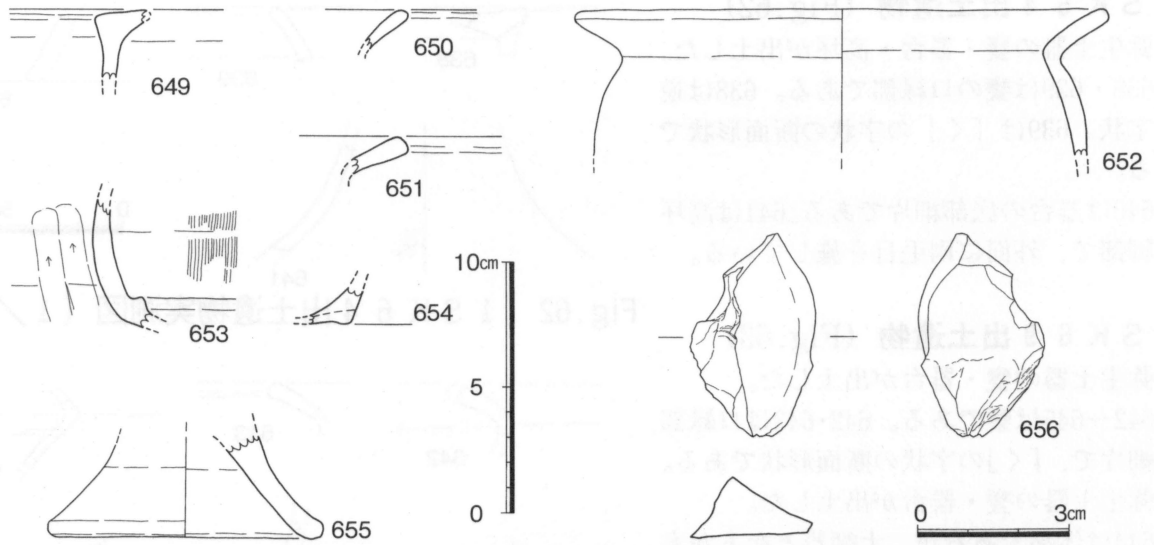


Fig.64 1SK70出土遺物実測図(1/3・2/3)

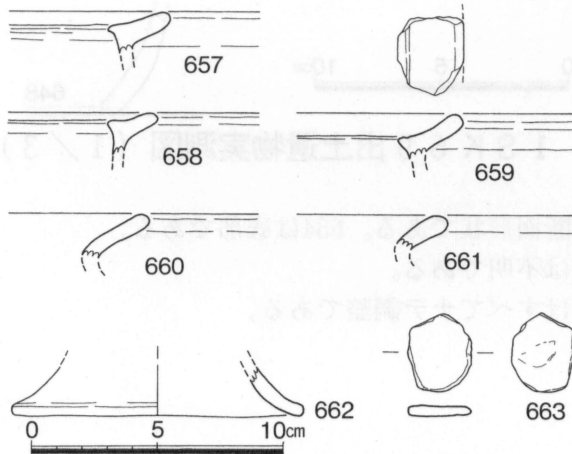


Fig.65 1SK71出土遺物実測図(1/3・2/3)

1SD35出土遺物 (Fig.68~77)

遺構検出面が非常に不安定であったため、掘削時に遺構面直上の包含層内の遺物が混入する恐れがあった。そのため、安定した面が確認されるまでの出土遺物と、それよりも下位から出土した遺物をわけて取り上げた。前者の段階の出土遺物を検出面出土遺物、後者の段階の出土遺物を遺構内出土遺物として区分して報告したい。

・検出面出土遺物 (Fig.68~72)

弥生土器・土師器・軽石・黒曜石・サヌカイトが出土した。弥生土器では甕・壺・鉢・器台・高坏・杓子・面子・粘土塊があり、土師器では甕・鉢・坏・皿がある。サヌカイトでは剥片、黒曜石は、石鏃・

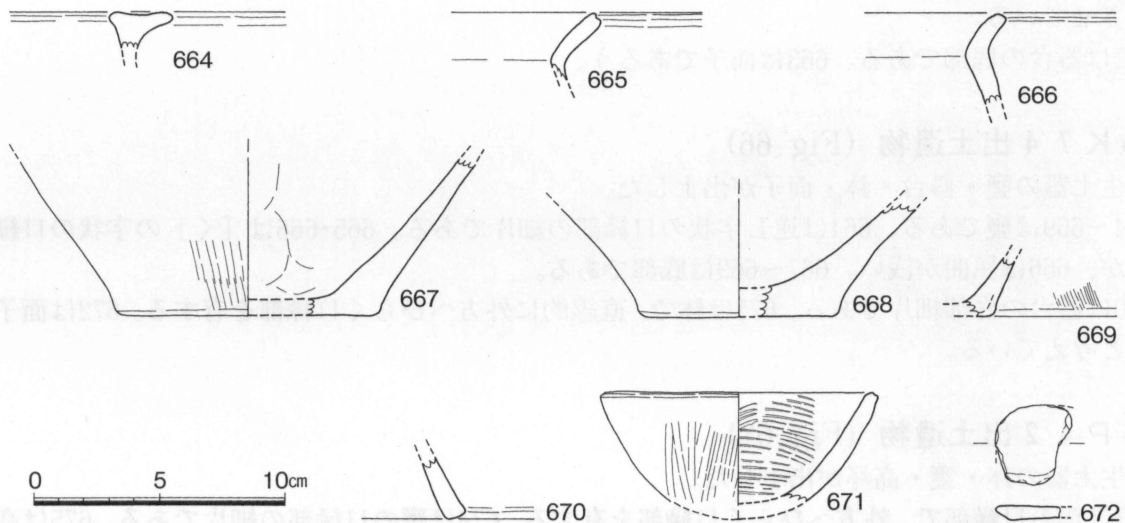


Fig.66 1SK74出土遺物実測図(1/3)

剥片がある。

676~738は弥生土器である。676~716は甕で、そのうち676~692は口縁部の資料である。676・677は、口縁部の断面形状が逆L字状となるタイプで、ともに折曲げ部の内面を内側につまみだしている。678~692は、断面が「く」の字状となる類型である。その中でも、688は特に屈曲が強く、深い「く」の字状となっている。また、679は口縁端部に沈線状の凹みが1条認められる。689~692は口縁端部に刻み目が施される一群である。いずれも金雲母と砂粒を胎土に含有する。693は体部の細片である。台形突帯が1条貼り付けられ、突帯には刻み目が施されている。694~716は底部である。701は底部に穿孔がみられ、これは焼成後に内外両面から穿たれたようである。703は内底面に指頭痕が残っている。

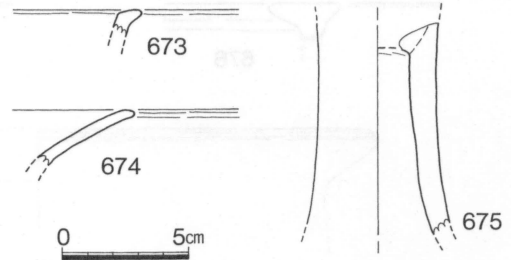


Fig.67 1 S P 4 2 出土遺物
実測図 (1 / 3)

717・718は壺であろうと考えているが、717は高坏かもしれない。717は口縁部で、「く」の字状の断面形状である。718は底部で、体内面にみられ、これは焼成後に内外両面から穿たれたようである。719・720は鉢である。ともに緩やかに内湾する口縁部をもつ。720は口縁部直下に穿孔がみられ、これは焼成後に穿たれたようである。

721~725は器台である。すべて底部の資料で、723は体内面に指頭痕が残っている。722~724は底端部に面をつくるが、その面は接地しない。

726~732は高坏である。726・727は口縁部の資料で、断面形状はともにT字状である。727は口縁端部に面がある。728~730は脚部で、728・730には内面に絞り痕が認められる。731・732は脚底部の細片である。

733・734は杓子の柄の部分ではないかと考えている。ともに白っぽい色調で、焼成は良い。弥生土器に含めるかどうか、再検討の余地はある。

735~737は面子であろう。すべて、甕の体部等の破片の再加工品である。738は粘土塊である。739は軽石である。

740~749は、土師器である。740~744は甕で、うち740~743は口縁部の資料である。すべて「く」の字状の断面形状であるが、741・743は端部をつまみだしている。742の胎土は精良である。744は底部で、体外面に黒斑が認められる。

745~747は鉢である。746・747は口縁部で、746は外方にひらく口縁の端部に面を形成している。747は底部で、内面に指頭痕が残る。

748は壺の底部である。749は皿で、口縁端部は丸くおさめている。

750・751はサヌカイトの剥片である。752は黒曜石の石鏃である。753~755は黒曜石の剥片である。

756~755は黒曜石の剥片である。

・遺構内出土遺物 (Fig.73~77)

弥生土器・黒曜石が出土した。弥生土器では甕・壺・鉢・高坏・器台・蓋・面子・粘土塊があり、黒曜石は剥片がある。

756~864は弥生土器である。756~795は甕で、うち756~787は口縁部の資料である。756~771は口縁部の断面形状が逆L字状となるタイプの一群である。すべて折曲げ部の内面を内側につまみだしている。765・767は口縁端部を反り上げている。768・771は端部が肥厚するタイプで、770は端部が垂れ下がっている。772~787は口縁部が「く」の字状となるタイプであるが、775は深く折曲がり、折曲げ部の内面には緩い稜線が認められる。778・779・781は口縁端部に面を形成し、782は口縁端部が肥厚する。785~787は782と同じく、口縁部が「く」の字状の断面形状で端部を肥厚させるが、折曲げ部の内面に稜線が認められる一群である。特に786・787は明瞭である。788~795は、体部の資料である。788~790は三角突帯が2条貼り付けられている。791・792は同じく三角突帯であるが、1条が貼り付けられている。793~795は突帯が1条貼り付く。

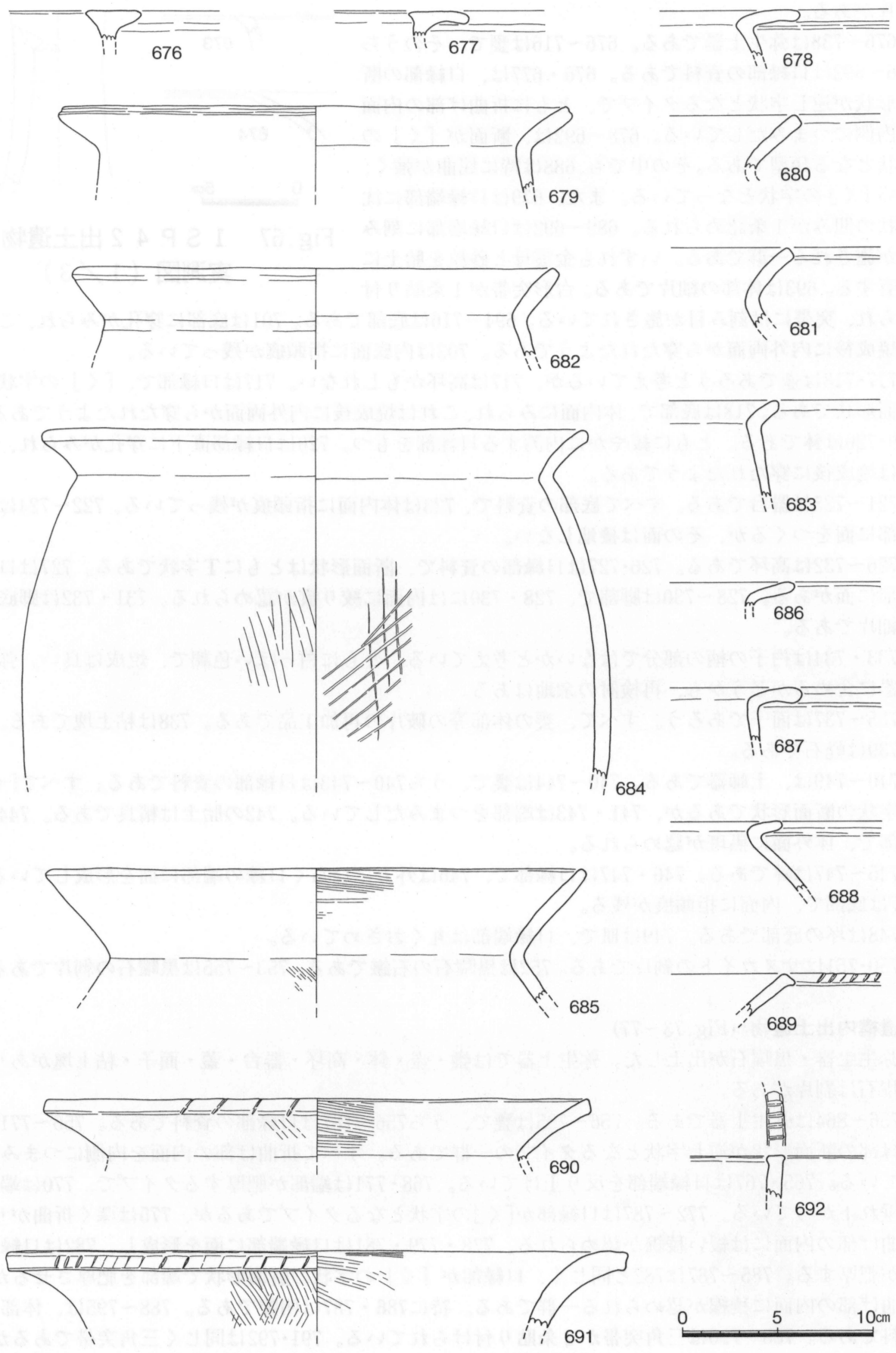


Fig.68 1SD35 出土遺物実測図① (1/3)

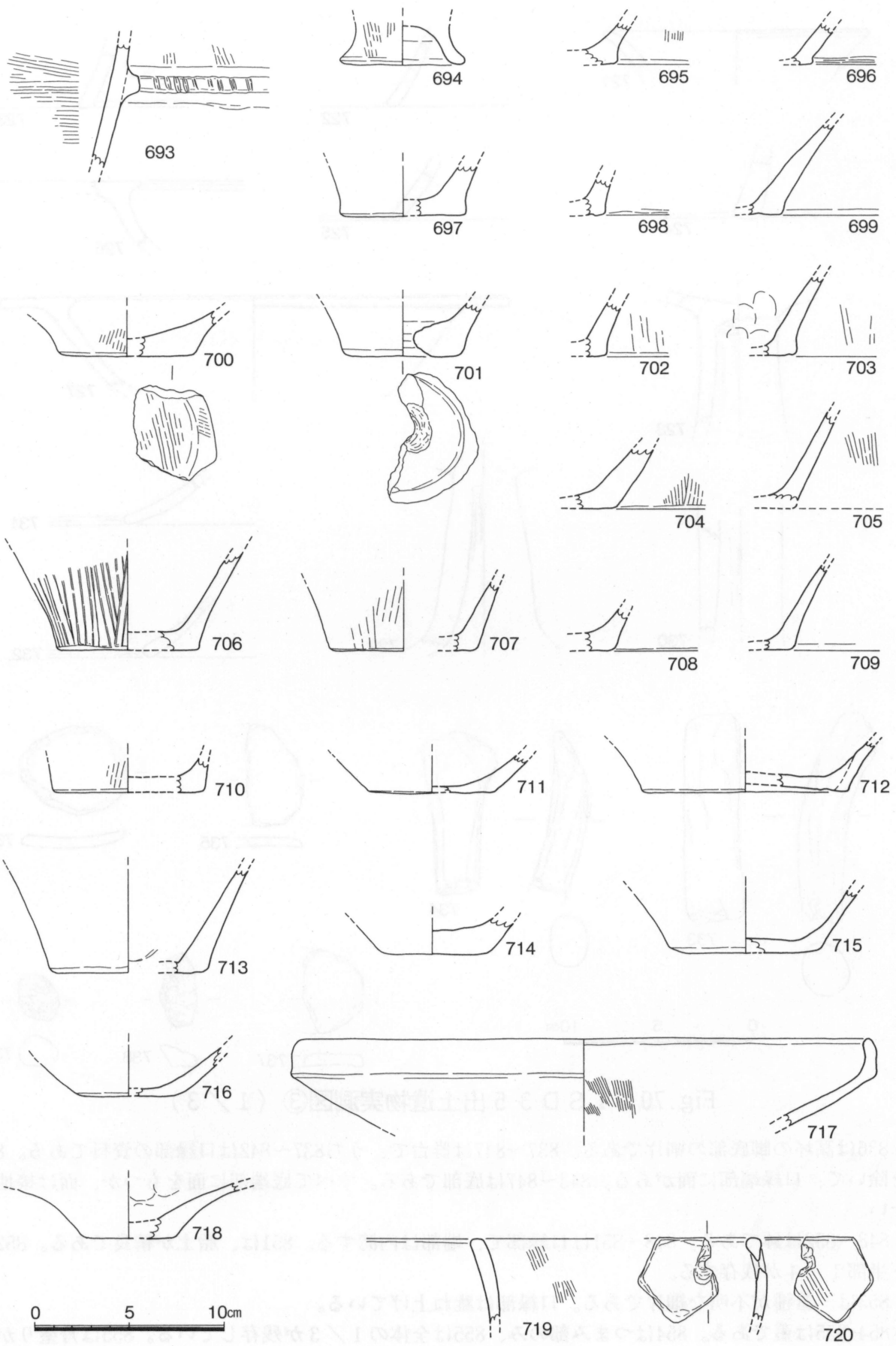


Fig.69 1SD35出土遺物実測図②(1/3)

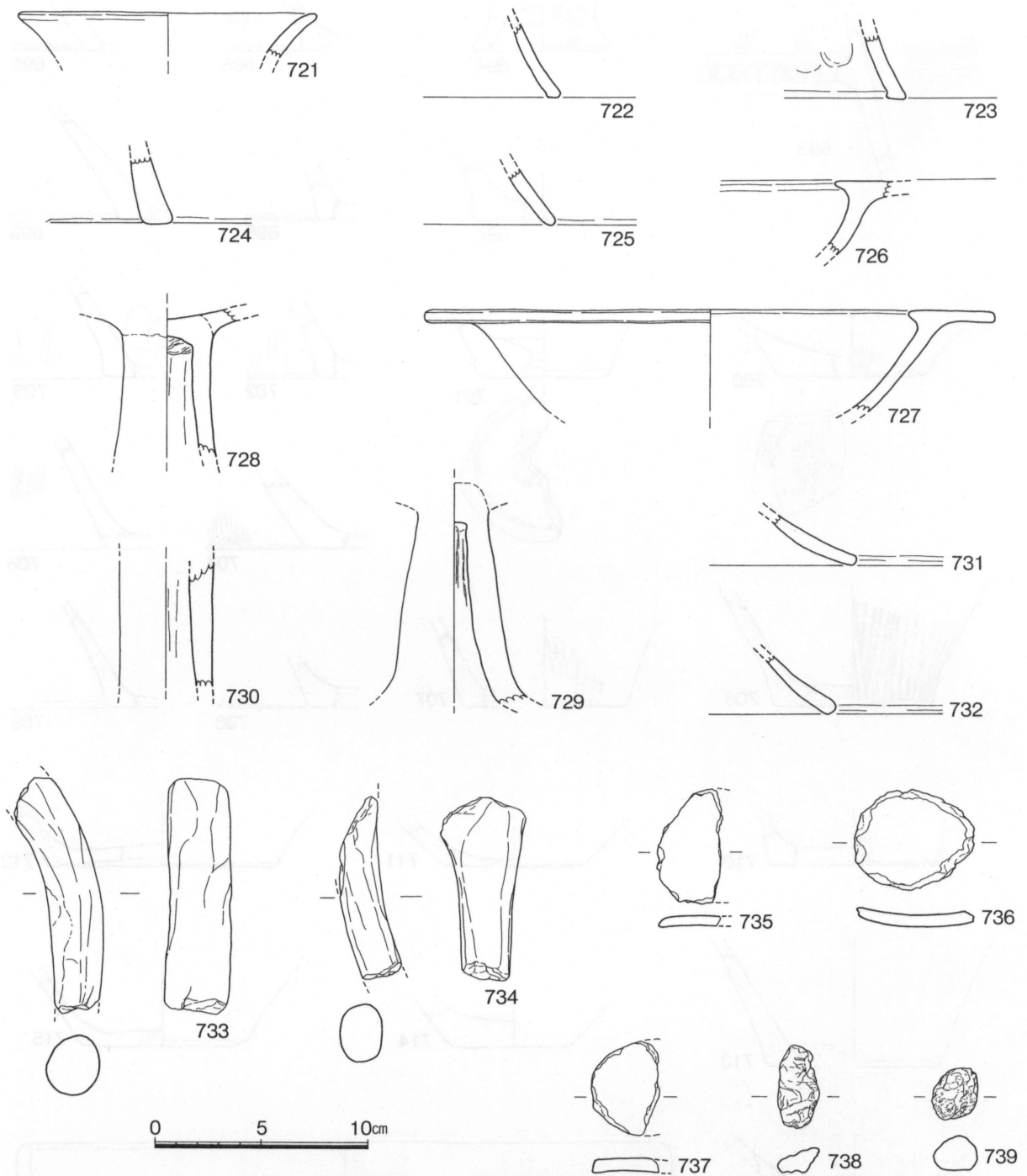


Fig.70 1SD35 出土遺物実測図③ (1/3)

836は高坏の脚底部の細片である。837~847は器台で、うち837~842は口縁部の資料である。838を除いて、口縁端部に面がある。843~847は底部である。すべて底端部に面をもつが、面は接地しない。

848~852は鉢である。848~851は口縁部で、端部は内湾する。851は、胎土が精良である。852は下半部1/4が残存する。

853は、器種が不明な細片である。口縁部は跳ね上げている。

854・855は蓋である。854はつまみ部のみ、855は全体の1/3が残存している。855は丹塗りが施されている。

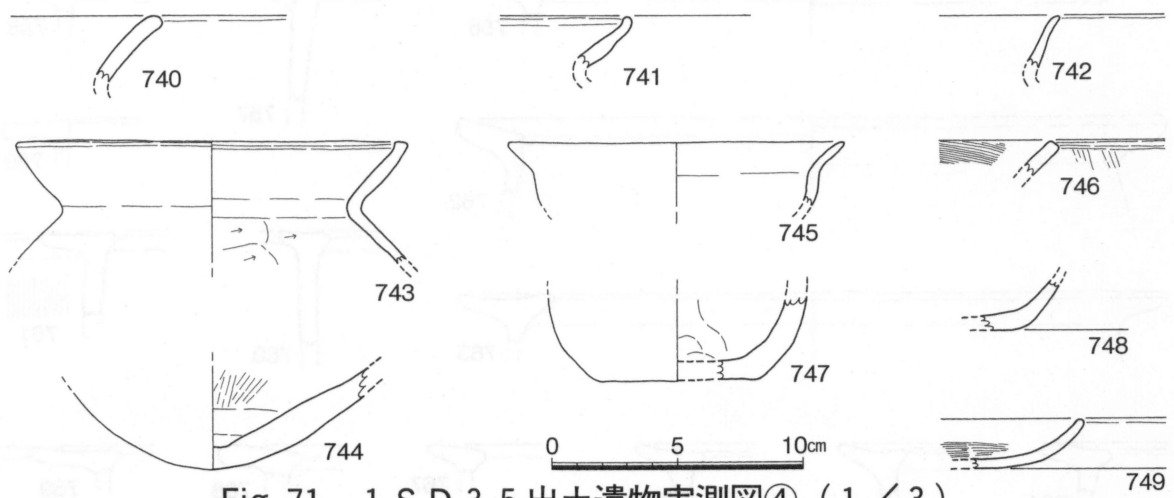


Fig.71 1 S D 3 5 出土遺物実測図④ (1 / 3)

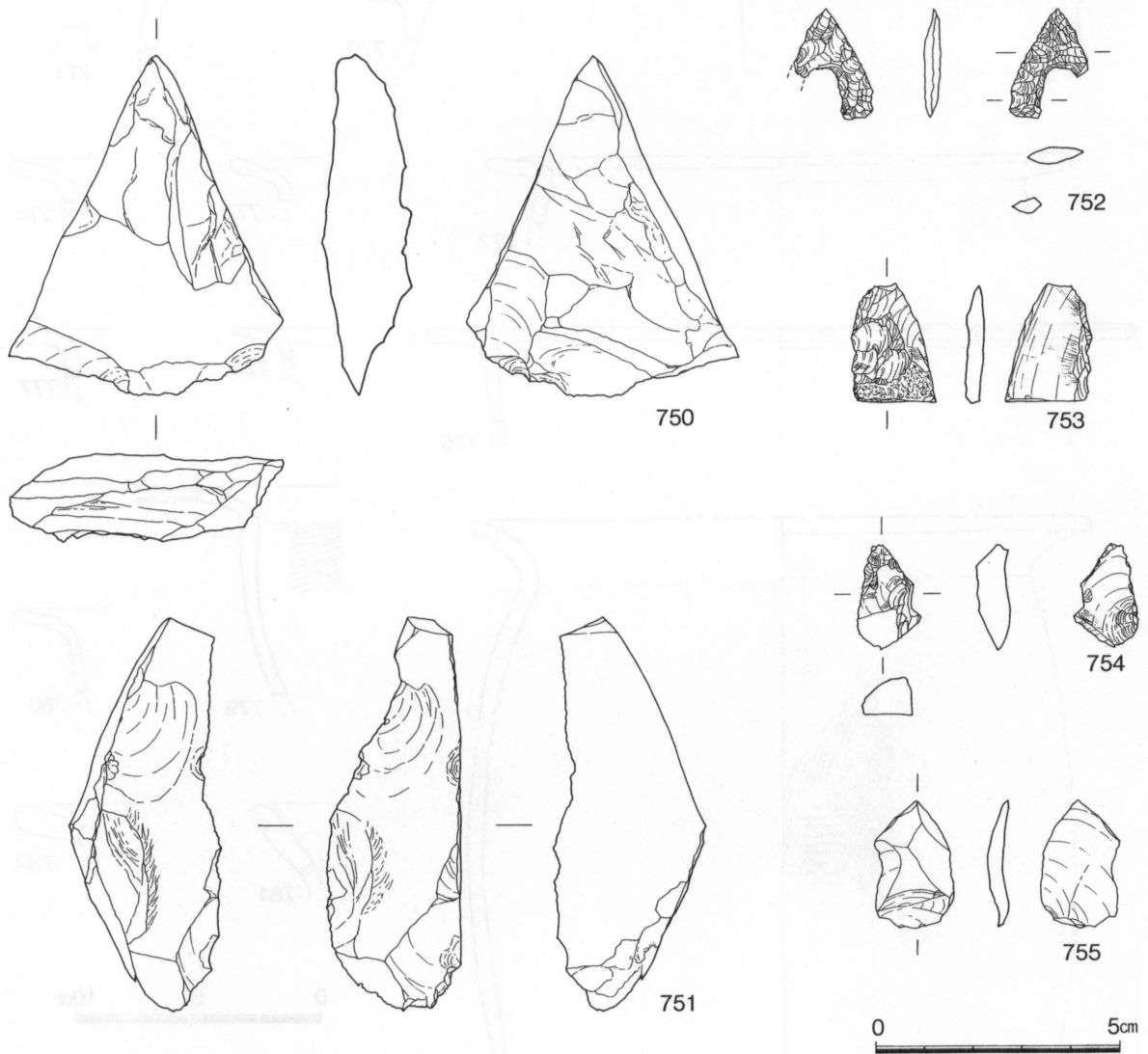


Fig.72 1 S D 3 5 出土遺物実測図⑤ (2 / 3)

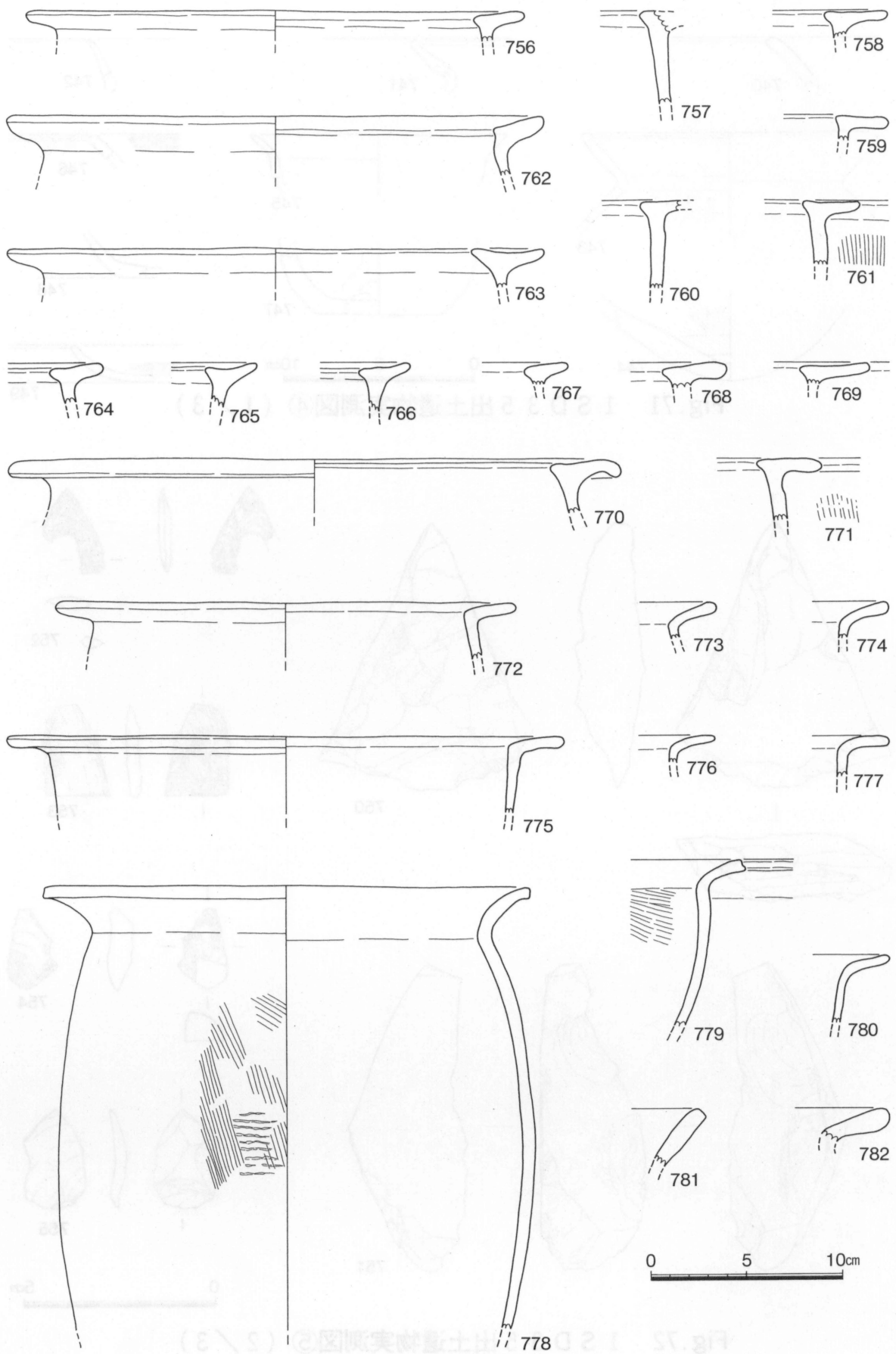


Fig.73 1 S D 3 5 出土遺物実測図⑥ (1 / 3)

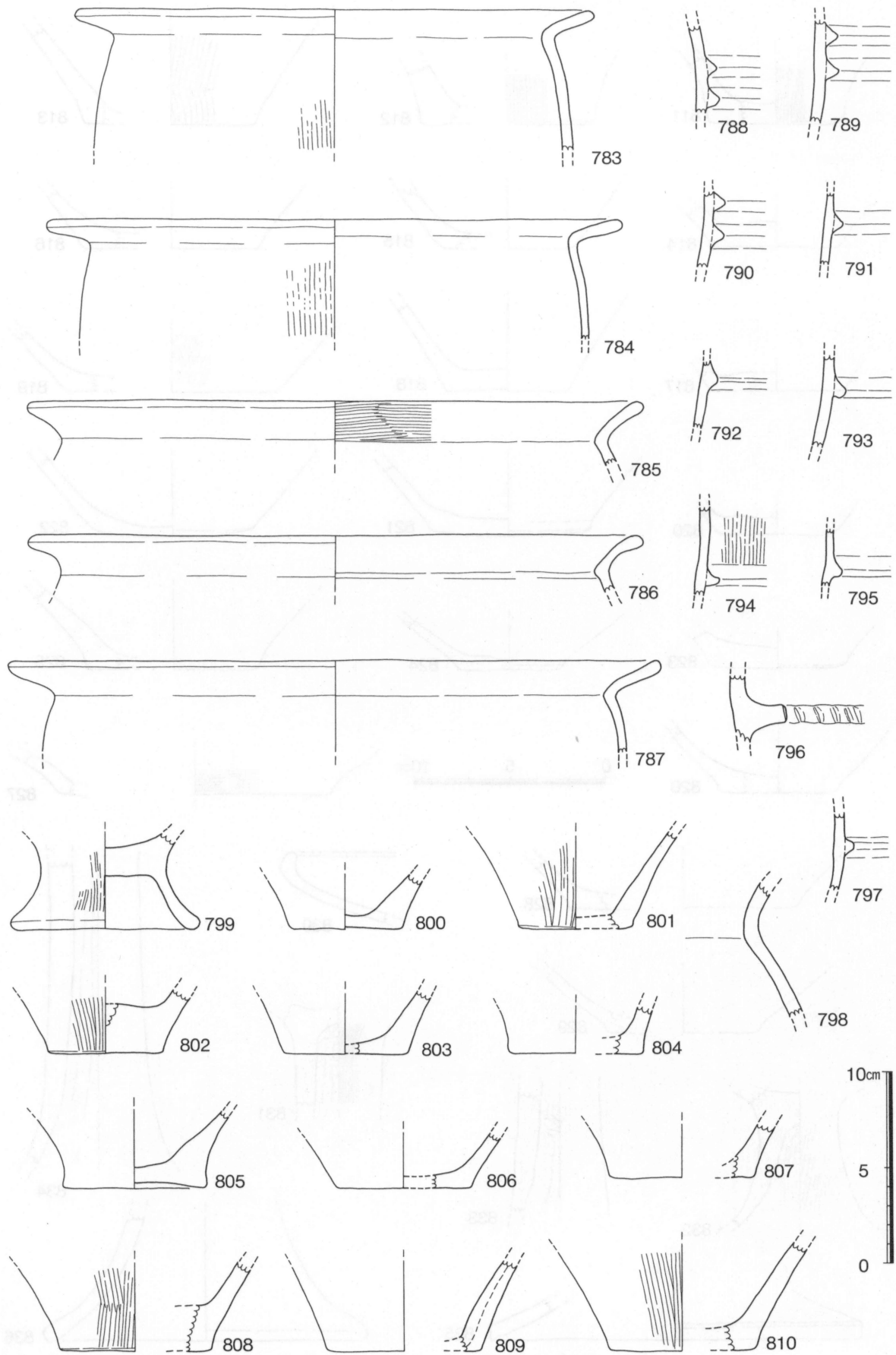


Fig.74 1 S D 3 5 出土遺物実測図⑦ (1 / 3)

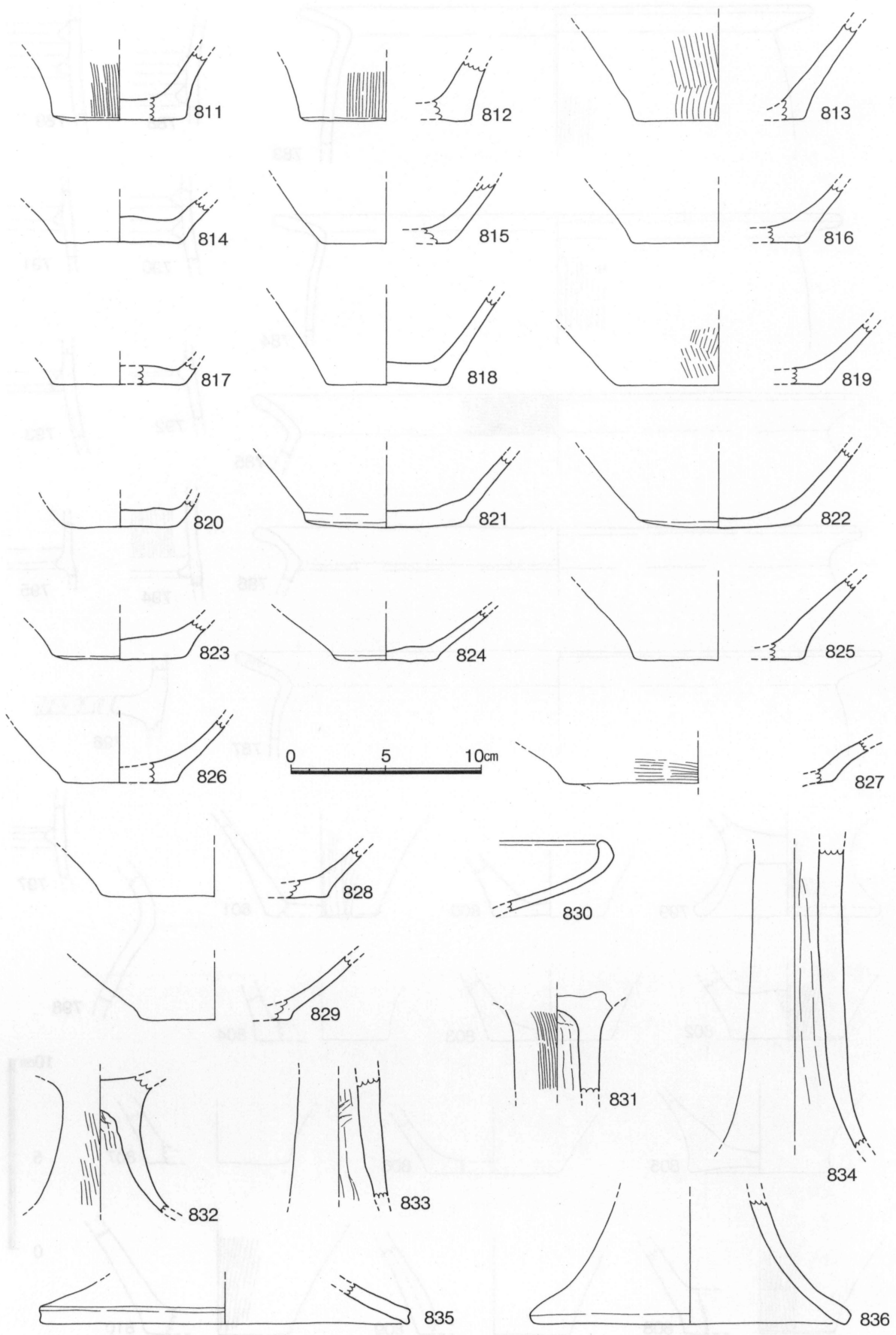


Fig.75 1 S D 3 5 出土遺物実測図⑧ (1 / 3)

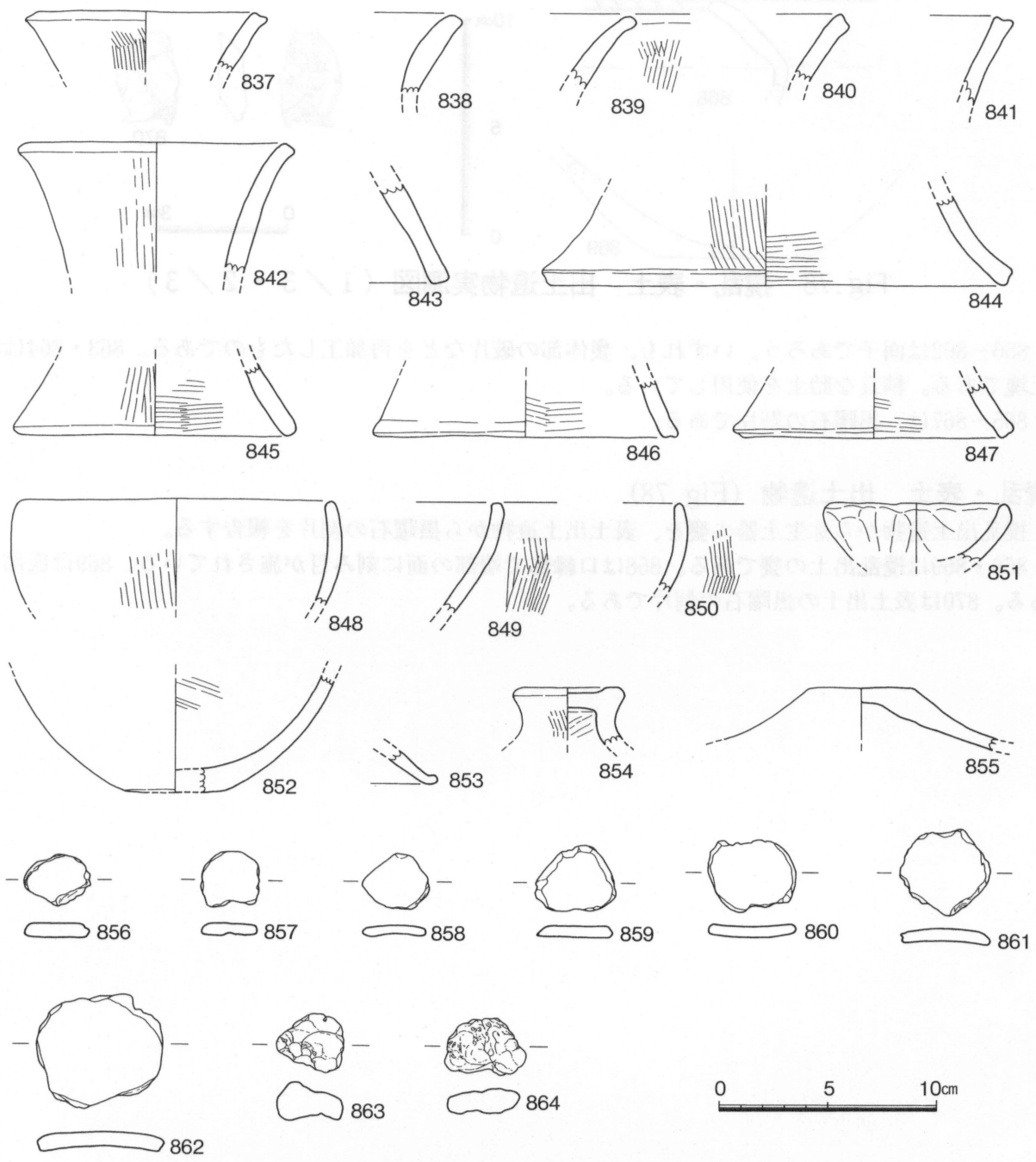


Fig.76 1SD35 出土遺物実測図⑨ (1/3)

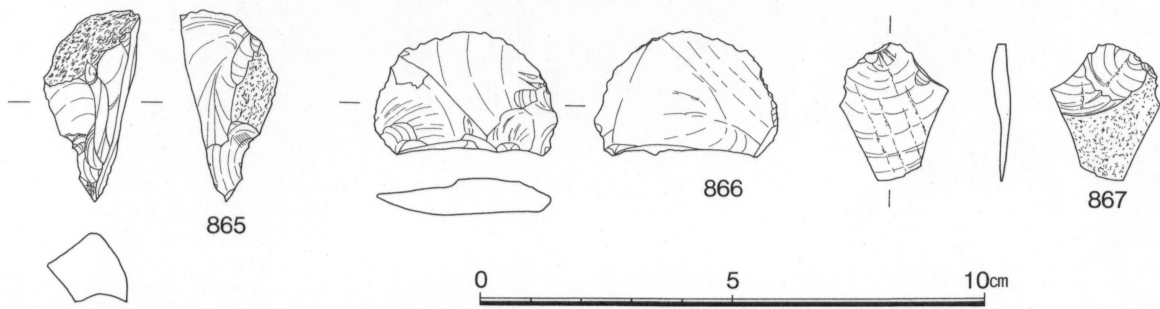


Fig.77 1SD35 出土遺物実測図⑩ (2/3)

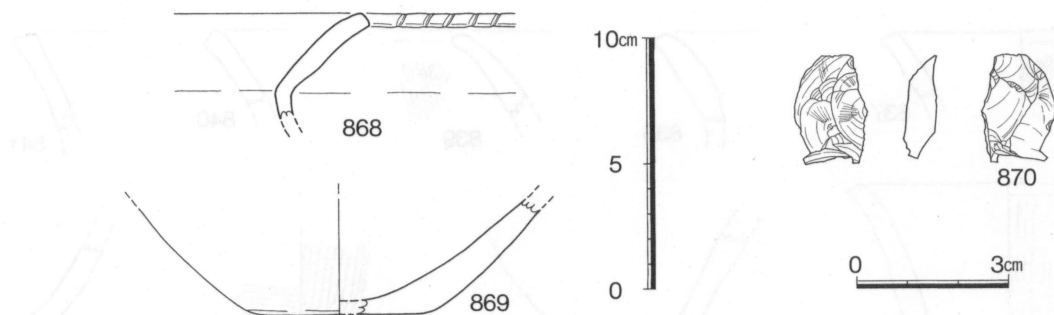


Fig.78 攪乱・表土 出土遺物実測図 (1 / 3・2 / 3)

856～862は面子であろう。いずれも、甕体部の破片などを再加工したものである。863・864は粘土塊である。精良な胎土を使用している。

865～867は、黒曜石の剥片である。

攪乱・表土 出土遺物 (Fig.78)

攪乱出土遺物から弥生土器の甕を、表土出土遺物から黒曜石の剥片を報告する。

868・869は攪乱出土の甕である。868は口縁部で端部の面に刻み目が施されている。869は底部である。870は表土出土の黒曜石の剥片である。

No	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-No
1	1SD01	弥生	甕	27.2	口縁部 1/8	不明	不明	不明			乳褐色～ 橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	1
2	1SD15	弥生	甕	口縁部 1/8	不明	不明	不明			淡橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	深い 「く」の字		13
3	1SD15	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字	折曲げ部の内面をわずかにつまみだす	1
4	1SD15	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆L字	折曲げ部の内面をわずかにつまみだす	2
5	1SD15	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡黄褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字		3
6	1SD15	弥生	甕	16.6	口縁部 1/4	不明	不明	不明			橙褐色	金雲母少	良	「く」の字		14
7	1SD15	弥生	甕	口縁部細片	刷毛?					乳褐色	金雲母・ 砂粒含	良	「く」の字 端部に面有		10
8	1SD15	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字	口縁部はやや肥厚	5
9	1SD15	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字	頸部内側にゆるい稜線有	4
10	1SD15	弥生	甕	口縁部細片	不明					橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字	口縁部はやや肥厚	8
11	1SD15	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					乳褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字		11
12	1SD15	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					淡茶褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字		9
13	1SD15	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	口縁部はやや肥厚	7
14	1SD15	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡赤褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字	頸部内側に明瞭な稜線有	6
15	1SD15	弥生	甕	体部細片		不明	不明			橙褐色	金雲母・ 砂粒含	良		M字突帯1条有	16
16	1SD15	弥生	甕	体部細片		不明	不明			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良		M字突帯1条有	15
17	1SD15	弥生	甕	底部細片		刷毛	不明	ナテ	不明	内:黒褐色 外:淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			18
18	1SD15	弥生	甕	底部細片		不明	ナテ		不明	内:黒灰色 外:淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良			19
19	1SD15	弥生	甕	底部細片			不明	不明	ナテ	内:灰色 外:淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			20
20	1SD15	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 砂粒含	良	ゆるい 「く」の字		12
21	1SD15	弥生	鉢	口縁部細片	横ナテ	ナテ	ナテ			内:暗褐色 外:黒色	金雲母・ 角閃石含	良	端部に面有		28
22	1SD15	弥生	器台	口縁部細片	横ナテ	刷毛	刷毛			淡灰褐色	金雲母・ 角閃石含	良	端部に面有		22
23	1SD15	弥生	鉢	口縁部細片	不明	不明	不明			淡橙褐色	金雲母・ 砂粒含	良	「く」の字		27
24	1SD15	弥生	壺	...	6.6	...	底部1/4		不明	不明	不明	不明	淡赤褐色	金雲母含	良			17
25	1SD15	弥生	器台	口縁部細片	不明	不明	不明			内:黒灰色 外:淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	端部に面有	端部内側は上方につまみ上げ	25
26	1SD15	弥生	器台	口縁部細片	横ナテ	横ナテ	不明			内:淡灰褐色 外:黒色	金雲母・ 角閃石含	良	端部に小さな面有	端部は上方につまみ上げ	26
27	1SD15	弥生	高坏	口縁部細片	不明					淡赤褐色	金雲母・ 角閃石含	良	T字 端部に面有	口縁端面に刻目有 全面丹塗り?	21
28	1SD15	弥生	器台	底部細片		不明	不明	不明	不明	内:灰色 外:淡黄褐色	金雲母・ 角閃石含	良		底端部に面有 底部の面は接地しない	23
29	1SD15	弥生	器台	底部細片		不明	不明	不明	不明	淡橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良		底端部に面有 底部の面は接地しない	24
30	1SD15	弥生	面子										淡橙褐色	金雲母・ 砂粒含	良			29
31	1SD15	弥生	面子										暗褐色	金雲母含・ 角閃石多	良			31
32	1SD15	弥生	面子										暗褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			30
33	1SD15	弥生	面子				1/2						内:淡褐色 外:淡橙色	金雲母・ 砂粒含	良			32
34	1SD20	弥生	甕	細片	横ナテ					淡茶褐色	細砂粒多	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	16
35	1SD20	弥生	甕	細片	不明	不明	不明			淡茶褐色	微細砂粒 含	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	18
36	1SD20	弥生	甕	26.0	細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡灰茶褐色	細砂粒多	やや不良	T字		15
37	1SD20	弥生	甕	細片	不明	不明	不明			明橙褐色	細砂粒多	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に少量つまみだす	17
38	1SD20	弥生	甕	細片	横ナテ					淡灰茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字 端部に面有	口縁部に沈線状の凹みあり	7
39	1SD20	弥生	甕	29.0	細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡灰茶褐色	細砂粒多	不良	逆L字		14
40	1SD20	弥生	甕	細片	横ナテ					淡灰茶褐色	細砂粒多	やや不良	「く」の字 端部に面有		8

Tab.1 出土遺物観察表①

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-No	
41	1SD20	弥生	甕	細片	不明	不明	不明			淡赤褐色	細砂粒少量含	不良	「く」の字		13	
42	1SD20	弥生	甕	34.0	細片	不明					淡赤茶褐色	微細砂粒多	不良	深い「く」の字		6	
43	1SD20	弥生	甕?	17.6	細片	丹塗り					淡茶褐色	細砂粒含	不良	「く」の字 端部に面有	丹塗り	10	
44	1SD20	弥生	甕	...	5.8	...	底部細片		刷毛		ナテ	横ナテ	淡灰茶褐色	細砂粒含	やや不良		上底	20	
45	1SD20	弥生	壺?	...	10.0	...	底部細片				ナテ	不明	淡灰茶褐色	細砂粒含	不良			23	
46	1SD20	弥生	壺?	...	10.0	...	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	不明	淡灰茶褐色	細砂粒多	不良			25	
47	1SD20	弥生	壺?	...	10.0	...	底部細片		ナテ	ナテ?	ナテ?	匔ナテ	内:灰黒色 外:淡茶褐色	細砂粒多	やや不良			22	
48	1SD20	弥生	甕	...	7.8	...	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	未調整	淡灰茶褐色	細砂粒含	やや不良			21	
49	1SD20	弥生	甕	...	8.0	...	底部細片		不明	ナテ	ナテ	刷毛	暗茶褐色	細砂粒多	やや不良		レンズ状底部	24	
50	1SD20	弥生	甕	細片	横ナテ	刷毛	横ナテ			淡灰茶褐色	砂粒多	やや不良	「く」の字 端部に面有	口縁端部に刻み目有	9	
51	1SD20	土師?	甕	31.0	1/2	刷毛 横ナテ	刷毛	匔ケズリ 刷毛			暗茶褐色	細砂粒多	やや不良	擬二重口縁	口縁端部に面有 庄内式平行か?	57	
52	1SD20	土師?	甕?	16.4	細片	横ナテ	刷毛	匔ケズリ			淡灰茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字		4	
53	1SD20	土師?	甕	16.6	細片	横ナテ					暗茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字		12	
54	1SD20	土師?	甕	15.0	細片	不明	刷毛?	不明			内:淡茶褐色 外:赤褐色	砂粒多	不良	「く」の字		11	
55	1SD20	土師?	甕	体部のみ		刷毛	ナテ			淡茶褐色	細砂粒・ 角閃石含	やや不良		丹塗り	19	
56	1SD20	土師	甕	20.0	25.0	24.0	ほぼ完形	横ナテ	刷毛	匔ケズリ	匔ケズリ	ナテ?	淡茶褐色	砂粒を 極少量含	やや良	わずかに つまみ上げ	布留系	56	
57	1SD20	土師	壺	13.8	細片	横ナテ	刷毛	匔ナテ			明茶褐色	精良	やや不良	上外方に ひらく		46	
58	1SD20	土師	壺	12.0	細片	横ナテ	刷毛	匔ナテ			淡茶褐色	精良	やや不良	外湾		45	
59	1SD20	土師	壺	体部1/3		匔ナテ	匔ナテ	匔ナテ	匔ケズリ	暗茶褐色	精良(細砂 少量含)	やや不良			47	
60	1SD20	土師?	甕	28.0	口縁部 1/3	横ナテ	刷毛	匔ケズリ			淡茶褐色	細砂粒含	不良	「く」の字		5	
61	1SD20	土師	浅鉢	14.6	...	3.8	1/4	横ナテ	匔ケズリ?	横ナテ	横ナテ	匔ケズリ?	茶褐色	良(微量の細 砂粒含)	良	大きく上外 方にひらく		38	
62	1SD20	土師	浅鉢	17.6	...	4.6	1/3	横ナテ	横ナテ	不明	不明	匔ケズリ?	内:淡赤褐色 外:淡茶褐色	細砂粒を 少量含	やや不良	大きく上外 方にひらく		39	
63	1SD20	土師	浅鉢	10.0	...	3.1	1/2	横ナテ	ナテ	加絨に匔 当て直	不明	ナテ	淡赤茶褐色	精良	やや良	わずかに 内湾		40	
64	1SD20	弥生	浅鉢	細片	丹塗り	丹塗り	丹塗り			淡灰茶褐色	細砂粒多	やや不良	上外方に ひらく	丹塗り	27	
65	1SD20	土師	壺?	11.0	...	7.1	1/2	横ナテ	ナテ匔 ケズリ	ナテ	ナテ	ナテ匔 ケズリ	淡赤褐色~ 淡黒灰色	精良	やや良	上外方に ひらく		42	
66	1SD20	土師	壺	12.0	細片	横ナテ	刷毛	不明			暗赤褐色	細砂粒多	やや良	上外方に ひらく		41	
67	1SD20	弥生	鉢	17.6	7.0	9.0	1/3	横ナテ	刷毛	不明	不明	不明	淡茶褐色	微細砂粒 多	不良	わずかに 内湾		3	
68	1SD20	土師	鉢	8.7	3.9	6.5	1/3	横ナテ	刷毛	匔ナテ	匔ナテ匔 当て直	匔ナテ?	淡乳茶褐色	精良	やや良	内湾気味に 立ち上がる	外面に黒斑あり	44	
69	1SD20	土師	器台	細片	横ナテ					内:淡茶褐色 外:淡黒灰色	精良	やや良	上外方に ひらく	口縁端部に面有	49	
70	1SD20	弥生	器台	細片	横ナテ	不明	不明			明茶褐色	微細砂粒 含	不良	端部に面有		26	
71	1SD20	弥生	器台	14.0	細片	横ナテ	刷毛	刷毛 絞リ			淡灰茶褐色	細砂粒多	不良	外へひらく	口縁端部に沈線状凹み1 条あり	1	
72	1SD20	弥生	器台	...	15.0	...	細片				ナテ	?	淡灰茶褐色	細砂粒多	不良			2	
73	1SD20	土師	高坏	19.3	坏部完形	横ナテ	横ナテ	匔ミガ キ	不明		淡赤茶褐色	精良	良	上外方に ひらく		35	
74	1SD20	弥生	高坏	細片	丹塗り					淡茶褐色	細砂粒多	不良	T字	丹塗り	28	
75	1SD20	土師	高坏	脚部細片		ナテ?	不明			明茶褐色	細砂粒含	不良			36	
76	1SD20	土師	高坏	細片				不明	不明	淡茶褐色	精良	やや不良		底端部に面有	48	
77	1SD20	土師	台鉢	...	9.4	...	台部片				ナテ	ナテ	暗茶褐色	精良	やや良			37	
78	1SD20	ミ ニ チュア	鉢	7.3	...	3.2		手づく ね	手づく ね	手づく ね	手づく ね	手づく ね	手づく ね	暗赤褐色	砂粒を 極少量含	やや不良	上方に立ち 上がる	口縁部は波状に乱れている	51
79	1SD20	ミ ニ チュア	鉢	4.6	...	3.2	完形	手づく ね	手づく ね	手づく ね	手づく ね	手づく ね	明茶褐色~ 淡黒灰色	精良	やや良	外湾		43	
80	1SD20	弥生	面子												32	

Tab.2 出土遺物観察表②

No	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-No
81	1SD20	弥生	面子	…	…	…												34
82	1SD20	弥生	面子	…	…	…												33
83	1SD20	弥生	面子	…	…	…												31
84	1SD20	土師	支脚	…	…	…	細片		手づくね		手づくね	手づくね	淡茶褐色	砂粒を極少量含	やや良			50
85	1SD20	砂岩	砥石															52
86	1SD20	礫石	剝片															54
87	1SD18	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ?					内:淡橙褐色 外:淡灰褐色	金雲母・細砂粒含	良	逆し字	折曲げ部の内面をわずかにつまみだす	2
88	1SD18	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・角閃石含	良	逆し字 端部下がり		1
89	1SD18	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					暗褐色	金雲母・細砂粒含	良	「く」の字		5
90	1SD18	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					暗褐色	金雲母・角閃石含	良	「く」の字	口縁部は肥厚	8
91	1SD18	弥生	甕	25.4	…	…	口縁部1/8	横ナテ	刷毛	不明			淡褐色	金雲母・角閃石含	良	「く」の字		7
92	1SD18	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡橙褐色	金雲母・角閃石含	良	「く」の字	頸部内側にゆるい稜線有	3
93	1SD18	弥生	甕?	…	…	…	口縁部細片	不明					淡橙褐色	金雲母・細砂粒含	良			17
94	1SD18	弥生	甕	25.0	…	…	口縁部1/5	不明					淡褐色	金雲母・角閃石含	良	「く」の字	口縁部はやや肥厚	6
95	1SD18	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					内:暗褐色 外:橙褐色	金雲母・角閃石含	良	「く」の字	口縁部は肥厚 端部は上方へつまむ	10
96	1SD18	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ 刷毛					内:淡褐色 外:淡灰褐色	金雲母・角閃石含	良	「く」の字 端部に面有	口縁部は外方へつまみだす	9
97	1SD18	弥生	甕?	…	…	…	口縁部細片	不明					淡橙褐色	金雲母・角閃石含	良	「く」の字		20
98	1SD18	弥生	甕	…	8.6	…	底部1/4		不明	ナテ	ナテ	ナテ	内:乳褐色 外:黒色	金雲母・角閃石含	良			12
99	1SD18	弥生	甕	…	…	…	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	内:淡茶褐色 外:淡褐色	金雲母・角閃石含	良			16
100	1SD18	弥生	甕	…	…	…	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	内:淡褐色 外:黒色	金雲母・角閃石含	良			13
101	1SD18	弥生	甕	…	…	…	底部細片		不明	不明		不明	内:黒色 外:淡橙褐色	金雲母・角閃石含	良			11
102	1SD18	弥生	甕	…	…	…	底部細片		不明	不明	不明	不明	橙褐色	金雲母・角閃石含	良			14
103	1SD18	弥生	甕	…	…	…	底部細片		不明	不明	不明	不明	橙褐色	金雲母・角閃石含	良		R-14と同一?	15
104	1SD18	弥生	器台	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛	刷毛			内:橙褐色 外:灰褐色	金雲母・角閃石含	良	端部に面有	口縁部端部の面に強い沈線有	22
105	1SD18	弥生	器台	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					乳褐色	金雲母・砂粒含	良			21
106	1SD18	弥生	面子										上面:黄褐色 下面:暗褐色	金雲母・砂粒含	良			23
107	1SD18	弥生	甕	…	…	…	体部細片						淡褐色	金雲母・角閃石含	良		焼成後に内外面から穿孔	18
108	1SD18	弥生	甕	…	…	…	体部細片		叩き?				内:黒灰色 外:褐色	金雲母・細砂粒含	良		焼成前に穿孔	19
109	1SD18	弥生	粘土塊										淡褐色	精良	良			24
110	1SD23	弥生	器台	13.4	…	…	細片	横ナテ	刷毛?	不明			淡橙褐色	細砂粒多	不良	端部に面有 沈線状凹み	口縁下部をを外方へつまみだす	1
111	1SD23	弥生	甕	…	…	…	細片		不明	不明			淡茶褐色	微細砂粒含	やや不良		三角突帯有	3
112	1SD23	弥生	甕	…	…	…	細片		不明	不明			暗茶褐色	微細砂粒含	やや不良		三角突帯有	2
113	1SD23	弥生	甕?	…	…	…	底部細片		ナテ?	不明			淡灰茶褐色	細砂粒含	やや不良			6
114	1SD23	弥生	甕	…	9.0	…	底部細片		刷毛	ナテ		ナテ	淡茶褐色	微細砂粒含	やや不良			4
115	1SD23	弥生	甕	…	10.0	…	底部細片		ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡灰茶褐色	微細砂粒含	やや良			5
116	1SD41	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡赤茶色	砂粒多	良	逆し字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	2
117	1SD41	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					薄黄茶色	砂粒多	良	逆し字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	1
118	1SD41	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡灰白色	砂粒多	良	「く」の字		5
119	1SD41	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡赤白色	砂粒多	良	「く」の字	折曲げ部の内面にゆるい稜線有	6
120	1SD41	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡黄白色	砂粒多	良	「く」の字 端部に面有	折曲げ部の内面にゆるい稜線有	3

Tab.3 出土遺物観察表③

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-No.	
121	1SD41	弥生	器台	…	…	…	底部細片		横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	暗茶褐色	砂粒多	良	口縁部に面有	底端部の面は接地しない	4	
122	1SD41	弥生	鉢	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛	刷毛			暗黄褐色	砂粒含	良	外反	端部は外方へつまみだす	7	
123	1SD41	弥生	鉢	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛	刷毛			暗灰褐色	精良	良	外反	端部は外方へつまみだす	8	
124	1SD41	弥生	面子												良			9	
125	1SD41	弥生	面子												良			10	
126	1SD75	弥生	甕	31.4	…	…	口縁部 1/8	横ナテ					暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	5	
127	1SD75	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					内:橙褐色 外:暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	3	
128	1SD75	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					灰褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字 端部下がり	折曲げ部の内面を内側につまみだす	7	
129	1SD75	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆L字 端部下がり	折曲げ部の内面を内側につまみだす	6	
130	1SD75	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					内:黄褐色 外:淡橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良	小さな 逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	4	
131	1SD75	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字		10	
132	1SD75	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字		8	
133	1SD75	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字		9	
134	1SD75	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					内:淡褐色 外:淡橙褐色	金雲母・ 砂粒含	良	「く」の字		12	
135	1SD75	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字		11	
136	1SD75	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					橙色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆L字 端部反上げ	折曲げ部の内面を内側につまみだす	1	
137	1SD75	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					内:橙褐色 外:淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字 端部反上げ	折曲げ部の内面を内側につまみだす	2	
138	1SD75	弥生	甕	…	…	…	底部3/8		刷毛	不明	不明	ナテ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良			16	
139	1SD75	弥生	甕	…	…	…	底部細片		刷毛	不明	不明	不明	内:橙褐色 外:淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			17	
140	1SD75	弥生	器台	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					暗褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	上外方へ ひらく	口縁部に面有	15	
141	1SD75	弥生	器台	…	…	…	底部細片		刷毛	不明	不明	不明	暗褐色	金雲母・ 砂粒含	良		底端部の面は接地しない	13	
142	1SD75	弥生	器台	…	…	…	底部細片		不明	不明	不明	不明	内:暗褐色 外:橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良		底端部の面が接地する	14	
143	1SD76	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					茶褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	T字		1	
144	1SD76	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字		3	
145	1SD76	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字		2	
146	1SD76	弥生	甕	…	…	…	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			6	
147	1SD76	弥生	甕	…	8.0	…	底部1/2		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良			7	
148	1SD76	弥生	甕	…	8.0	…	底部のみ		ナテ	刷毛	刷毛	ナテ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良			8	
149	1SD76	弥生	高坏	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母少	良	T字		4	
150	1SD76	弥生	器台	…	13.4	…	底部1/10					刷毛	横ナテ	淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良		底端部の面は接地しない	5
151	1SB09c	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					暗褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字		1	
152	1SB09a	弥生	鉢	…	…	…	口縁部細片	不明					乳灰褐色	金雲母・ 角閃石含	良	内湾気味		1	
153	1SB22	弥生	甕	…	…	…	細片	横ナテ					明赤褐色	細砂粒多	不良	深い「く」 の字	丹塗り?	1	
154	1SB22	弥生	甕	…	…	…	細片	不明					淡赤褐色	細砂粒多	不良	深い「く」 の字		2	
155	1SB22	弥生	大甕	…	12.0	…	底部細片		ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	細砂粒多	やや良			6	
156	1SB22	弥生	高坏	…	…	…	細片	横ナテ					淡茶褐色	細砂粒少	不良	端部に面有	丹塗り 端面に沈線1条有	3	
157	1SB22	弥生	高坏	…	…	…	細片				不明	丹塗り	内:暗赤褐色 外:淡黒灰色	微細砂粒 多	不良	端部に面有	丹塗り	4	
158	1SB22	弥生	器台	…	…	…	細片	不明					淡灰茶褐色	細砂粒多	不良	端部に面有 内側に段有		5	
159	1SB22	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字 端部肥厚		33-1	
160	1SB22	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					茶褐色	砂粒少	不良	「く」の字		33-2	

Tab.4 出土遺物観察表④

№	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-№	
161	1SB22	弥生	甕?	…	…	…	口縁部細片	横ナテ 刷毛					明赤褐色	ほぼ精良	不良	「く」の字 端部に面有		33-4	
162	1SB22	弥生	甕	…	…	…	体部細片		不明	ナテ			淡茶褐色	微細砂粒 含	不良		M字突帯有	33-5	
163	1SB22	弥生	甕	…	8.5	…	底部片		不明	不明	不明	不明	淡茶褐色	砂粒少	不良			33-3	
164	1SB26b	弥生	甕	24.0	…	…	細片	横ナテ	不明	不明			淡茶褐色～ 淡黒灰色	細砂粒多	不良	「く」の字		1	
165	1SB26b	弥生	甕	…	…	…	細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡灰茶褐色	細砂粒多	やや良	「く」の字		2	
166	1SB26b	弥生	甕	…	…	…	細片	不明	不明	不明			淡赤褐色	微細砂粒 少	不良	T字	丹塗り 3mm大の砂粒を含む	3	
167	1SB26b	弥生	甕	…	10.0	…	底部細片		不明	不明	不明	不明	内:淡黒灰色 外:淡茶褐色	細砂粒少	不良			4	
168	1SB26b	弥生	面子										内:茶褐色 外:褐色	細砂粒・ 角閃石多	やや不良			5	
169	1SB26c	弥生	甕	…	…	…	細片	横ナテ					茶褐色	細砂粒多	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	1	
170	1SB26b	弥生	柱根	…	…	…	完形											1	
171	1SB26b	弥生	礎板	…	…	…	完形											170と組み合わせる	2
172	1SK05	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	3	
173	1SK05	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	4	
174	1SK05	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			内:淡褐色 外:暗褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	2	
175	1SK05	弥生	甕	31.0	…	…	口縁部 1/8	横ナテ	刷毛	ナテ			淡橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆L字 端部下がり	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	1	
176	1SK05	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					暗乳灰色	精良	良	「く」の字	頸部内側にゆるい稜線有	5	
177	1SK05	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					乳褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字	全面丹塗り	15	
178	1SK05	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡乳茶色	やや良	やや不良	「く」の字	頸部内側にゆるい稜線有	6	
179	1SK05	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡乳灰色	精良	良	「く」の字 端部に面有	頸部内側にゆるい稜線有	7	
180	1SK05	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	篋ミガ キ					乳褐色	ほぼ精良	良	「く」の字 端部に面有	全面丹塗り 口縁部を つまみ上げる	14	
181	1SK05	弥生	甕	…	…	…	体部細片		不明	不明			内:明乳茶色 外:淡乳灰色	精良 金雲母含	良			8	
182	1SK05	弥生	甕	…	…	…	体部細片		不明	不明			乳茶色	金雲母・ 細砂粒多	良		貼付突帯有	12	
183	1SK05	弥生	甕	…	…	…	体部細片		ナテ	ナテ			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良		外面丹塗り	16	
184	1SK05	弥生	甕	…	9.4	…	底部1/6		刷毛	ナテ	ナテ	不明	暗褐色	金雲母・ 細砂粒多	良			10	
185	1SK05	弥生	甕	…	8.1	…	底部1/4		刷毛	ナテ	ナテ	不明	暗褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			9	
186	1SK05	弥生	器台	…	…	…	底部細片		刷毛	刷毛	横ナテ	横ナテ	内:橙褐色 外:淡黄褐色	金雲母・ 細砂粒含	良		底部部に面有 底部の面 は接地しない	11	
187	1SK05	弥生	高坏	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	ナテ	ナテ			乳褐色	金雲母・ 角閃石含	良	T字	全面丹塗り 坏体部に三 角突帯1条有	18	
188	1SK05	弥生	高坏	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					乳褐色	金雲母・ 角閃石含	良	T字	全面丹塗り	17	
189	1SK05	弥生	高坏	…	…	…	口縁部細片	不明	不明	不明			乳褐色	精良	良	T字	全面丹塗り	19	
190	1SK05	弥生	高坏	…	…	…	口縁部細片	不明					乳褐色	精良	良	T字		13	
191	1SK05	弥生?	藍埴	…	…	…	完形						赤褐色	ほぼ精良	良			21	
192	1SK05 I層	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明	不明	不明			橙褐色	砂粒多・ 金雲母少	良	逆L字?	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	3	
193	1SK05 I層	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字		7	
194	1SK05 I層	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					暗褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字		4	
195	1SK05 I層	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字		5	
196	1SK05 I層	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					暗褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字		6	
197	1SK05 I層	弥生	甕	…	11.0	…	底部1/4		刷毛		ナテ	ナテ	灰褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			8	
198	1SK05 I層	弥生	甕	…	11.4	…	底部1/4						乳褐色	砂粒多・ 金雲母少	良			1	
199	1SK05 I層	弥生	甕	…	…	…	体部細片		刷毛	刷毛	刷毛	ナテ	灰褐色	金雲母・ 細砂粒少	良			9	
200	1SK05 I層	弥生	甕?	…	…	…	体部細片		不明	ナテ	ナテ	不明	淡褐色	砂粒多・ 金雲母少	良			10	

Tab.5 出土遺物観察表⑤

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-No
201	1SK05 I層	弥生	高環	29.0	…	…	口縁部 1/6	不明					乳褐色	精良	良	T字	全面丹塗り	2
202	1SK05 I層	弥生	器台	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛	刷毛			橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	端部に面有		12
203	1SK05 II層	弥生	器台	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛	刷毛			橙褐色	金雲母・ 角閃石少	良	端部に面有		11
204	1SK05 II層	弥生	甕	21.2	…	…	口縁部 1/8	横ナテ	刷毛	ナテ			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	器壁が厚い	2
205	1SK05 II層	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字		3
206	1SK05 II層	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					灰褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	口縁部は僅かに内湾	8
207	1SK05 II層	弥生	甕	32.0	…	…	口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	ナテ			淡褐色	金雲母・ 角閃石少	良	逆L字 端部下がり	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	1
208	1SK05 II層	弥生	甕	…	7.8	…	底部1/4		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良		内面には厚くススが付着	5
209	1SK05 II層	弥生	甕	…	6.8	…	底部1/4		不明	ナテ	ナテ	ナテ	橙褐色	金雲母・ 砂粒含	良		内面には厚くススが付着	6
210	1SK05 II層	弥生	甕	…	10.7	…	底部1/4		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	褐色	金雲母・ 角閃石含	良			4
211	1SK05 II層	弥生	甕	…	9.5	…	底部1/8		刷毛	ナテ		ナテ	灰褐色	金雲母含・ 角閃石多	良		内面には厚くススが付着	7
212	1SK05 II層	弥生	高環	26.0	…	…	口縁部 1/6	横ナテ	横ナテ	不明			淡褐色	金雲母含・ 角閃石多	良	T字	全面丹塗り 坏体部に三 角突帯1条有	10
213	1SK05 II層	弥生	高環	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	T字	丹塗り	11
214	1SK05 II層	弥生	特殊 器台	…	…	…	細片		暗文?	押さえ ナテ			淡褐色	精良	良		外面丹塗り	9
215	1SK05 III層	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	横ナテ	不明			淡灰褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字	頸部内側に明瞭な稜線有	7
216	1SK05 III層	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡灰褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字	端部は上方につまみ上げ	3
217	1SK05 III層	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛	横ナテ			淡橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字	頸部内側にゆるい稜線有	6
218	1SK05 III層	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明	刷毛	不明			暗橙褐色	金雲母・ 砂粒含	良	「く」の字	外面に薄く煤が付着	9
219	1SK05 III層	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆L字端部 反上がり	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	2
220	1SK05 III層	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					乳褐色	金雲母・ 角閃石含	良	深い 「く」の字	全面丹塗り	20
221	1SK05 III層	弥生	甕	32.0	…	…	口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	ナテ			淡褐色	金雲母含・ 角閃石多	良	「く」の字 端部肥厚		4
222	1SK05 III層	弥生	甕	34.0	…	…	口縁部 1/8	横ナテ	横ナテ	横ナテ			淡褐色	金雲母含・ 角閃石多	良	「く」の字	頸部内側に明瞭な稜線有	5
223	1SK05 III層	弥生	甕	34.0	…	…	口縁部 1/3	横ナテ	刷毛	ナテ			淡褐色	金雲母含・ 角閃石多	良	逆L字 端部下がり	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	1
224	1SK05 III層	弥生	甕	…	8.0	…	底部1/4		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良		内面に薄く煤が付着	11
225	1SK05 III層	弥生	甕	…	8.8	…	底部1/6		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	金雲母・ 細砂粒含	良		内面・外面ともに薄く煤 が付着	12
226	1SK05 III層	弥生	甕	…	8.1	…	底部1/4		不明	ナテ	ナテ	不明	黄褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			17
227	1SK05 III層	弥生	甕	…	…	…	底部細片		刷毛	ナテ		ナテ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良		内面・外面ともに薄く煤 が付着	14
228	1SK05 III層	弥生	甕	…	…	…	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	灰褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			13
229	1SK05 III層	弥生	甕	…	…	…	底部細片		刷毛	ナテ			暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良			15
230	1SK05 III層	弥生	甕	…	…	…	底部細片		不明	不明	不明	不明	赤褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			16
231	1SK05 III層	弥生	高環	…	…	…	1/8		横ナテ	横ナテ			乳褐色	金雲母・ 角閃石含	良		全面丹塗り 体外面に突帯1条有	19
232	1SK05 III層	弥生	器台	…	…	…	口縁部細片	不明	刷毛	ナテ			橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	端部欠損		18
233	1SK05 III層	弥生	甕	…	5.9	…	底部		刷毛?	不明	不明	ナテ	黄褐色	金雲母・ 角閃石含	良			10
234	1SK05 III層	弥生	粘土塊	…	…	…	完形						褐色	精良	良			21
235	1SK10 検出面	弥生	甕	27.2	…	…	口縁部 1/4	横ナテ	刷毛	ナテ			内:橙褐色 外:茶褐色	3mm大の 砂粒多	良	逆L字	折曲げ部の内面をわずかに つまみだす	検3
236	1SK10 検出面	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明	不明	不明			茶褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	検1
237	1SK10 検出面	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			内:淡茶褐色 外:黒色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆L字	外面全体に煤の付着による 光沢有	検5
238	1SK10 検出面	弥生	甕	29.2	…	…	口縁部 1/8	横ナテ	刷毛	ナテ			内:淡茶褐色 外:暗褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	検4
239	1SK10 検出面	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					明茶褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	検2
240	1SK10 検出面	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 砂粒多	良	逆L字		2

Tab.6 出土遺物観察表⑥

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-No.
241	1SK10 検出面	弥生	甕	体部細片		不明	不明			内:淡褐色 外:黒色	金雲母・ 角閃石含	良		突帯2条有	検6
242	1SK10 検出面	弥生	甕	体部細片		不明	不明			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良			1
243	1SK10 検出面	弥生	甕	...	9.8	...			刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	内:淡褐色 外:茶褐色	金雲母・ 砂粒含	良		底面に黒斑?	3
244	1SK10 検出面	弥生	器台	底部細片		不明	不明	不明	不明	橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良		底部部に面有 底部の面 は接地しない	検7
245	1SK10 I層	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			内:淡茶褐色 外:黒色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆L字	外面全体に煤の付着による光沢 有 1SK10R-5と同一?	1
246	1SK10 I層	弥生	甕? 鉢?	口縁部細片	横ナテ	不明	ナテ			橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字	口縁部上面はくぼむ	3
247	1SK10 I層	弥生	甕	口縁部細片	不明					内:淡茶褐色 外:暗色	金雲母・ 角閃石含	良	T字?		2
248	1SK10 I層	弥生	甕	底部のみ		刷毛?	ナテ	ナテ	ナテ	淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良		焼成後、底部に外面から 穿孔	4
249	1SK10 I層	弥生	高坏	24.9	口縁部 1/6	不明	不明	不明			橙色	金雲母・ 細砂粒含	良	T字?	一部丹塗り残存	5
250	1SK10 I層	弥生	器台	底部細片		刷毛	不明	不明	横ナテ	内:淡褐色 外:黒色	金雲母・ 細砂粒含	良		底部部に面有 底部の面 は接地しない	6
251	1SK10 III層	弥生	甕	30.0	口縁部 1/8	横ナテ	不明	ナテ			橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字	折曲げ部の内面をわずかに つまみだす	3
252	1SK10 III層	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			内:淡茶褐色 外:暗色	金雲母・ 角閃石含	良	T字?	1SK10-1層 R-2と同一?	1
253	1SK10 III層	弥生	甕	29.0	口縁部 1/5	横ナテ	刷毛	ナテ			茶褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字 端部に面有	口縁部を上方につまみ 上げる	4
254	1SK10 III層	弥生	甕	口縁部細片	不明	不明	不明			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字		2
255	1SK10 III層	弥生	高坏	24.6	口縁部 1/8	不明	不明	不明			橙色	金雲母・ 細砂粒含	良	T字?	一部丹塗り残存	5
256	1SK25	弥生	甕	32.0	細片	横ナテ	刷毛	ナテ			暗褐色	細砂粒・ 雲母片含	やや不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	15
257	1SK25	弥生	甕	細片	横ナテ					淡黒灰色～ 茶褐色	細砂粒含	やや良	T字		23
258	1SK25	弥生	甕	細片	横ナテ					淡茶褐色	細砂粒含	やや良	逆L字?	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	22
259	1SK25	弥生	甕	細片	不明	不明	不明			明赤褐色	ほぼ精良	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	20
260	1SK25	弥生	甕	32.0	細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡茶褐色	細砂粒多	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	18
261	1SK25	弥生	甕	細片	不明	刷毛?	不明			淡黄褐色	細砂粒多	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	19
262	1SK25	弥生	甕	30.0	上半部	横ナテ	ナテ	ナテ			暗褐色	細砂粒多	やや不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	17
263	1SK25	弥生	甕	30.4	口縁部 1/3	横ナテ	不明	横ナテ			暗褐色	微細砂粒 含	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	14
264	1SK25	弥生	甕	30.8	口縁部 1/2	丹塗り	丹塗り	不明			明橙褐色	ほぼ精良	不良	逆L字端部 に面有	丹塗り M字突帯有 口縁部部に刻み目有	13
265	1SK25	弥生	甕	32.0	細片	横ナテ	刷毛	ナテ			茶褐色	細砂粒多	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	16
266	1SK25	弥生	甕	21.0	細片	横ナテ	刷毛				淡褐色	微細砂粒 含	やや不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	21
267	1SK25	弥生	甕	細片	横ナテ 刷毛	不明				淡茶褐色	細砂粒含	不良		三角突帯1条有	25
268	1SK25	弥生	甕	...	7.0	...	底部のみ		ナテ?	ナテ	ナテ	未調整	明赤褐色	細砂粒多	やや不良			12
269	1SK25	弥生	甕	...	7.4	...	底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	内:淡茶褐色 外:暗褐色	細砂粒・ 角閃石含	やや良			10
270	1SK25	弥生	甕	...	10.0	...	底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	微細砂粒 含	やや不良		黒斑有	11
271	1SK25	弥生	甕	...	7.4	...	底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	未調整	茶褐色	ほぼ精良	やや良			9
272	1SK25	弥生	蓋	14.2	細片	丹塗り	丹塗り	丹塗り 刷毛			淡赤褐色	ほぼ精良	やや不良	深い 「く」の字	丹塗り	8
273	1SK25	弥生	蓋	...	15.0	3.8	1/5	丹塗り	丹塗り	丹塗り			淡茶褐色	ほぼ精良	やや不良	大きく外方 へひらく	丹塗り 口縁部内側に凹 線状の押さえ有	7
274	1SK25	弥生	鉢	16.0	細片	横ナテ	不明	不明			淡黄褐色	細砂粒・ 雲母片含	やや不良	わずかに 内湾		1
275	1SK25	弥生	面子										茶褐色	細砂粒含	やや不良			29
276	1SK25	弥生	面子										暗褐色	細砂粒含	やや不良			28
277	1SK25	弥生	面子										暗茶褐色	細砂粒・ 角閃石多	やや不良			26
278	1SK25	弥生	面子										内:淡赤褐色 外:暗茶褐色	細砂粒含	やや不良			27
279	1SK25	弥生	面子										内:赤褐色 外:淡茶褐色	微細砂粒 少	やや不良			30
280	1SK25	弥生	器台	13.0	細片	横ナテ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	細砂粒少	やや不良	端部に面有	口縁下端部を外方へつま み出す	4

Tab.7 出土遺物観察表⑦

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-No.
281	1SK25	弥生	器台	12.6	細片	横ナテ	刷毛	刷毛			明赤褐色	細砂粒含	不良	端部に面有	口縁下端部を外方へつまみだす	2
282	1SK25	弥生	器台	12.0	細片	横ナテ	刷毛	刷毛ナテ			淡赤褐色	細砂粒多	不良	端部に面有		3
283	1SK25	弥生	器台?	細片	横ナテ	刷毛	ナテ			内:黒褐色 外:淡茶褐色	細砂粒・ 角閃石含	やや不良	外上方に 立ちあがる	端部に面有	24
284	1SK25	弥生	器台	...	12.0	...	細片		刷毛	刷毛	ナテ	横ナテ	淡茶褐色	細砂粒多	不良		底端部に面有	5
285	1SK25	弥生	器台	...	13.4	...	細片		刷毛	刷毛	横ナテ	横ナテ	淡赤褐色	細砂粒多	不良		底端部に面有	6
286	1SK30	弥生	甕	30.0	細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡赤褐色	細砂粒・ 雲母片含	やや不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	56
287	1SK30	弥生	甕	細片	横ナテ	刷毛	刷毛			淡灰褐色	細砂粒含	やや不良	T字		61
288	1SK30	弥生	甕	細片	不明	不明	不明			淡茶褐色	微細砂粒 含	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に少量つまみだす	98
289	1SK30	弥生	甕	30.0	細片	不明	不明	不明			淡茶褐色	細砂粒多	不良	逆L字	口縁部下面に煤付着	66
290	1SK30	弥生	甕	細片	横ナテ					茶褐色	細砂粒多	不良	逆L字	口縁部下面に煤付着	64
291	1SK30	弥生	甕	30.0	細片	横ナテ	刷毛	横ナテ			茶褐色	細砂粒多	やや不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	60
292	1SK30	弥生	甕	細片	横ナテ					明茶褐色	細砂粒少	不良	逆L字		65
293	1SK30	弥生	甕	29.4	口縁1/8	横ナテ	不明	不明			淡茶褐色	細砂粒含	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	59
294	1SK30	弥生	甕	細片	不明					淡茶褐色	微細砂粒 含	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に少量つまみだす	100
295	1SK30	弥生	甕	30.0	細片	横ナテ	不明	不明			淡灰褐色	細砂粒多	やや不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	57
296	1SK30	弥生	甕	細片	不明					淡茶褐色	微細砂粒 含	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に少量つまみだす	97
297	1SK30	弥生	甕	31.0		ミガキ	ミガキ	ナテ			茶褐色	砂粒少	やや不良	逆L字 端部下がり	折曲げ部の内面を内側につまみだす	108
298	1SK30	弥生	甕	細片	横ナテ	不明	横ナテ			淡茶褐色	細砂粒多	やや不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	63
299	1SK30	弥生	甕	31.0	上半部	横ナテ	刷毛?	ナテ			淡灰褐色	細砂粒多	不良	逆L字 端部に面有	折曲げ部の内面を内側につまみだす	148
300	1SK30	弥生	甕	細片	不明					明赤褐色	細砂粒含	不良	逆L字 端部下がり	折曲げ部の内面を内側につまみだす	95
301	1SK30	弥生	甕	細片	不明					淡茶褐色	砂粒少	不良	逆L字 端部下がり	折曲げ部の内面を内側に少量つまみだす	96
302	1SK30	弥生	甕	30.7	7.6	32.8	ほぼ完形	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	砂粒含	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	149
303	1SK30	弥生	甕	細片	不明	不明	不明			淡茶褐色	微細砂粒 含	不良	逆L字		99
304	1SK30	弥生	甕	細片	横ナテ					淡茶褐色	細砂粒多	やや不良	逆L字?	折曲げ部の内面を内側につまみだす	62
305	1SK30	弥生	甕	体部細片		不明	不明			明茶褐色	砂粒多	不良		体部に台形突帯1条有	109
306	1SK30	弥生	甕	体部細片		横ナテ	ナテ?			茶褐色	砂粒多	やや不良		体部に台形刻目突帯1条有	110
307	1SK30	弥生	甕	24.0	細片	横ナテ					淡灰褐色	細砂粒多	不良	逆L字		68
308	1SK30	弥生	甕	細片	不明					淡茶褐色	微細砂粒 含	不良	深い 「く」の字		82
309	1SK30	弥生	甕	29.0	細片	不明	不明	不明			淡黄褐色	微細砂粒 含	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	58
310	1SK30	弥生	甕	細片	不明	不明	不明			明茶褐色	微細砂粒 含	不良	深い 「く」の字		83
311	1SK30	弥生	甕	24.0	細片	不明					淡黄褐色	細砂粒含	不良	「く」の字	頸部内側にゆるい稜線有	79
312	1SK30	弥生	甕	細片	不明					淡茶褐色	微細砂粒 含	やや不良	「く」の字		86
313	1SK30	弥生	甕	24.0		不明	刷毛	ナテ			淡茶褐色	微細砂粒 含	不良	「く」の字	頸部内側にゆるい稜線有	73
314	1SK30	弥生	甕	細片	不明					淡茶褐色	砂粒少	やや不良	深い 「く」の字		101
315	1SK30	弥生	甕	28.4		横ナテ	刷毛	不明			淡茶褐色	微細砂粒 含	不良	「く」の字	頸部内側にゆるい稜線有	72
316	1SK30	弥生	甕	28.0	口縁1/6	不明	刷毛	不明			淡橙褐色	細砂粒多	不良	深い 「く」の字	頸部内側にゆるい稜線有	71
317	1SK30	弥生	甕	26.8	上半部 1/6	不明	不明	不明			淡茶褐色	微細砂粒 多	不良	深い 「く」の字	頸部内側にゆるい稜線有	70
318	1SK30	弥生	甕	25.0	10.0	24.0	破片多	横ナテ	刷毛	ナテ	ナテ	未調整	淡茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字		52
319	1SK30	弥生	甕	29.0	細片	横ナテ					淡褐色	微細砂粒 含	やや良	「く」の字		78
320	1SK30	弥生	甕	34.0	細片	不明					淡赤褐色	微細砂粒 含	不良	「く」の字	頸部内側にゆるい稜線有	77

Tab.8 出土遺物観察表⑧

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-No
321	1SK30	弥生	甕	32.2	…	…	上半部	横ナテ	刷毛	刷毛ナテ			淡茶褐色	細砂粒含	不良	深い「く」の字		51
322	1SK30	弥生	甕	25.0	…	…	細片	不明					淡茶褐色	微細砂粒含	不良	深い「く」の字	口縁部は肥厚	92
323	1SK30	弥生	甕	28.0	…	…	細片	横ナテ	横ナテ	不明			淡赤褐色	細砂粒少	やや良	「く」の字	頸部内側にゆるい稜線有	69
324	1SK30	弥生	甕	34.0	…	…	口縁1/6	横ナテ	不明	不明			淡褐色	砂粒・雲母片多	不良	「く」の字	頸部内側に明瞭な稜線有	67
325	1SK30	弥生	甕	25.2	…	…	細片	横ナテ					淡褐色	細砂粒少	やや良	深い「く」の字	口縁端部に面有	90
326	1SK30	弥生	甕	34.0	…	…	細片	横ナテ刷毛					淡灰褐色	細砂粒含	やや不良	深い「く」の字	口縁端部に面有	91
327	1SK30	弥生	甕	…	…	…	細片	不明刷毛	不明	不明			暗褐色	微細砂粒含	不良	「く」の字		84
328	1SK30	弥生	甕	…	…	…	細片	横ナテ					淡灰褐色	微細砂粒含	やや不良	「く」の字		102
329	1SK30	弥生	甕	…	…	…	細片	不明					淡茶褐色	微細砂粒含	不良	「く」の字		104
330	1SK30	弥生	甕	…	…	…	細片	横ナテ					淡灰褐色	微細砂粒含	やや不良	深い「く」の字		85
331	1SK30	弥生	甕? 器台?	…	…	…	細片	横ナテ					淡茶褐色	微細砂粒含	不良	端部に面有		105
332	1SK30	弥生	甕	…	…	…	細片	不明					淡茶褐色	微細砂粒含	不良	「く」の字		103
333	1SK30	弥生	甕	…	…	…	細片	不明					淡褐色	微細砂粒含	不良	深い「く」の字		81
334	1SK30	弥生	甕	22.0	…	…		横ナテ	刷毛?	不明			淡茶褐色	微細砂粒含	不良	「く」の字	頸部内側にゆるい稜線有	75
335	1SK30	弥生	甕	23.0	…	…	細片	不明	不明	不明			淡乳褐色	微細砂粒含	不良	「く」の字		80
336	1SK30	弥生	甕	26.0	…	…		不明	不明	不明			淡茶褐色	砂粒少	不良	「く」の字	頸部内側にゆるい稜線有	76
337	1SK30	弥生	甕	28.0	…	…		刷毛横ナテ	不明	不明			淡乳褐色	細砂粒含	不良	深い「く」の字	頸部内側にゆるい稜線有	74
338	1SK30	弥生	甕	22.4	…	…	細片	横ナテ	横ナテ	ナテ			内:淡灰褐色 外:淡茶褐色	ほぼ精良	やや良	逆L字?	折曲げ部の内面を内側につまみだす	87
339	1SK30	弥生	甕	20.0	…	…	細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡灰褐色	微細砂粒含	やや良	直立端部に面有	口縁端部はやや凹む	93
340	1SK30	弥生	甕	…	8.0	…	下半部		刷毛	ナテ			淡茶褐色	砂粒少	不良			111
341	1SK30	弥生	甕	…	6.0	…	底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡灰褐色	細砂粒多	やや良		底部は深く押し込み「上げ底」状にする	112
342	1SK30	弥生	甕	…	5.4	…	底部のみ		不明			横ナテナテ	淡灰褐色	砂粒少	やや良		底部は浅く押し込み「上げ底」状にする	113
343	1SK30	弥生	甕	…	5.6	…	底部のみ		ナテ	不明	不明	ナテ	乳灰色	砂粒少	やや不良			114
344	1SK30	弥生	甕	…	7.0	…	底部片		不明	不明		ナテ	淡灰褐色	微細砂粒含	やや不良			137
345	1SK30	弥生	甕	…	8.0	…	底部のみ		刷毛		不明	未調整	淡灰褐色	細砂粒多	やや不良		底部の短径は7.2cm(平面形は楕円)	122
346	1SK30	弥生	甕	…	5.8	…	底部1/3		ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	淡灰褐色	砂粒少	やや良			133
347	1SK30	弥生	甕	…	6.0	…	底部1/4		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	微細砂粒含	やや良			134
348	1SK30	弥生	甕	…	6.0	…	底部1/6		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡灰褐色	砂粒少	やや不良			128
349	1SK30	弥生	甕	…	7.0	…	底部1/6		不明	ナテ		不明	淡灰褐色	細砂粒含	不良			135
350	1SK30	弥生	甕	…	7.8	…	底部のみ		刷毛		ナテ	ナテ	淡灰褐色	細砂粒含	やや良			123
351	1SK30	弥生	甕	…	6.4	…	底部のみ		不明	不明	ナテ	ナテ	淡灰褐色	細砂粒多	不良			120
352	1SK30	弥生	甕	…	8.0	…	底部1/8		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗灰褐色	細砂粒含	良			127
353	1SK30	弥生	甕	…	8.0	…	底部1/4		刷毛	ナテ		ナテ	暗褐色	細砂粒含	やや良			126
354	1SK30	弥生	甕	…	8.4	…	底部のみ		不明	ナテ	ナテ	未調整	淡灰褐色	砂粒少	やや不良			119
355	1SK30	弥生	甕	…	9.0	…	底部のみ		刷毛	不明	不明	ナテ	淡乳褐色	砂粒少	不良			118
356	1SK30	弥生	甕	…	10.4	…	底部1/4		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	明茶褐色	細砂粒含	やや不良			131
357	1SK30	弥生	甕	…	9.6	…	底部のみ		不明	不明	不明	不明	淡赤褐色	細砂粒多	不良			121
358	1SK30	弥生	甕	…	9.8	…	底部1/6		刷毛	刷毛	ナテ	ナテ	淡灰褐色	細砂粒含	やや良		黒斑有	125
359	1SK30	弥生	甕	…	…	…	底部細片		不明	不明		不明	淡茶褐色	微細砂粒含	不良			138
360	1SK30	弥生	甕	…	10.2	…	底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	未調整	淡灰褐色	細砂粒含	不良		黒斑有	116

Tab.9 出土遺物観察表⑨

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-No.
361	1SK30	弥生	甕	...	11.0	...	底部1/6		刷毛	不明	不明	ナテ	淡茶褐色	微細砂粒含	不良			132
362	1SK30	弥生	甕	底部細片		不明	不明		不明	淡茶褐色	砂粒含	不良			141
363	1SK30	弥生	甕	...	12.0	...	底部1/8		刷毛	ナテ		ナテ	淡褐色	細砂粒含	やや不良			136
364	1SK30	弥生	甕	...	12.0	...	底部1/6		不明	不明		ナテ	淡茶褐色	微細砂粒含	やや不良		黒斑有	130
365	1SK30	弥生	甕	...	5.0	...	底部のみ		刷毛	不明	不明	刷毛	暗茶褐色	砂粒多	不良			124
366	1SK30	弥生	甕	17.0	細片	横ナテ	刷毛	横ナテ			内:黒灰色 外:淡黄褐色	砂粒多	やや良	端部に面有		55
367	1SK30	弥生	甕	16.0		横ナテ	横ナテ	刷毛			茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字		107
368	1SK30	土師	甕	17.4	細片	横ナテ	刷毛	筥ケズリ			暗褐色	3~5mm大の砂粒含	やや良	端部に面有	布留系? 口縁端部を小さくつまみだす	54
369	1SK30	土師	甕	17.0	細片	横ナテ	刷毛	筥ケズリ			暗褐色	細砂粒・雲母片多	やや良	端部に面有		53
370	1SK30	弥生	甕 or 壺		横ナテ	刷毛	ナテ			淡灰褐色	砂粒多	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に少量つまみだす	94
371	1SK30	弥生	壺	11.6	細片	不明	不明	不明			暗褐色	雲母片含	不良	「く」の字	口縁端部は上方へ小さくつまみだす	23
372	1SK30	弥生	壺?	...	8.6	...	底部片		刷毛	ナテ		不明	淡黒褐色	細砂粒含	やや不良		黒斑有	129
373	1SK30	弥生	壺?	...	7.6	...	底部のみ		刷毛	不明	不明	ナテ	茶褐色	細砂粒多	不良			115
374	1SK30	弥生	鉢	26.0	細片	横ナテ	横ナテ	不明			淡灰褐色	細砂粒含	やや不良	逆L字?	折曲げ部の内面を内側につまみだす	89
375	1SK30	弥生	鉢	24.0	細片	不明	不明	不明			明茶褐色	精良	不良	深い「く」の字		88
376	1SK30	弥生	浅鉢	14.6	...	5.7	細片	横ナテ	ナテ	不明			灰褐色~茶褐色	精良	不良	大きく上外方に伸びる		22
377	1SK30	弥生	浅鉢	16.0	...	4.0	細片	横ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	茶褐色~淡灰褐色	精良	やや不良	大きく上外方にひらく		21
378	1SK30	弥生	鉢	18.4	細片	横ナテ	ナテ	ナテ			淡灰茶褐色	細砂粒多	やや良	緩やかに内湾	口縁端部直下に凹線状の押さえ有	14
379	1SK30	弥生	鉢	18.4	細片	横ナテ	ナテ	不明			淡灰茶褐色	細砂粒多	やや不良	緩やかに内湾		12
380	1SK30	弥生	鉢	19.0	細片	不明	不明	不明			淡灰茶褐色	細砂粒多	やや不良	緩やかに内湾		13
381	1SK30	弥生	鉢	...	6.0	...	細片	刷毛	刷毛	ナテ			淡灰茶褐色	細砂粒多	やや良	緩やかに内湾		16
382	1SK30	弥生	鉢	細片	横ナテ	ナテ 刷毛	ナテ			淡灰茶褐色	細砂粒多	やや良	緩やかに内湾		15
383	1SK30	弥生	鉢	1/6	不明	ナテ	不明	不明	不明	赤褐色	微細砂粒含	不良	端部で内湾		18
384	1SK30	弥生	甕?	底部細片		ナテ	不明		ナテ	暗茶褐色	砂粒多	やや良			142
385	1SK30	弥生	鉢?	...	7.6	...	底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	明茶褐色	細砂粒含	やや不良			117
386	1SK30	弥生	壺	25.4	細片	横ナテ	筥ミガキ	不明			淡茶褐色	砂粒多	不良	内側に屈曲	丹塗り	20
387	1SK30	弥生	高坏	33.0	坏部完形	丹塗り	丹塗り	丹塗り	丹塗り		淡灰茶褐色	精良	不良	T字 端部に面有	丹塗り	1
388	1SK30	弥生	高坏	細片	横ナテ	横ナテ	横ナテ			淡灰茶褐色	細砂粒多	やや不良	T字?		2
389	1SK30	弥生	高坏	細片	丹塗り	丹塗り	丹塗り			淡茶褐色	ほぼ精良	不良	T字?	丹塗り	3
390	1SK30	弥生	高坏	21.0	坏部ほぼ完形	丹塗り	丹塗り	丹塗り			淡茶褐色	ほぼ精良	不良	大きく外反		19
391	1SK30	弥生	高坏	脚部細片		不明	シボリ 眞ナテ			黄褐色	微細砂粒多	不良			4
392	1SK30	弥生	高坏	脚部細片		丹塗り	シボリ 眞ナテ			淡赤褐色	細砂粒多	不良		丹塗り	5
393	1SK30	弥生?	台付甕?	底部細片		刷毛			不明	淡褐色	精良	不良			145
394	1SK30	弥生	高坏	細片				不明	丹塗り	淡赤褐色	精良	不良		丹塗り	9
395	1SK30	弥生	高坏	...	13.0	...	脚底部1/6				不明	不明	明茶褐色	微細砂粒含	不良			7
396	1SK30	弥生	高坏	...	18.0	...	脚部細片				不明	不明	暗茶褐色	砂粒多	不良			6
397	1SK30	弥生	高坏	...	19.0	...	脚底部1/8				不明	不明	淡赤褐色	砂粒多	やや良			8
398	1SK30	弥生	器台	14.0	上半部1/2	横ナテ	刷毛	ナテ			淡灰褐色	ほぼ精良	やや良	端部に面有	口縁下端部を外方へつまみだす	34
399	1SK30	弥生	器台	11.6	13.6	16.3	ほぼ完形	横ナテ	刷毛	刷毛 横ナテ	横ナテ	横ナテ	淡灰茶褐色	ほぼ精良	やや良	端部に面有	底部はほぼ面が接地する	31
400	1SK30	弥生	器台	11.9	13.4	16.2	ほぼ完形	横ナテ	刷毛	刷毛 指頭眞	横ナテ	横ナテ	淡灰茶褐色	微細砂粒含	不良	端部に面有	底部はほぼ面が接地する	32

Tab.10 出土遺物観察表⑩

No	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-No
401	1SK30	弥生	器台	12.5	13.4	16.8	ほぼ完形	横ナテ	刷毛	刷毛	横ナテ	横ナテ	茶褐色	ほぼ精良	やや不良	端部に面有	底部はほぼ面が接地する	33
402	1SK30	弥生	器台	11.6	13.2	16.0	完形	横ナテ	刷毛	不明	横ナテ	横ナテ	茶褐色	細砂粒多	不良	端部に面有	底部はほぼ面が接地する	30
403	1SK30	弥生	器台	12.0	口縁1/6	横ナテ	刷毛	不明ナテ			淡茶褐色	ほぼ精良	やや不良	端部に面有	R-39と同一個体?	40
404	1SK30	弥生	器台	12.2	口縁1/6	不明	不明	不明			淡赤褐色	微細砂粒含	不良	端部に面有		38
405	1SK30	弥生	器台	12.0	口縁1/8	横ナテ	刷毛	刷毛			淡灰褐色	細砂粒少	良	端部に面有		35
406	1SK30	弥生	器台	12.4	口縁1/4	横ナテ	刷毛	刷毛			明茶褐色	砂粒少	やや不良	端部に面有		37
407	1SK30	弥生	器台	12.4	口縁1/6	横ナテ	刷毛	刷毛ナテ			淡茶褐色	ほぼ精良	やや不良	端部に面有	R-40と同一個体?	39
408	1SK30	弥生	器台	12.4	口縁1/6	横ナテ	刷毛	刷毛ナテ			淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	端部に面有		42
409	1SK30	弥生	器台	13.0	口縁1/6	横ナテ	刷毛	刷毛?ナテ			淡茶褐色	細砂粒含	不良	端部に面有		41
410	1SK30	弥生	器台	15.0		横ナテ	横ナテ	刷毛			暗褐色	砂粒少	やや良	端部に面有		106
411	1SK30	土師	甕	口縁部細片	横ナテ	刷毛	不明			淡乳茶色	精良	やや不良	端部に面有		143
412	1SK30	弥生	器台	細片	横ナテ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	細砂粒含	やや良	端部に面有	口縁部直下の内面に凹線状の押さえ有	46
413	1SK30	弥生	器台	細片	横ナテ	刷毛	不明			淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	端部に面有		45
414	1SK30	弥生	器台	細片	横ナテ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	ほぼ精良	やや良	端部に面有		48
415	1SK30	弥生	器台	細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡茶褐色	ほぼ精良	良	端部に面有		47
416	1SK30	弥生	器台	...	20.0	...	細片		刷毛	刷毛	横ナテ	横ナテ	淡褐色	細砂粒含	やや不良	底端部に面有	底部の面は接地しない	43
417	1SK30	弥生	器台	...	16.0	...	底部1/8		刷毛	横ナテ	横ナテ	横ナテ	淡茶褐色	砂粒少 角閃石含	やや良	底端部に面有	底部の面は接地しない	44
418	1SK30	弥生	器台	...	16.2	...	底部1/4		刷毛	刷毛	横ナテ	横ナテ	淡灰茶色	砂粒少	やや不良	底端部に面有	底部の面は接地しない	36
419	1SK30	弥生	器台	15.7	17.4	8.4	完形	横ナテ	横ナテ	不明	不明	横ナテ	淡茶褐色	砂粒多	不良	二重口縁	小さな黒斑有	10
420	1SK30	弥生	支脚	細片		ナテ	不明	ナテ	ナテ	淡茶褐色	細砂粒少	やや良		手づくね風	49
421	1SK30	弥生	甕	体部細片		刷毛	ナテ			淡灰褐色	細砂粒含	やや良		焼成後に穿孔	150
422	1SK30	弥生	面子							内:暗褐色 外:淡茶褐色	細砂粒含	やや良			27
423	1SK30	弥生	面子							内:淡茶褐色 外:暗褐色	細砂粒含	やや不良			28
424	1SK30	弥生	面子							淡茶褐色	細砂粒少	やや良			29
425	1SK30 (直下)	弥生	甕	14.0	口縁部 1/6	不明	不明	ナテ			淡灰褐色	砂粒多	不良	逆シ字		28
426	1SK30 (直下)	弥生	甕	28.0	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	逆シ字		22
427	1SK30 (直下)	弥生	甕	31.0	口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	ナテ			暗茶褐色	細砂粒少	やや不良	逆シ字 端部下がり	折曲げ部の内面を内側に 少しまみだす	11
428	1SK30 (直下)	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			茶褐色	ほぼ精良	やや良	逆シ字	折曲げ部の内面を内側に 少しまみだす	36
429	1SK30 (直下)	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡灰褐色	細砂粒多	不良	逆シ字 端部肥厚	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	29
430	1SK30 (直下)	弥生	甕	28.2	口縁部 1/10	丹塗り	丹塗り	ナテ			淡赤褐色	微細砂粒 含	不良	逆シ字 端部に面有	端部に刻み目有	1
431	1SK30 (直下)	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	逆シ字	折曲げ部の内面を内側に 少しまみだす	34
432	1SK30 (直下)	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡茶褐色	細砂粒含	不良	逆シ字	折曲げ部の内面を内側に 少しまみだす	33
433	1SK30 (直下)	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			暗褐色	砂粒多	やや不良	逆シ字	折曲げ部の内面を内側に 少しまみだす	37
434	1SK30 (直下)	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡灰褐色	細砂粒多	不良	逆シ字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	32
435	1SK30 (直下)	弥生	甕	25.0	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡茶褐色	細砂粒含	やや不良	深い 「く」の字	折曲げ部の内面にゆるい 稜線有	14
436	1SK30 (直下)	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					暗褐色	細砂粒含	やや良	「く」の字	折曲げ部の内面にゆるい 稜線有	25
437	1SK30 (直下)	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					淡灰褐色	細砂粒少	やや良	深い 「く」の字	折曲げ部の内面にゆるい 稜線有	24
438	1SK30 (直下)	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡黒灰色	細砂粒含	不良	「く」の字 端部肥厚		31
439	1SK30 (直下)	弥生	甕	口縁部細片	不明					明茶褐色	砂粒少	不良	「く」の字	折曲げ部の内面にゆるい 稜線有	27
440	1SK30 (直下)	弥生	甕	26.0	口縁部 1/6	横ナテ 刷毛	刷毛	ナテ			淡灰茶褐色	細砂粒多	やや不良	深い 「く」の字	折曲げ部の内面にゆるい 稜線有	13

Tab.11 出土遺物観察表⑪

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-No
441	1SK30 (直下)	弥生	甕	28.0	口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	ナテ			暗褐色	やや精良	やや良	深い 「く」の字		16
442	1SK30 (直下)	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					暗褐色	精良	良	深い 「く」の字		26
443	1SK30 (直下)	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					淡灰褐色	ほぼ精良	やや良	深い 「く」の字		35
444	1SK30 (直下)	弥生	甕	29.0	口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	ナテ			明茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字		17
445	1SK30 (直下)	弥生	甕	32.0	口縁部細片	不明					淡茶褐色	細砂粒少	不良	深い 「く」の字	折曲げ部の内面にゆるい 稜線有	23
446	1SK30 (直下)	弥生	甕	32.0	口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	ナテ			淡褐色	細砂粒多	やや不良	「く」の字 上部に面有	折曲げ部の内面にゆるい 稜線有	19
447	1SK30 (直下)	弥生	甕	28.0	口縁部 1/8	不明	不明	不明			暗茶褐色	細砂粒多	不良	深い 「く」の字		20
448	1SK30 (直下)	弥生	甕	29.0	口縁部 1/6	横ナテ	不明	不明			淡茶褐色	細砂粒多	不良	深い 「く」の字		12
449	1SK30 (直下)	弥生	甕	34.0	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡乳褐色	やや精良	やや良	深い 「く」の字	折曲げ部の内面に稜線有	18
450	1SK30 (直下)	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					淡灰褐色	細砂粒少	やや良	「く」の字		40
451	1SK30 (直下)	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					淡灰褐色	細砂粒多	やや不良	深い 「く」の字	口縁部に面有	30
452	1SK30 (直下)	弥生	甕	21.0	口縁部細片	横ナテ	刷毛	横ナテ			淡灰褐色	細砂粒含	やや良	直立 上部に面有	端部に凹線状のへこみあり	7
453	1SK30 (直下)	弥生	甕	28.0	口縁部 1/8	横ナテ					内:淡灰褐色 外:暗褐色	金雲母・ 細砂粒少	やや良	逆L字 端部跳上げ	折曲げ部の内面を内側に 少しつまみだす	21
454	1SK30 (直下)	弥生	甕	体部細片		ナテ	ナテ			淡灰褐色	砂粒少	やや不良		台形突帯1条有	41
455	1SK30 (直下)	弥生	甕	体部細片		不明	ナテ			淡茶褐色	細砂粒含	不良		三角突帯1条有	38
456	1SK30 (直下)	弥生	甕	体部細片		不明	ナテ			淡茶褐色	細砂粒多	やや不良		突帯1条有	39
457	1SK30 (直下)	弥生	甕	...	6.0	...	底部のみ		刷毛		ナテ	不明	淡橙褐色	砂粒少	やや不良		底部は深く押し込み「上 げ底」状にする	42
458	1SK30 (直下)	弥生	甕	...	7.0	...	底部1/6		刷毛	ナテ	ナテ	横ナテ	淡灰褐色	精良	やや不良			52
459	1SK30 (直下)	弥生	甕	...	7.4	...	底部片		刷毛	ナテ	ナテ	未調整	淡紫褐色	精良	良			49
460	1SK30 (直下)	弥生	甕	...	7.0	...	底部1/6		刷毛	ナテ	ナテ	不明	淡茶褐色	細砂粒含	不良			53
461	1SK30 (直下)	弥生	甕	...	9.6	...	底部1/6		刷毛	ナテ	ナテ	不明	淡黒灰色	細砂粒含	やや不良			51
462	1SK30 (直下)	弥生	甕	...	7.8	...	底部片		刷毛	ナテ	ナテ	未調整	淡灰褐色	精良	やや不良			48
463	1SK30 (直下)	弥生	甕	...	9.8	...	底部のみ		刷毛	不明	不明	ナテ	明茶褐色	砂粒少	不良			45
464	1SK30 (直下)	弥生	甕	...	10.8	...	底部のみ		刷毛	指頭圧 痕	不明	未調整	淡茶褐色	細砂粒多	不良		黒斑有	44
465	1SK30 (直下)	弥生	甕	...	11.0	...	底部1/6		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡灰褐色	砂粒少	良		黒斑有	50
466	1SK30 (直下)	弥生	甕	...	10.2	...	底部片		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗茶褐色	細砂粒含	不良			46
467	1SK30 (直下)	弥生	甕	...	9.4	...	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	未調整	暗褐色	細砂粒含	不良			56
468	1SK30 (直下)	弥生	甕	...	9.4	...	底部片		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡灰褐色	細砂粒多	やや不良		黒斑有	47
469	1SK30 (直下)	弥生	甕	...	8.4	...	底部のみ		ナテ	ナテ	ナテ	未調整	淡灰褐色	砂粒少	やや良			43
470	1SK30 (直下)	弥生	甕	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	不明	茶褐色	細砂粒含	やや良			55
471	1SK30 (直下)	弥生	甕	底部細片		刷毛	ナテ		ナテ	暗褐色	細砂粒含	やや良			54
472	1SK30 (直下)	弥生	壺	34.0	口縁部 1/4	横ナテ	ナテ	ナテ			内:淡紫色 外:淡茶褐色	細砂粒含	やや良	逆L字 端部上がり	端部に面有	15
473	1SK30 (直下)	弥生	蓋	つまみ部 のみ		刷毛	刷毛			明茶褐色	細砂粒含	やや不良		つまみ部径5.4cm 頂部外面は未調整	57
474	1SK30 (直下)	弥生	鉢	口縁部細片	横ナテ	刷毛	横ナテ			淡灰褐色	細砂粒多	やや良	わずかに 内湾	黒斑有	5
475	1SK30 (直下)	弥生	鉢	18.0	口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	横ナテ			淡灰褐色	細砂粒多	やや不良	わずかに 内湾		4
476	1SK30 (直下)	弥生	鉢	口縁部 1/6	欠損	刷毛	ナテ			端黄灰色	細砂粒多	不良	深い 「く」の字		6
477	1SK30 (直下)	弥生	高坏	口縁部 1/4	丹塗り	丹塗り	丹塗り			淡乳茶色	砂粒少	不良	T字		2
478	1SK30 (直下)	弥生	高坏	...	17.8	...	脚底部 1/6		丹塗り	刷毛	横ナテ	横ナテ	淡灰茶褐色	微細砂粒 含	やや良		底端部に面有 面は接地しない	3
479	1SK30 (直下)	弥生	器台	15.0	口縁部細片	不明	不明	不明			内:暗赤色 外:淡黒灰色	細砂粒多	不良	内湾		9
480	1SK30 (直下)	弥生	器台	...	18.0	...	底部細片		刷毛	ナテ	横ナテ	横ナテ	茶褐色	砂粒少	やや不良			8

Tab.12 出土遺物観察表(12)

No	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-No
481	1SK30(直下)	弥生	器台	...	16.0	...	底部細片		不明	不明	不明	不明	内:淡黒灰色 外:淡茶褐色	細砂粒多	不良			10
482	1SK03	弥生	甕	30.6	口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	ナテ			内:淡褐色 外:橙褐色	角閃石・ 金雲母含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	1
483	1SK03	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					淡橙褐色～ 黒灰色	細砂粒・ 金雲母含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	3
484	1SK03	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					暗褐色～ 黒灰色	角閃石・ 金雲母含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	4
485	1SK03	弥生	甕	41.0	口縁部 1/8	横ナテ	刷毛	ナテ			暗褐色～ 茶褐色	角閃石・ 金雲母含	良	深い 「く」の字	口縁部直下に三角突帯1 条有	2
486	1SK03	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					暗褐色～ 淡褐色	砂粒・ 金雲母含	良	端部に面有		5
487	1SK03	弥生	甕?	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡褐色	角閃石・ 金雲母含	良	小さなキャ リバー状	黒斑有	7
488	1SK03	弥生	甕	...	6.7	...	底部のみ		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡褐色～ 暗褐色	角閃石・ 金雲母含	良		底部は上げ底	14
489	1SK03	弥生	甕	...	8.0	...	底部1/4		刷毛	ススが 厚く付着	ススが 厚く付着	ナテ	暗褐色～ 淡褐色	角閃石・ 金雲母含	良			8
490	1SK03	弥生	甕	底部片		刷毛			ナテ	暗灰褐色	細砂粒・ 金雲母含	良			9
491	1SK03	弥生	甕	...	7.6	...	底部1/2		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	黒褐色～ 灰褐色	角閃石・ 金雲母含	良			13
492	1SK03	弥生	甕	...	10.6	...	底部1/8		刷毛?	刷毛?	ナテ	ナテ	内:淡褐色 外:橙褐色	細砂粒・ 金雲母含	良			11
493	1SK03	弥生	甕	...	7.1	...	底部1/4		刷毛	厚くス ス付着	厚くス ス付着	ナテ	暗褐色～ 茶褐色	細砂粒・ 金雲母含	良		底部に粘土の貼合わせ痕 有	10
494	1SK03	弥生	甕	...	7.1	...	底部1/3		刷毛	ナテ	厚くス ス付着	ナテ	内:暗褐色 外:淡褐色	角閃石・ 金雲母含	良			12
495	1SK03	弥生	器台	11.6	口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	刷毛			橙色～ 灰褐色	角閃石・ 金雲母含	良	端部に面有	R-16と同一か?	15
496	1SK03	弥生	器台	12.0	口縁部 1/4	横ナテ	刷毛	刷毛			灰褐色	角閃石・ 金雲母含	良	端部に面有	R-15と同一か?	16
497	1SK04	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			暗褐色	砂粒多	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	3
498	1SK04	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					内:暗褐色 外:淡橙褐色	細砂粒・ 金雲母含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	2
499	1SK04	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ	刷毛	不明			内:灰色 外:淡橙褐色	角閃石・ 金雲母含	良	「く」の字	口縁部が肥厚する	4
500	1SK04	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					黒灰色	砂粒多	良	「く」の字	口縁部が肥厚する	1
501	1SK04	弥生	甕	体部細片		不明	不明			内:灰色 外:淡橙褐色	角閃石・ 砂粒含	良		M字突帯有	5
502	1SK04	弥生	甕	...	9.0	...	底部1/2		刷毛	不明	不明	ナテ	褐色	角閃石・ 金雲母含	良			6
503	1SK04	弥生	甕	...	9.0	...	底部1/4		刷毛	ナテ	厚くス ス付着	ナテ	暗褐色	金雲母・ 砂粒少含	良			7
504	1SK04	弥生	甕	底部細片		不明	不明			内:黒褐色 外:淡橙褐色	精良	良		丹塗りか?	10
505	1SK04	弥生	甕	底部細片		刷毛	ナテ			内:淡褐色 外:黒灰褐色	金雲母・ 砂粒少含	良			8
506	1SK04	弥生	甕	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	内:黒灰色 外:黒褐色	角閃石・ 金雲母含	良			9
507	1SK04	弥生	甕	底部細片		不明	籠ナテ			乳褐色	砂粒多	良		台付か?	11
508	1SK04	弥生	器台	13.0	14.4	15.5	1/3	横ナテ	刷毛	刷毛 ナテ	横ナテ	横ナテ	内:灰褐色 外:橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良	端部に面有	底部にも面有 底部の 面は接地しない	14
509	1SK04	弥生	器台	底部細片		刷毛	横ナ テ?	横ナテ	横ナテ	内:淡褐色 外:橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良		底部にも面有 底部の面 は接地しない	15
510	1SK04	弥生	高坏	25.6	坏部1/8	丹塗 り?	丹塗 り?	丹塗 り?			内:橙褐色 外:赤褐色	金雲母・ 砂粒含	良	T字	全面丹塗りか?	13
511	1SK04	弥生	高坏	坏部1/4		不明	不明			明橙色	精良	良		坏部と脚部の接合後に粘 土栓を使用	12
512	1SK04	弥生	石包丁				1/3											16
513	1SK04	彌石	剥片															17
514	1SK06	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					茶褐色	金雲母・ 角閃石含	良	T字		1
515	1SK06	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			茶褐色	精良	良	小さなキャ リバー状		2
516	1SK06	弥生	甕	...	5.5	...	底部1/4		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	褐色	金雲母・ 角閃石含	良		外面・外底面に一部黒斑 有	3
517	1SK14	弥生	甕	30.6	口縁部 1/8	不明	不明	不明			淡赤褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆L字	折曲げ部の内面をわずか につまみだす	3
518	1SK14	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					内:淡褐色 外:暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	T字?		1
519	1SK14	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					内:淡茶褐色 外:暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	T字?		2
520	1SK14	弥生	甕	底部1/3		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	金雲母・ 砂粒含	良			4

Tab.13 出土遺物観察表⑬

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-No
521	ISK19	弥生	甕	40.2	…	…	口縁部 1/5	横ナテ					淡茶褐色	金雲母・ 砂粒多	良	T字 端部に面有	甕楕用大甕 口縁端部は やや下がる	1
522	ISK19	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛	不明			淡灰褐色	金雲母・ 砂粒多	良	逆L字	折曲げ部の内面を上方に つまみだす	2
523	ISK19	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛				淡橙褐色	金雲母・ 砂粒多	良	深い 「く」の字		3
524	ISK19	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					乳褐色	金雲母・ 砂粒含	良	「く」の字	口縁部は肥厚	6
525	ISK19	弥生	壺	…	…	…	体部細片	横ナテ	不明				内:淡褐色 外:淡茶褐色	金雲母・ 砂粒多	良		三角突帯1条有	5
526	ISK19	弥生	甕	…	…	…	体部細片		不明	不明			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良		M字突帯1条有	4
527	ISK19	弥生	甕?	…	7.6	…	底部 1/3		刷毛	刷毛	ナテ	ナテ	内:灰色 外:黒色	金雲母含	良			9
528	ISK19	弥生	甕	…	9.5	…	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	内:乳褐色 外:乳茶褐色	金雲母・ 角閃石含	良			8
529	ISK19	弥生	甕	…	…	…	底部細片		不明	不明	不明	不明	内:明褐色 外:橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良			7
530	ISK19	弥生	粘土塊				完形						淡褐色	金雲母少	良			10
531	ISK21	弥生	甕	…	…	…	細片	不明					淡赤茶褐色	微細砂粒 含	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	2
532	ISK21	弥生	甕	…	…	…	細片	不明					淡灰茶褐色	細砂粒多	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	3
533	ISK21	弥生	甕	…	…	…	細片	横ナテ					淡赤褐色	精良	やや不良	端部に面有	丹塗り	1
534	ISK21	弥生	器台	…	…	…	細片	不明	刷毛?	不明			淡茶褐色	細砂粒多	不良	上外方に ひらく	端部に面有 端部に沈線状凹み有	4
535	ISK24	弥生	面子										淡黄褐色	砂粒多	良			3
536	ISK24	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡黄褐色	砂粒多	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	2
537	ISK24	弥生	甕	…	7.8	…	底部細片		刷毛	ナテ		ナテ	内:暗茶黒色 外:暗黒灰色	砂粒多	良			1
538	ISK34	弥生	壺	18.0	…	…	口縁部のみ	刷毛					茶褐色	石英・ 雲母片多	良			14
539	ISK34	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡茶褐色	細砂粒含	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	1
540	ISK34	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡茶褐色	砂粒少	やや良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	4
541	ISK34	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡茶褐色	砂粒少	やや良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	2
542	ISK34	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡茶褐色	微細砂粒 含	やや不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	3
543	ISK34	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字		8
544	ISK34	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	丹塗り					淡茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字 口縁部肥厚		19
545	ISK34	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明	不明	ナテ			淡茶褐色	細砂粒含	不良	「く」の字		5
546	ISK34	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡茶褐色	微細砂粒 含	やや不良	「く」の字		6
547	ISK34	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡灰茶褐色	細砂粒多	やや不良	「く」の字		9
548	ISK34	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡灰茶褐色	細砂粒含	やや不良	「く」の字 口縁部肥厚		7
549	ISK34	弥生	甕	…	…	…	体部細片		横ナテ	ナテ			淡灰茶褐色	砂粒少	やや不良			10
550	ISK34	弥生	甕	…	…	…	体部細片		横ナテ	不明			明赤茶褐色	砂粒多	不良			11
551	ISK34	弥生	甕	…	10.0	…	底部片		不明	ナテ	ナテ	不明	明赤茶褐色	細砂粒多	不良			12
552	ISK34	弥生	甕	…	…	…	底部細片		刷毛	ナテ			淡灰褐色	細砂粒少	やや良			13
553	ISK34	弥生	高環	22.2	…	…	口縁部細片	不明					明赤褐色	精良	不良	T字		22
554	ISK34	弥生	高環	…	…	…	脚部細片		丹塗り	絞り痕			淡赤褐色	細砂粒多	不良		R-21と同一個体	20
555	ISK34	弥生	高環	…	…	…	脚部細片		不明	絞り痕			明赤褐色	精良	不良			23
556	ISK34	弥生	高環	…	…	…	脚底部細片				不明	不明	淡赤褐色	細砂粒少	不良		底端部に面有 端部は接地しない	18
557	ISK34	弥生	鉢	11.0	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡褐色	砂粒少	やや良	わずかに 内湾		17
558	ISK34	弥生	器台	14.0	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡灰茶褐色	ほぼ精良	良	端部に面有		15
559	ISK34	弥生	器台	…	…	…	底部細片		不明	刷毛	横ナテ	横ナテ	淡赤褐色	細砂粒少	不良			16
560	ISK34	弥生	面子										淡茶褐色	細砂粒多	やや不良			25

Tab.14 出土遺物観察表⑭

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-No
561	1SK34	弥生	面子										明褐色	細砂粒含	やや良			24
562	1SK36	?	石製品															1
563	1SK39	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ	刷毛	不明			内:淡茶褐色 外:暗褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	-1
564	1SK39	弥生	甕	口縁部細片	不明					橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字 端部跳上げ		8
565	1SK39	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					内:淡褐色 外:淡茶褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字 端部下がり	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	2
566	1SK39	弥生	甕	口縁部細片	不明					黒褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字 口縁部肥厚		6
567	1SK39	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字 口縁部肥厚		4
568	1SK39	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					淡橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字 口縁部肥厚	折曲げ部の内面にゆるい 稜線有	3
569	1SK39	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字 口縁部肥厚		5
570	1SK39	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字 口縁部肥厚		7
571	1SK39	弥生	甕	体部細片		ナテ	ナテ			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良		M字突帯・三角突帯各1 条有	10
572	1SK39	弥生	甕	体部細片		刷毛	ナテ			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良			9
573	1SK39	弥生	甕	体部細片		ナテ	不明		ナテ	暗褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			12
574	1SK39	弥生	甕	体部細片		刷毛	ナテ		ナテ	淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良		やや上げ底気味	11
575	1SK43	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字 端部肥厚	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	5
576	1SK43	弥生	甕	口縁部細片	不明					内:淡橙褐色 外:暗褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	4
577	1SK43	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	6
578	1SK43	弥生	甕	29.1	口縁部 1/8	横ナテ	不明	不明			茶褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	1
579	1SK43	弥生	甕	口縁部細片	不明					内:淡橙褐色 外:淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	3
580	1SK43	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					暗灰褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	7
581	1SK43	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字	端部はわずかに内湾	10
582	1SK43	弥生	甕	口縁部細片	不明					内:橙褐色 外:黒色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字 端部に面有	口縁端部に沈線状凹み1 条有	8
583	1SK43	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字		11
584	1SK43	弥生	甕	口縁部細片	不明					内:橙褐色 外:灰褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字		9
585	1SK43	弥生	甕	24.0	口縁部 1/6	不明	不明	不明			橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字		2
586	1SK43	弥生	甕	...	8.2	...	底部1/3		刷毛	不明	不明	ナテ	内:黒褐色 外:橙色	金雲母・ 細砂粒含	良			13
587	1SK43	弥生	甕	...	11.2	...	底部1/4		不明	不明	不明	ナテ	内:淡橙褐色 外:黒色	金雲母・ 細砂粒含	良			12
588	1SK43	弥生	鉢	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	わずかに 内湾?		15
589	1SK43	弥生	鉢	口縁部細片	不明					灰褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	外上方に ひらく		17
590	1SK43	弥生	鉢	口縁部細片	横ナテ	刷毛	刷毛?			内:淡褐色 外:淡黒褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	端部に面有		16
591	1SK43	弥生	器台	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	端部に面有		21
592	1SK43	弥生	高環	口縁部細片		刷毛	絞り痕			橙褐色	金雲母含	良		外面の一部に煤付着	20
593	1SK43	弥生	高環	口縁部細片		不明	絞り痕			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良		外面丹塗り	19
594	1SK43	弥生	高環	脚底部細片			ナテ	刷毛	不明	淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良		全面丹塗り	18
595	1SK43	弥生	粘塊										淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			22
596	1SK43	須恵	環	口縁部細片	横ナテ	ケズリ	横ナテ			灰色	ほぼ精良	良			24
597	1SK43	須恵	剥片															25
598	1SK44	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					淡茶褐色	砂粒多	ほぼ良	逆L字	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	2
599	1SK44	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					薄肌色	砂粒多	良	「く」の字		3
600	1SK44	弥生	甕	体部細片		刷毛	不明			薄黄茶色	砂粒含	良			4

Tab.15 出土遺物観察表⑮

No	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-No
601	1SK44	弥生	甕	…	…	…	底部細片		刷毛	刷毛	横ナテ	ナテ	淡褐色	砂粒多	ほぼ良			1
602	1SK46	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡灰褐色	砂粒多	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	1
603	1SK46	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡黄茶色	砂粒多	良	逆L字 端部肥厚	折曲げ部の内面を内側につまみだす	2
604	1SK46	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡黄茶色	砂粒多	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	3
605	1SK46	弥生	甕	…	…	…	体部細片		ナテ	不明			淡赤茶色	精良	良		M字突帯1条有	8
606	1SK46	弥生	甕	…	7.8	…	底部1/8		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	明赤茶色	砂粒多	良			5
607	1SK46	弥生	甕	…	17.4	…	底部1/6		不明	ナテ	ナテ	不明	淡黄灰色	砂粒多	良			6
608	1SK46	弥生	壺	…	…	…	底部細片		ナテ	不明	不明	ナテ	淡灰黒色	砂粒多	良			7
609	1SK46	弥生	甕	…	…	…	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	不明	淡黄白色	砂粒多	良		黒斑有	4
610	1SK46	軽石	破片															9
611	1SK47	弥生	甕	…	7.8	…	底部3/4		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗灰黒色	砂粒含	良			1
612	1SK47	弥生	甕	…	…	…	体部細片		ナテ	ナテ			暗黄茶色	砂粒含	良		M字突帯1条有	2
613	1SK47	弥生	面子										暗黄茶色	砂粒多	良			3
614	1SK51	弥生	台	…	…	…	底部細片				ナテ	横ナテ	淡黄白茶色	砂粒含	良			3
615	1SK51	弥生	甕	31.4	…	…	口縁部 1/8	横ナテ	不明	ナテ			淡赤褐色	砂粒多	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	1
616	1SK51	弥生	器台	…	…	…	底部細片	横ナテ					淡黄白茶色	砂粒多	良			2
617	1SK53	弥生	鉢	…	…	…	口縁部細片	不明					黄茶色	砂粒多	ほぼ良	直線的に外方へひらく		3
618	1SK53	弥生	鉢	…	…	…	口縁部細片	不明					淡黄白色	砂粒多	良	直線的に外方へひらく		4
619	1SK53	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡赤黄茶色	砂粒多	ほぼ良	「く」の字		2
620	1SK53	弥生	甕	…	…	…	底部細片		不明		不明	ナテ	赤茶褐色	砂粒多	良			1
630	1SK58	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					濁黄白色	砂粒含	ほぼ良	「く」の字		2
631	1SK58	弥生	壺	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					濁黄白色	砂粒含	ほぼ良	二重口縁		3
632	1SK58	弥生	甕	…	…	…	底部細片		横ナテ	不明	不明	ナテ	淡黄赤色	砂粒多	良			1
633	1SK58	弥生	小壺	…	…	…	底部細片		ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	暗黄土色	砂粒多	良			4
634	1SK58	弥生	器台	…	…	…	底部細片				横ナテ	横ナテ	淡黄土色	砂粒多	良			6
635	1SK58	弥生	器台	…	…	…	底部細片				横ナテ	横ナテ	淡黄赤色	砂粒多	やや良			5
636	1SK58	弥生	面子										暗赤褐色	砂粒多	良			9
637	1SK58	弥生	面子										淡灰褐色	砂粒多	良			8
638	1SK64	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					赤茶褐色	砂粒含	ほぼ良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	2
639	1SK64	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					赤茶褐色	砂粒多	良	「く」の字		1
640	1SK64	弥生	器台	…	…	…	底部細片				横ナテ	横ナテ	灰茶色	砂粒少	良			3
641	1SK64	弥生	高坏	…	…	…	脚部細片		不明	ナテ 刷毛			白黄茶色	精良	ほぼ良			4
642	1SK69	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡黄白色	砂粒多	良	「く」の字		1
643	1SK69	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡黄白色	砂粒多	良	「く」の字		6
644	1SK69	弥生?	甕	…	…	…	体部細片		叩き	不明			淡灰黒色	砂粒多	良			2
645	1SK69	弥生	甕	…	…	…	底部細片		不明		不明	不明	黄土色	砂粒多	良			4
646	1SK69	弥生	器台	…	…	…	底部細片		不明	不明	不明	不明	淡赤白灰色	砂粒多	良			7
647	1SK69	弥生	器台	…	…	…	底部細片				横ナテ	横ナテ	淡灰茶褐色	細砂粒含	良			3
648	1SK69	弥生	器台	…	…	…	底部細片		不明	不明	不明	不明	淡黄白茶色	砂粒多	ほぼ良			5
649	1SK70	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡黄灰白色	砂粒多	良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	1
650	1SK70	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡黄白茶色	砂粒多	良	「く」の字		2

Tab.16 出土遺物観察表⑬

No	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-No
651	1SK70	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡黄白赤色	砂粒多	良	「く」の字		3
652	1SK70	弥生	甕	21.2	…	…	口縁部 1/6	横ナテ	不明	不明			暗赤茶褐色	砂粒多	やや良	「く」の字		6
653	1SK70	弥生	壺	…	…	…	頸部細片		刷毛	ナテ			黄赤茶褐色	砂粒多	良			4
654	1SK70	弥生	甕	…	…	…	底部細片		不明	不明	不明	不明	淡黄白色	砂粒多	良			5
655	1SK70	弥生	器台	…	10.9	…	底部1/2		横ナテ	横ナテ	横ナテ	横ナテ	淡灰茶褐色	砂粒多	良			7
656	1SK70	サヌカ イト	剥片															9
657	1SK71	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆し字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	2
658	1SK71	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	逆し字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	1
659	1SK71	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆し字端部 反上げ	折曲げ部の内面を内側につまみだす	3
660	1SK71	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 砂粒含	良	「く」の字		5
661	1SK71	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字 端部肥厚		4
662	1SK71	弥生	器台	…	10.6	…	底部1/10		不明	不明	不明	不明	灰褐色	金雲母・ 角閃石含	良			6
663	1SK71	弥生	面子										橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良			7
664	1SK74	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆し字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	2
665	1SK74	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					橙褐色	金雲母・ 砂粒含	良	「く」の字	口縁端部の面に沈線1条有	1
666	1SK74	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	不明	ナテ			淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	浅い 「く」の字		3
667	1SK74	弥生	甕	…	10.5	…	底部1/6		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	乳褐色	金雲母・ 角閃石含	良			6
668	1SK74	弥生	甕	…	8.0	…	底部1/4		不明	不明	不明	不明	淡茶褐色	金雲母・ 砂粒含	良			5
669	1SK74	弥生	甕	…	…	…	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	不明	橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良			4
670	1SK74	弥生	器台	…	…	…	底部細片		不明	不明	不明	不明	橙色	金雲母・ 角閃石含	良			8
671	1SK74	弥生	鉢	11.0	…	5.0	口縁部 1/8	横ナテ	刷毛	刷毛			橙色	金雲母含	良	直線的に外 方へひらく		7
672	1SK74	弥生	面子										暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良			9
673	1SP42	弥生	鉢	…	…	…	口縁部細片	不明					橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	端部外方へ つまみ出し		2
674	1SP42	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母含	良	?		1
675	1SP42	弥生	高坏	…	…	…	脚部細片		不明	ナテ			淡褐色	金雲母含	良		接合部は後に枠で埋めて 成形	3
676	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆し字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	包-30
677	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					黒褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	逆し字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	包-31
678	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字		包-25
679	1SD35	弥生	甕	26.8	…	…	口縁部 1/8	不明	不明	不明			暗褐色	金雲母・ 砂粒含	良	「く」の字	口縁端部に沈線状の凹み 1条有	包-43
680	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					内:淡褐色 外:黒色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字		包-37
681	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					内:黄褐色 外:暗褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字		包-36
682	1SD35	弥生	甕	25.5	…	…	口縁部 1/8	横ナテ	不明	不明			内:淡褐色 外:暗褐色	金雲母・ 砂粒含	良	「く」の字		包-44
683	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字		包-34
684	1SD35	弥生	甕	28.7	…	…	口縁部 1/4	横ナテ	刷毛	刷毛			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字		包-46
685	1SD35	弥生	甕	28.2	…	…	口縁部 1/4	横ナテ 刷毛	刷毛	不明			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	「く」の字		包-45
686	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字		包-33
687	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					内:淡橙褐色 外:淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字		包-32
688	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	深い 「く」の字		包-35
689	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					褐色	金雲母・ 砂粒含	良	「く」の字	口縁端部に刻み目有	包-39
690	1SD35	弥生	甕	28.6	…	…	口縁部 1/8	刷毛					淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	「く」の字	口縁端部に刻み目有	包-42

Tab.17 出土遺物観察表⑱

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-No
691	1SD35	弥生	甕	32.4	口縁部 1/2	刷毛					淡褐色	金雲母・ 砂粒含	良	「く」の字	口縁端部に刻み目有	包-41
692	1SD35	弥生	甕	口縁部細片	不明					暗茶褐色	金雲母・ 砂粒含	良	「く」の字	口縁端部に刻み目有	包-38
693	1SD35	弥生	甕	体部細片		刷毛	刷毛			淡橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良		台形突帯に刻み目有	包-40
694	1SD35	弥生	甕	...	6.6	...	底部1/3		刷毛			ナテ	淡橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			包-14
695	1SD35	弥生	甕	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良			包-20
696	1SD35	弥生	甕	底部細片		不明	不明	不明	不明	内:暗褐色 外:橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良			包-19
697	1SD35	弥生	甕	...	6.6	...	底部1/4		不明	不明	不明	不明	内:暗褐色 外:赤褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			包-13
698	1SD35	弥生	甕	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	内:暗褐色 外:黒色	金雲母・ 角閃石含	良			包-21
699	1SD35	弥生	甕	底部細片		不明	不明	不明	不明	淡褐色	細砂粒含	良			包-4
700	1SD35	弥生	甕	...	6.8	...	底部1/4		不明	不明	刷毛	刷毛	暗褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			包-6
701	1SD35	弥生	甕	...	6.4	...	底部1/2		刷毛	ナテ	不明	ナテ	内:暗褐色 外:淡橙褐色	金雲母・ 砂粒含	良		底部に焼成後、内外面から穿孔	包-12
702	1SD35	弥生	甕	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	内:暗褐色 外:黒色	金雲母・ 角閃石含	良			包-22
703	1SD35	弥生	甕	底部細片		刷毛	ナテ指 頭痕有	ナテ	ナテ	内:暗褐色 外:淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良			包-23
704	1SD35	弥生	甕	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	内:灰褐色 外:淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良			包-17
705	1SD35	弥生	甕	底部細片		刷毛	ナテ			暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良			包-24
706	1SD35	弥生	甕	...	7.5	...	底部1/3		刷毛	不明	不明	ナテ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良			包-1
707	1SD35	弥生	甕	...	7.7	...	底部1/6		刷毛	不明	不明	ナテ	内:暗褐色 外:灰褐色	金雲母・ 角閃石含	良			包-3
708	1SD35	弥生	甕	底部細片		不明	不明	不明	不明	淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良			包-5
709	1SD35	弥生	甕	底部細片		不明	不明		不明	黒褐色	金雲母・ 角閃石含	良			包-16
710	1SD35	弥生	甕	...	8.0	...	底部1/4		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良			包-18
711	1SD35	弥生	甕	...	6.6	...	底部1/3		ナテ	不明	不明	ナテ	内:淡茶褐色 外:黒褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			包-8
712	1SD35	弥生	甕	...	10.9	...	底部1/4		ナテ	不明	不明	ナテ	内:茶褐色 外:黒褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			包-10
713	1SD35	弥生	甕	...	8.4	...	底部1/4		不明	不明	不明	不明	内:淡黄褐色 外:赤褐色	金雲母・ 角閃石含	良			包-2
714	1SD35	弥生	甕	...	4.9	...	底部のみ		ナテ	不明	不明	ナテ	暗褐色	金雲母含	良			包-9
715	1SD35	弥生	甕	...	8.0	...	底部1/4		不明	不明	不明	ナテ	暗褐色	金雲母・ 砂粒含	良			包-11
716	1SD35	弥生	甕	...	5.7	...	底部1/4		不明	不明	不明	不明	暗褐色	金雲母・ 砂粒含	良			包-15
717	1SD35	弥生	壺? 高杯?	29.7	口縁部 1/10	不明	不明	刷毛			淡褐色	金雲母・ 砂粒含	良	「く」の字		包-47
718	1SD35	弥生	壺	...	4.9	...	底部1/4		不明	指頭痕 有	不明	不明	淡褐色	金雲母・ 細砂粒含	良			包-7
719	1SD35	弥生	鉢	口縁部細片	横ナテ	刷毛	不明			淡褐色	金雲母・ 砂粒含	良	緩やかに 内湾		包-59
720	1SD35	弥生	鉢	口縁部細片	横ナテ	刷毛	不明			暗褐色	金雲母・ 角閃石含	良	緩やかに 内湾	口縁直下に焼成後穿孔有	包-60
721	1SD35	弥生	器台	14.0	口縁部 1/8	不明	不明	不明			橙褐色	金雲母・ 細砂粒含	良	外方に ひらく		包-48
722	1SD35	弥生	器台	底部細片		不明	不明	不明	不明	淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良		底端部の面は接地する	包-50
723	1SD35	弥生	器台	底部細片		不明	ナテ指 頭痕有	不明	不明	橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良		底端部の面は接地する	包-49
724	1SD35	弥生	器台	底部細片		不明	不明	不明	不明	淡褐色	金雲母・ 砂粒含	良		底端部の面は接地する	包-52
725	1SD35	弥生	器台	底部細片		不明	不明	不明	不明	淡橙褐色	金雲母・ 角閃石含	良			包-51
726	1SD35	弥生	高环	口縁部細片	丹塗り	丹塗り	丹塗り			乳茶褐色	金雲母・ 角閃石含	良	T字		包-57
727	1SD35	弥生	高环	26.8	口縁部 1/4	横ナテ	不明	不明			淡褐色	金雲母・ 角閃石含	良	T字 端部に面有		包-56
728	1SD35	弥生	高环	脚部~ 接合部		不明	絞り痕 有			淡橙褐色	精良	良			包-78
729	1SD35	弥生	高环	脚部のみ		不明	不明			明橙褐色	金雲母・ 砂粒含	良			包-55
730	1SD35	弥生	高环	脚部		不明	絞り痕 有			淡茶褐色	金雲母含	良			包-77

Tab.18 出土遺物観察表⑱

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-No
731	1SD35	弥生	高坏	…	…	…	底部細片		不明	不明	不明	不明	淡茶褐色	金雲母・砂粒含	良			包-53
732	1SD35	弥生	高坏	…	…	…	底部細片		不明	不明	不明	不明	明橙褐色	金雲母・砂粒含	良			包-54
733	1SD35	弥生?	钵?										乳褐色	金雲母・砂粒含	良			包-65
734	1SD35	弥生?	钵?										乳茶褐色	金雲母・細砂粒含	良			包-66
735	1SD35	弥生	面子										暗褐色	金雲母・角閃石含	良			包-63
736	1SD35	弥生	面子										暗褐色	金雲母・細砂粒含	良			包-61
737	1SD35	弥生	面子										褐色	金雲母・角閃石含	良			包-62
738	1SD35	弥生	粘土塊										淡灰褐色	金雲母含	良			包-64
739	1SD35	軽石																包-79
740	1SD35	土師	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					橙褐色	金雲母・細砂粒含	良	「く」の字		包-70
741	1SD35	土師	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡褐色	金雲母・角閃石含	良	「く」の字 端部つまむ		包-69
742	1SD35	土師	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					橙褐色	精良	良	「く」の字		包-71
743	1SD35	土師	甕	15.6	…	…	口縁部 1/8	横ナテ	不明	ケズリ			淡褐色	金雲母・細砂粒含	良	「く」の字 端部つまむ		包-68
744	1SD35	土師	甕	…	…	…	底部のみ		ナテ 黒斑有	刷毛	ナテ	ナテ	淡褐色	金雲母・角閃石含	良			包-67
745	1SD35	土師	鉢	13.4	…	…	口縁部 1/4	不明	不明	不明			茶褐色	金雲母含	良	「く」の字		包-72
746	1SD35	土師	鉢	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛	刷毛			淡褐色	金雲母含	良	外方に ひらく	端部に面有	包-73
747	1SD35	土師	鉢?	…	6.2	…	底部のみ		不明	指頭圧 痕	不明	不明	内:淡橙褐色 外:淡灰褐色	金雲母・細砂粒含	良			包-74
748	1SD35	土師	坏	…	…	…	底部細片		不明	不明	不明	不明	淡褐色	金雲母含	良			包-75
749	1SD35	土師	皿	…	…	…	細片	不明	不明	刷毛	不明	不明	淡橙褐色	金雲母・細砂粒含	良	丸く おさめる		包-76
750	1SD35	サヌカ イト	剥片															包-80
751	1SD35	サヌカ イト	剥片															包-81
752	1SD35	黒曜石	石鏃															包-85
753	1SD35	黒曜石	剥片															包-83
754	1SD35	黒曜石	剥片															包-84
755	1SD35	黒曜石	剥片															包-82
756	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					明茶褐色	砂粒多	不良	逆L字	折曲げ部の内面を少し内側につまみだす	28
757	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明	不明	横ナテ			淡灰褐色	細砂粒多	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	23
758	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡黄褐色	砂粒少	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	30
759	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡黄褐色	細砂粒多	不良	逆L字	折曲げ部の内面を少し内側につまみだす	14
760	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	不明	ナテ			内:黒灰色 外:茶褐色	砂粒多	やや不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	24
761	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ	刷毛	不明			淡灰褐色	細砂粒多	やや不良	逆L字	折曲げ部の内面を少し内側につまみだす	18
762	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ		不明			暗茶褐色	細砂粒多	やや不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	25
763	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡茶褐色	微細砂粒多	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	27
764	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡灰褐色	砂粒多	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	19
765	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡灰褐色	砂粒少	やや良	逆L字 端部反上り	折曲げ部の内面を内側につまみだす	15
766	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡灰褐色	細砂粒含	やや不良	逆L字 端部反上り	折曲げ部の内面を内側につまみだす	17
767	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	不明					淡灰茶褐色	砂粒少	不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	21
768	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ					淡茶褐色	細砂粒含	不良	逆L字 端部肥厚	折曲げ部の内面を内側につまみだす	20
769	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	丹塗り					茶褐色	微細砂粒含	やや不良	逆L字	折曲げ部の内面を内側につまみだす	90
770	1SD35	弥生	甕	…	…	…	口縁部細片	横ナテ		不明			茶褐色	砂粒多	不良	逆L字 端部下がり	折曲げ部の内面を内側につまみだす	26

Tab.19 出土遺物観察表⑬

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-No.
771	1SD35	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ	刷毛	不明			淡褐色	砂粒少	やや不良	逆し字 端部肥厚	折曲げ部の内面を内側に つまみだす	16
772	1SD35	弥生	甕	24.0	口縁部細片	不明	不明	不明			淡灰褐色	細砂粒含	やや不良	深い 「く」の字	折曲げ部の内面にゆるい 稜線有	5
773	1SD35	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡灰褐色	細砂粒多	不良	「く」の字 口縁部肥厚	折曲げ部の内面に明瞭な 稜線有	10
774	1SD35	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字		11
775	1SD35	弥生	甕	29.0	口縁部細片	不明	不明	不明			淡茶褐色	砂粒少	不良	深い 「く」の字	折曲げ部の内面にゆるい 稜線有	4
776	1SD35	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡黄褐色	砂粒少	不良	深い 「く」の字		22
777	1SD35	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡茶褐色	砂粒多	不良	深い 「く」の字		12
778	1SD35	弥生	甕	25.3	上半部	横ナテ	刷毛	不明			内:淡茶褐色 外:淡褐色	砂粒多	不良	「く」の字 端部に面有	折曲げ部の内面にゆるい 稜線有	1
779	1SD35	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ	不明	刷毛			暗茶褐色	細砂粒多	不良	「く」の字 端部に面有		9
780	1SD35	弥生	甕	口縁部細片	不明					淡灰褐色	砂粒少	不良	「く」の字		13
781	1SD35	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					内:淡茶褐色 外:暗褐色	砂粒多	やや不良	端部に面有		77
782	1SD35	弥生	甕	口縁部細片	横ナテ					淡黄褐色	砂粒多	不良	「く」の字 口縁部肥厚		29
783	1SD35	弥生	甕	27.0	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡灰褐色	砂粒少	やや不良	「く」の字		2
784	1SD35	弥生	甕	30.0	口縁部 1/6	横ナテ	刷毛	不明			茶褐色	細砂粒含	不良	「く」の字		3
785	1SD35	弥生	甕	32.0	口縁部細片	横ナテ					淡茶褐色	砂粒少	やや良	「く」の字 口縁部肥厚	折曲げ部の内面にゆるい 稜線有	6
786	1SD35	弥生	甕	32.0	口縁部細片	横ナテ 刷毛					暗褐色	砂粒多	不良	「く」の字 口縁部肥厚	折曲げ部の内面に明瞭な 稜線有	7
787	1SD35	弥生	甕	34.0	口縁部細片	横ナテ	不明	ナテ			淡褐色	細砂粒多	不良	「く」の字 口縁部肥厚	折曲げ部の内面に明瞭な 稜線有	8
788	1SD35	弥生	甕	体部細片		不明	不明			淡灰褐色	細砂粒含	やや不良		三角突帯2条有	34
789	1SD35	弥生	甕	体部細片		不明	不明			明赤褐色	細砂粒含	不良		三角突帯2条有	33
790	1SD35	弥生	甕	体部細片		不明	不明			淡茶褐色	砂粒少	不良		三角突帯2条有	35
791	1SD35	弥生	甕	体部細片		不明	不明			淡茶褐色	微細砂粒 含	不良		三角突帯1条有	41
792	1SD35	弥生	甕	体部細片		不明	不明			淡茶褐色	精良	不良		三角突帯1条有	39
793	1SD35	弥生	甕	体部細片		不明	不明			淡灰褐色	細砂粒含	不良		突帯1条有	36
794	1SD35	弥生	甕	体部細片		刷毛	ナテ			淡灰褐色	砂粒少	不良		突帯1条有	40
795	1SD35	弥生	甕	体部細片		不明	不明			淡茶褐色	砂粒少	不良		突帯1条有	38
796	1SD35	弥生	甕	体部細片		横ナテ				淡灰褐色	細砂粒多	やや不良		刻目台形突帯1条有	32
797	1SD35	弥生	甕	体部細片		不明	不明			淡灰褐色	砂粒多	不良		刻目台形突帯1条有	37
798	1SD35	弥生	甕	体部細片		不明	不明			淡灰褐色	砂粒多	やや不良			31
799	1SD35	弥生	甕	...	9.8	...	底部のみ		刷毛		ナテ	ナテ	淡赤褐色	細砂粒含	不良		底部は上げ底状 (台付甕か?)	42
800	1SD35	弥生	甕	...	6.0	...	底部1/4		不明	ナテ	ナテ	未調整	淡赤褐色	細砂粒含	不良			52
801	1SD35	弥生	甕	...	6.0	...	底部細片		刷毛	ナテ		不明	淡灰褐色	細砂粒含	やや不良		内面に薄く煤付着	71
802	1SD35	弥生	甕	...	6.0	...	底部1/3		刷毛	ナテ	ナテ	未調整	灰褐色	細砂粒含	やや良			56
803	1SD35	弥生	甕	...	6.4	...	底部1/8		不明	ナテ	ナテ	ナテ	淡茶褐色	細砂粒含	やや不良			54
804	1SD35	弥生	甕	...	7.0	...	底部1/8		不明	不明		不明	淡灰褐色	細砂粒含	やや不良			69
805	1SD35	弥生	甕	...	7.5	...	底部のみ		不明	不明	不明	ナテ	淡褐色	砂粒多	不良			46
806	1SD35	弥生	甕	...	7.0	...	底部1/8		不明	ナテ	ナテ	不明	内:黒灰色 外:茶褐色	微細砂粒 含	やや不良			66
807	1SD35	弥生	甕	...	7.6	...	底部1/6		不明	不明		不明	淡赤褐色	砂粒少	不良			53
808	1SD35	弥生	甕	...	8.0	...	底部1/3		刷毛	ナテ		未調整	暗褐色	細砂粒含	やや不良			65
809	1SD35	弥生	甕	...	8.0	...	底部1/6		不明	ナテ		不明	淡灰褐色	細砂粒含	不良			68
810	1SD35	弥生	甕	...	7.6	...	底部1/4		刷毛	ナテ	ナテ	未調整	淡茶褐色	細砂粒含	やや不良			50

Tab.20 出土遺物観察表②

No.	遺構	種別	器種	口径	底径	器高	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-No.
811	1SD35	弥生	甕	...	7.0	...	底部1/4		刷毛	ナテ	ナテ	不明	淡灰褐色	細砂粒多	不良			60
812	1SD35	弥生	甕	...	11.0	...	底部1/6		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	淡灰褐色	砂粒・角閃石含	やや不良			67
813	1SD35	弥生	甕	...	9.0	...	底部1/4		刷毛	ナテ		不明	内:黒灰色 外:淡灰褐色	細砂粒含	やや不良			57
814	1SD35	弥生	甕	...	6.4	...	底部のみ		ナテ	ナテ	ナテ	未調整	茶褐色	細砂粒多	やや不良			47
815	1SD35	弥生	甕	...	6.6	...	底部1/3		不明	不明	不明	不明	淡茶褐色	精良	やや不良			49
816	1SD35	弥生	甕	...	9.0	...	底部1/6		不明	ナテ	ナテ	未調整	淡赤褐色	砂粒多	不良			51
817	1SD35	弥生	甕	...	7.0	...	底部1/4		ナテ	ナテ	ナテ	未調整	淡灰褐色	砂粒含	やや良			62
818	1SD35	弥生	甕	...	6.4	...	底部1/2		不明	不明	不明	不明	茶褐色	細砂粒多	不良			48
819	1SD35	弥生	甕	...	11.0	...	底部1/6		刷毛	不明	不明	未調整	淡灰褐色	砂粒少	やや不良			63
820	1SD35	弥生	甕	...	6.0	...	底部1/3		不明	不明	不明	不明	淡灰褐色	砂粒多	不良			59
821	1SD35	弥生	甕	...	8.4	...	底部のみ		不明	不明	不明	不明	淡褐色	砂粒多	不良			45
822	1SD35	弥生	甕	...	8.6	...	底部のみ		不明	不明	不明	不明	淡褐色	砂粒多	不良			44
823	1SD35	弥生	甕	...	7.0	...	底部1/4		ナテ	不明	不明	ナテ	暗褐色	砂粒多	不良			61
824	1SD35	弥生	甕	...	5.2	...	底部2/3		ナテ	不明	不明	未調整	淡黄灰褐色	砂粒多	不良			58
825	1SD35	弥生	甕	...	9.0	...	底部1/6		不明	不明	不明	不明	淡灰褐色	砂粒少	不良			55
826	1SD35	弥生	甕	...	6.0	...	底部のみ		不明	不明	ナテ	不明	淡乳褐色	精良	やや不良			43
827	1SD35	弥生	壺? 高坏?			刷毛 横ナテ	不明			内:淡茶褐色 外:淡黒褐色	精良	やや不良			110
828	1SD35	弥生	壺?	...	12.0	...	底部細片		刷毛	ナテ	ナテ	ナテ	内:淡茶褐色 外:黒灰色	細砂粒含	やや不良			70
829	1SD35	弥生	壺?	...	8.0	...	底部1/6		不明	不明		不明	淡灰褐色	砂粒多	不良			64
830	1SD35	弥生	高坏	口縁部細片	不明					明茶褐色	細砂粒含	不良	内湾		91
831	1SD35	弥生	高坏	脚部細片		丹塗り	絞り痕			淡茶褐色	砂粒少	不良			93
832	1SD35	弥生	高坏	脚部上半		刷毛	絞り痕			淡乳茶色	精良	やや不良			94
833	1SD35	弥生	高坏	脚部細片		不明	絞り痕			淡紫茶色	細砂粒多	不良			95
834	1SD35	弥生	高坏	脚部細片		丹塗り	絞り痕			明赤褐色	砂粒少	不良			92
835	1SD35	弥生	高坏	...	19.5	...	脚底部細片		不明	不明	不明	不明	淡灰褐色	細砂粒多	不良		底端部に面有 底端部の面は接地しない	79
836	1SD35	弥生	高坏	脚底部細片		不明	不明			明赤褐色	砂粒含	不良			96
837	1SD35	弥生	器台	11.0	口縁部細片	横ナテ	刷毛	不明			淡茶褐色	細砂粒少	やや不良	端部に面有		82
838	1SD35	弥生	器台	口縁部細片	不明	不明	不明			淡茶褐色	砂粒多	不良			88
839	1SD35	弥生	器台	口縁部細片	不明	刷毛	不明			淡茶褐色	細砂粒含	不良	端部に面有		85
840	1SD35	弥生	器台	口縁部細片	横ナテ	不明	ナテ			淡灰褐色	砂粒含	やや不良	端部に面有		89
841	1SD35	弥生	器台	口縁部細片	不明	不明	不明			淡茶褐色	細砂粒多	不良	端部に面有		86
842	1SD35	弥生	器台	12.6	口縁部細片	横ナテ	刷毛	不明			淡灰褐色	細砂粒多	不良	端部に面有		80
843	1SD35	弥生	器台	底部細片		不明	不明	不明	不明	暗茶褐色	砂粒多	やや良		底端部に面有 底端部の面は接地する	87
844	1SD35	弥生	器台	...	22.6	...	底部細片		刷毛	刷毛	横ナテ	横ナテ	淡灰褐色	細砂粒含	やや不良		底端部に面有 底端部の面は接地しない	78
845	1SD35	弥生	器台	...	13.0	...	底部細片		刷毛	刷毛	横ナテ	横ナテ	淡茶褐色	砂粒少	やや不良		底端部に面有 底端部の面は接地しない	81
846	1SD35	弥生	器台	...	14.0	...	底部細片		不明	刷毛	横ナテ	横ナテ	淡灰茶褐色	細砂粒含	やや不良		底端部に面有 底端部の面は接地する	83
847	1SD35	弥生	器台	...	12.8	...	底部細片		刷毛	刷毛	横ナテ	横ナテ	淡茶褐色	砂粒少	やや不良		底端部に面有 底端部の面は接地しない	84
848	1SD35	弥生	鉢	14.2	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡灰褐色	細砂粒多	不良	内湾		99
849	1SD35	弥生	鉢	口縁部細片	横ナテ	刷毛	ナテ			淡灰褐色	砂粒少	やや良	内湾		101
850	1SD35	弥生	鉢	口縁部細片	横ナテ	不明	ナテ			内:茶褐色 外:黒灰色	細砂粒含	不良	内湾		100

Tab.21 出土遺物観察表②

第Ⅲ章 考察

1：遺跡の全体像

今回の調査は、第Ⅱ章の冒頭に述べたとおり水路部分のみの調査であったため、遺跡の全体像をつかむには資料不足の感は否めない。しかし、周辺の調査成果とあわせて、若干の考察を試みたい。

今回調査した津島皿ヶ町遺跡は、弥生時代中期中葉から古墳時代初頭の遺構が中心をなしている。主要な遺構は、大溝・廃棄土壙・掘立柱建物等であり、前述した時期においては生活空間であったことが窺い知れる。しかしながら、当時の住居の基本形態といえる竪穴式住居は、今回の調査では検出できなかった。本遺跡の西側に隣接する津島北石伏遺跡では弥生時代後期の集落が展開するが、その中に竪穴式住居が1棟確認されている。(註1)出土遺物が乏しく、遺構の残存状況も悪いため、調査担当者は時期の確定を避けているが、他の遺構の時期を考えると弥生時代中期後半から後期のものと考えて大過なからう。

したがって、本遺跡でも調査区外に竪穴式住居が存在したり、削平により消滅したりした可能性は否定できないが、集落の構造として竪穴式住居を主体としない在り方も視野に入れておく必要があるであろう。佐々木隆彦氏は、三瀨町の塚崎東畑遺跡や大川市の酒見貝塚の調査報告書の中で、この問題について若干の見解を述べている。(註2・註3)それによれば、筑後川下流域では内陸部と低湿地帯とで集落の在り方が異なり、三瀨町の高三瀨遺跡付近がその境界にあたるとしている。つまり、内陸部の集落では竪穴式住居が基本住居形態であるのに対し、低湿地帯では掘立柱の平地式住居が基本住居形態となり、その境界が標高10m前後にあたるようである。低湿地帯の集落の例としては、前述の酒見貝塚や同じく大川市の下林西田遺跡(註4)がある。筑後川右岸にあたる佐賀県側では、神埼町の川寄吉原遺跡(註5)等が知られている。

今回調査した津島皿ヶ町遺跡は、標高約9mに展開し、2者の境界付近か、やや低湿地帯よりにあたるものと考えられる。したがって、津島北石伏遺跡のように竪穴式住居が存在する可能性も否定できないものの、竪穴式住居によらずに掘立柱建物を基本住居形態とする集落であった可能性もまた否定できない。

また、廃棄土壙もあり、煮沸具である甕の出土比率も高いことから、この場所で日常生活が営まれていたことは理解される。さらに、常用日田行遺跡第3次調査や常用長田遺跡第2次調査の廃棄土壙の調査例からしても、今回調査した廃棄土壙は基本的に貯蔵穴の転用であると考えるのが妥当であろう。(註6・註7)そう考えると、竪穴式住居と墓域を欠くものの、日常の生活を営む集落として認識することが、もっとも自然である。

本遺跡を、弥生時代中期中葉から古墳時代初頭の集落として認知した場合、もうひとつ問題として浮上するのが、墓域を何処にもとめるのかという問題である。この問題について、確定的なことを論じることはもちろん、具体的なデータに基づいて検討することも無理であるが、担当者の私見・想像を述べてみたい。周辺で弥生時代の埋葬施設が確認されているのは、水田上平霊石遺跡(註8)・常用長田遺跡である。水田上平霊石遺跡では支石墓の主体部とみられる中期前半の甕棺が、常用長田遺跡では甕棺・木棺墓が確認されている。両遺跡ともに、本遺跡からは500m以上北にある。ひとつの考え方として、1集落に1つの墓域が存在するのではなく、複数の集落で墓域を共有していたのではなかろうか。集落の連合体としてのクニが存在していたと考えるならば、集落の立地状況によっては墓域の共有化は想像に難くない。皿ヶ町遺跡の周辺は、竪穴式住居に不向きであるような低湿地帯である。とすれば、当然墓壙を穿って遺体を埋葬するのにも不向きであるはずで、より適地に共同墓地を営むほうが適当である。この問題は、本遺跡の構造にとどまらず、当該期のクニの在り方

にも影響が及ぶと考えられるので、本報告ではこれ以上の論及は行わないが、墓域を持たない集落を理解する一方法として提示しておく。

また本遺跡は、弥生時代中期中葉から古墳時代初頭にかけての集落遺跡であると考えているが、周辺遺跡との係わりも若干ではあるが考えてみたい。今回の調査から、この土地に集落が営まれるのは弥生時代中期中葉であることが判明したが、周辺の遺跡では、常用長田遺跡・常用日田行遺跡・梅島遺跡・下北島久清遺跡・上北島平塚遺跡等で弥生時代前期の土器が出土し、当該時期から集落が営まれていた可能性が高い。特に、常用長田遺跡と梅島遺跡では夜白式土器の甕も出土していて興味深い。

以前に、筑後市域に於ける弥生時代前期の遺跡は市の南部域に集中することを指摘した(註8)が、集落の展開状況からみても、この考え方は大過ないと思われる。また、立石真二は、最も古い段階の弥生時代集落は常用地区のそれであり、中期以降周辺へ拡大していくという考え方を示した。(註9)この考えは、弥生時代前期の集落を常用地区に限定して考える点を除いて、弥生時代集落の展開状況を理解するものとして評価できる。

しかも、土器の器形変化も中期初頭の城ノ越式土器は、前期の板付式・亀ノ甲式土器の器形を概ね踏襲し、以降の須久式土器との間により大きな画期をもとめられる。特に壺型土器の器形変化はその傾向が顕著である。したがって、集落造営の画期が中期初頭と中期中葉の間にもとめられても大きな混乱はない。むしろ、竪穴式住居の平面プランが円形から方形へと変化することとも符合する。

では、本遺跡で弥生時代前期の集落が営まれなかった理由について考えてみたい。まず、前期の土器が出土した4遺跡の立地について概観する。まず、常用長田遺跡は約標高9mの微高地上にあり、遺構検出面は暗茶褐色粘質土であった。水はけは良好であるが、明確な竪穴式住居は確認できなかった。次に、常用日田行遺跡であるが、常用長田遺跡の北隣の微高地上にあり、状況は常用長田遺跡と同様であった。梅島遺跡も常用長田遺跡と同様の立地条件のところを中心に展開している。下北島久清遺跡では少し状況が異なり、東から延びる低丘陵の先端付近の南斜面に展開する。ここでも竪穴式住居は確認できなかった。上北島平塚遺跡は下北島久清遺跡と同様の立地環境である。弥生時代中期初頭のものと考えられる大型の竪穴式住居を、1基確認している。

以上のように、弥生時代前期の遺跡の立地環境について概観してみると、1つのことに気がつく。弥生時代前期の集落は、いずれも水はけのよいところを選んで展開している。津島皿ヶ町遺跡の状況とは大きく異なっている。津島皿ヶ町遺跡は、掘立柱や礎板が遺存するほど湿潤な土壤のうえに展開している。筑後市域での弥生時代前期の集落では、竪穴式住居が確認されていないため、当時の住居も掘立柱の平地住居を中心に考えるほかないが、その場合でも湿潤な土壤よりも水はけのよい土地の方が集落の設営は容易であったためと考えるのが妥当であろう。その後、南部域に比べて水の確保がやや困難な北部域への開発の進展が行われたところと前後して、より南の湿潤な土地への進出も行われたのではないだろうか。その際につくられた集落の1つが、この津島皿ヶ町遺跡であろう。

2：柱根と礎板

1SB26で出土した柱根と礎板は、本遺跡が低湿地帯に展開し地下水位が比較的高いという好条件に恵まれて遺存状態が比較的良好であった。ここでは、柱根と礎板の組み合わせ方法とその意義について考えてみたい。

今回出土した柱根は、面取りを行って断面八角形に仕上げている。底部は礎板と組み合わせるために切り欠きがある。また、礎板は丸太材を2つに割って蒲鉾状の断面としている。その上で柱の底部の切り欠きに合わせるために、中央部を細く加工している。組み合わせかたは、第Ⅱ章でも報告したとおり、礎板の平坦面を下にして、両者の切り欠きを合わせている。切り欠き以外には、特

に固定のための措置はとられていない。

今回出土した柱と礎板の例は、筑後市内では下北島久清遺跡で確認されている。(註10) 時期も弥生時代後期頃と考えると問題ないと思われるが、詳細は本報告をもって正とする。ただ、出土した時点で遺存状況が悪かったため、保存中の劣化も激しく、ここに図示できない。調査時点の記録から復原すると、柱はなく、礎板のみが2点出土している。礎板の法量も、今回報告するものとほぼ同等である。ただし、礎板を出土した柱穴は、津島皿ヶ町遺跡でのそれよりも大きく、1.2m×0.8mほどもある。しかも、柱穴の底は礫混じりの固い地盤に達している。

また、筑後市周辺の調査例は管見の及ぶかぎり、福岡県下では判然としない。しかし、隣接県である佐賀県では、佐賀平野に分布する遺跡で出土例が知られている。その中で最も著名なのが、佐賀市の村徳永遺跡である。村徳永遺跡は現在第12次調査まで実施されている。その中で、同様の礎板が多く出土したのはF調査区(第6次調査)である。(註11) F調査区では礎板を使用した建物は合計19棟確認されている。いずれも形状・法量は、津島皿ヶ町遺跡のものと同様である。代表例としてSB25を図示する(Fig.79)。出土した柱穴の状況は、下北島久清遺跡のそれと酷似していて、やはり柱穴底面は固い地盤に達している。調査を担当した木嶋眞治氏によれば、柱穴底面は固くしまった土質であり、沈下防止策をとるような必要性はないと判断できるものであるらしい。また、柱と礎板の固定方法については、本報告では明言していないものの、組み合わせ以外に特段の固定措置はとられていないと判断される状況であったという。

九州島を離れて類例を見てみると、近畿地方の例に目を引かれる。しかし、近畿地方で礎板が一般的になるのは5世紀以降で、特に難波宮での例は著名である。規模は拡張しているが、構造自体は極めて近似している。大阪平野の軟弱地盤上の大規模建物に対する沈下防止策として採用されたと考えるのが妥当で、津島皿ヶ町遺跡の状況に近いものがある。

一般的に礎板の機能については、軟弱地盤での沈下防止と考えられている。礎板が平面を下にして据えられていることは、この意見に対して説得力を生んでいる。津島皿ヶ町遺跡の状況だけを見れば、まさにその意見は説得力をもっている。しかし、下北島久清遺跡や村徳永遺跡の例を加えて考えると、沈下防止だけでは十分な説明とはならない部分がでてくるのも事実である。

下北島久清遺跡の調査中に、偶然に調査現場を実見していただいた建築士の方(1991年当時(有)アーバンデザイン勤務)から、興味深い話を伺ったので、ここに紹介しておきたい。現代の建築工法のなかで、類似する工法があるという。工法の名称は忘れてしまったが、ビルの建築の際などに、基

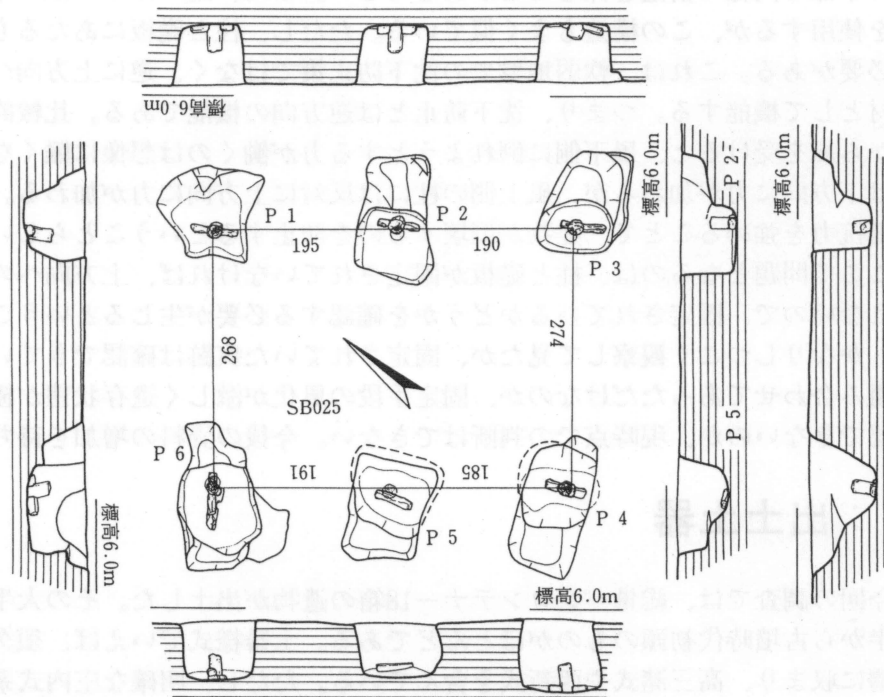


Fig.79 村徳永遺跡F調査区SB25 (1/80)
(報告書から転載)

礎の下部で同様の構造を採ることがあるらしい。また、鯉のぼりの柱の下部にも十字型に組んだ木材を使用するが、この構造もよく似ている。ただし、柱と礎板にあたるものはしっかりと固定される必要がある。これは、軟弱地盤での沈下防止策ではなく、逆に上方向へ引っ張る力に対しての抵抗材として機能する。つまり、沈下防止とは逆方向の機能である。比較的高さのある建物は、横方向から風を受けると、風下側に倒れようとする力が働くのは想像に難くない。その際、風下側の柱には下方向に力が加わるが、風上側の柱には反対に上方向に力が加わる。この上方向の力に対しての抵抗力を強めることで、建物が倒壊するのを防止するということらしい。

ここで問題となるのは、柱と礎板が固定されていないならば、上方向への力に対しての抵抗力は生まれないので、固定されているかどうかを確認する必要があるということである。今回の調査でも、かなりしつこく観察して見たが、固定されていた痕跡は確認できていない。はたして、当初から組み合わせてあっただけなのか、固定手段の風化が激しく遺存状態が極めて劣悪であったために確認できないのか、現時点での判断はできない。今後の資料の増加を待ちたい。

3 : 出土土器

今回の調査では、総量パンコンテナー18箱の遺物が出土した。その大半は土器で、弥生時代中期後半から古墳時代初頭のものほとんどである。土器様式でいえば、須久式から布留式土器までの範疇に収まり、高三渚式や西新式を含んでいる。ただし、明確な庄内式系ものは確認できていない。また、二重口縁を模したものや、鼓型器台も出土しており、瀬戸内地方の影響もみられる。また、口縁形態から熊本地方の影響もみられて、活発な交流・交易が想像できる。

今回の調査で出土した土器を、甕の形態変化に重点をおきながら分類してみると、A群からD群までの4群に大別できる。各群はさらに細分可能である。以下、順に説明したい。

A群 甕の口縁部が逆L字状となるタイプである。

A-1

A群のうち、甕の口縁部がT字状を呈するか、その面影を強く残すタイプである。甕は61等がこれにあたる。

A-2

甕は口縁部が完全に逆L字状となるもので、逆L字状口縁を持つタイプでは最も完成された器形である。底部は広く安定している。体部に突帯が貼り付けられることは少ない。235・238等がこれにあたる。

壺は、まさに須久式土器の壺で、頸部はよくしまり、頸部から口縁部にかけては直立して立ち上がってから緩やかにひらく。

A-3

甕の口縁は逆L字状を保ってはいるが、端部が垂れ下がってくる。体部に三角突帯を貼り付けるものがみられるようになる。297・301等がこれにあたる。

A-4

甕の口縁は逆L字状ではあるが、端部を跳ね上げるタイプで、一部は小さなキャリパー状となるものもある。136・487等がこれにあたる。

B群 甕の口縁部が「く」の字状となるタイプである。

B-1

B群のうち、甕の口縁端部に面を持たず、口縁端部を肥厚させることもしない類型である。315・317等がこれにあたる。

B-2

甕の口縁端部が肥厚するタイプである。

B-3

甕の口縁端部に面を持つタイプである。刻み目はない。

B-4

甕の口縁端部に面を持ち、刻み目を施すタイプで、器壁が厚い。

C群 小型の甕で、口縁部は如意形とよく似た「く」の字状をしている。

C-1

C群のうち、器壁の厚いタイプである。

D群 土師器である。甕の口縁部が「く」の字状となるタイプである。体部外面は叩きのち刷毛目、内面は篋ケズリを施す。底部は丸底となる。

D-1

甕の口縁端部が二重口縁状になるタイプである。

D-2

甕の口縁端部直線的にのびるものである。

D-3

B群のうち、甕の口縁端部を上方向につまみあげるものである。

大きな流れとしては、A群→B群→D群となり、C群はB群の段階の一部に伴うようである。「く」の字状の口縁をもつ甕は須久I式の段階から伴うことがある。しかし、武末純一氏も指摘しているように、遠賀川以西の地域では出土例も少なく(註12)、おおむね須久II式の段階から現われると考えた方が理解しやすい。

以上の分類から、津島皿ヶ町遺跡のなかで、甕を中心に土器の時期的変遷を整理したい。概ね1類から5類への変遷を考えている。

1類

A群のうち、A-1・A-2のみで構成される。基本となる器形はA-2で、所謂「須久I式」併行となる可能性が高い。A-1は地域的な器形変化か。

壺は出土をみなかった。「亀ノ甲式」や「城ノ越式」はみられない。

2類

A群のうち、A-2・A-3・A-4・B-1が混在する。基本となる器形はA-3で、所謂「須久II式」と併行となる可能性が高い。A-4は肥後地方の土器に類例を求められる。熊本県矢護川日向遺跡で同様の器形の甕が確認できる。(註13)

3類

A-3・B-1・B-2・B-3・C-1が混在する。基本となる器形はB-3で、所謂「高三瀨式」にあたる。底部は、まだしっかりとした平底を保っている。B-2はB-1・B-3の変化したものと理解すべきであろう。C-1はこの時期特有のものと考えているが、2類と4類には一部存在することは否定しない。前後に属性のない器形といえる。ただし、今後の資料増加で見解が変わる可能性は否定できない。代表例として、三瀨町の玉満松木ソノ遺跡のSX01出土の60をあげておく。(註14)

壺は、特徴的な袋状口縁となり、一見してそれとわかる。鉢は直線的に立ち上がる口縁部を特徴としている。

4 類

B-3・B-4を主体とする。基本器形はB-4で、「西新式」と併行すると思われ、「狐塚I式」にあたる。底部はかなり小型化し、全国的な弥生終末期の土器様式と合致する。

壺は、袋状口縁が退化した二重口縁となり、頸部が伸びる。(631)鉢は土師器へ移行する前段階にあたり、口縁部の内湾がみられる。

5 類

D-1・D-2・D-3を主体とする。基本器形はD-3で、「布留式」系統の土器である。このうち、体部の最大径が体部中位にあるものはやや古相を示し、その中に二重口縁のD-1がみられる。体部の最大径が体部上位にある新相では、D-1はみられない。

註

- 1 筑後市文化財調査報告書第21集「筑後西部第2地区遺跡群(I)」 筑後市教育委員会 1999
- 2 福岡県文化財調査報告書第127集「塚崎東畑遺跡」 福岡県教育委員会 1997
- 3 大川市文化財調査報告書第2集「酒見貝塚」 大川市教育委員会 1994
- 4 福岡県文化財調査報告書第132集「下林西田遺跡」 福岡県教育委員会 1998
- 5 佐賀県文化財調査報告書第61集「川寄吉原遺跡」 佐賀県教育委員会 1981
- 6 「筑後遺跡だより 第11号」 筑後市教育委員会 1999
- 7 「筑後遺跡だより 第15号」 筑後市教育委員会 1999
- 8 永見秀徳 「筑後市の古代遺跡」 教育筑後第37号所収 1993
- 9 (註1に同じ)
- 10 平成3年度 筑後市教育委員会調査
- 11 佐賀市文化財調査報告書第32集「村徳永遺跡-E・F・G・H地区の調査-」 佐賀県教育委員会 1990
- 12 武末純一 「須久式土器」 日本土器事典所収 雄山閣 1996
- 13 佐藤伸二 「黒髪式土器」 日本土器事典所収 雄山閣 1996
- 14 三潴町文化財調査報告書第6集「玉満松木ソノ遺跡」 三潴町教育委員会 1999

終章 結語

今回の報告をもって、筑後西部第2地区遺跡群のうち津島地区の遺跡群の報告が完了する。一連の調査で、津島地区の遺跡群の一部が明らかになったといえる。

津島地区の遺跡群は筑后市域の最南端に位置する。しかし、さらに南側には瀬高町本郷地区の遺跡群が展開している。したがって、津島地区の遺跡群について考える際に本郷地区の遺跡群を抜きにすることはできない。本郷地区の本報告がなされた後に、筑后市域の弥生時代集落の展開について論考を加える機会を得たいと考えている。

また、序章にも記したとおり、筑後西部第2地区遺跡群の調査は、県営担い手育成農地整備事業筑後西部第2地区の事前調査として実施している。現状保存を行えない部分についてのみ記録保存の措置をとることとしているため、ほとんどの調査対象地が水路予定地となった。そのため、細い線状の調査区設定を余儀なくされ、遺跡全体像の窺い知るには程遠いものとなっている。本章の冒頭に「一部が明らかになった」と書いた所以である。

上記の事情から、集落の面的なひろがりや、居住域・墓域・生産域といったゾーニングについても、今回論及できない。今後の調査事例の増加を待ちたい。

津島皿ヶ町遺跡の調査では、降雨による調査区水没等により調査計画に遅延が生じた。その間、福岡県筑後川水系農地開発事務所・筑後西部第2土地改良区および施工担当の(有)西田組には、終始調査に御助力をいただいた。本書を締めくくるにあたり、末筆ながら御礼申し上げたい。

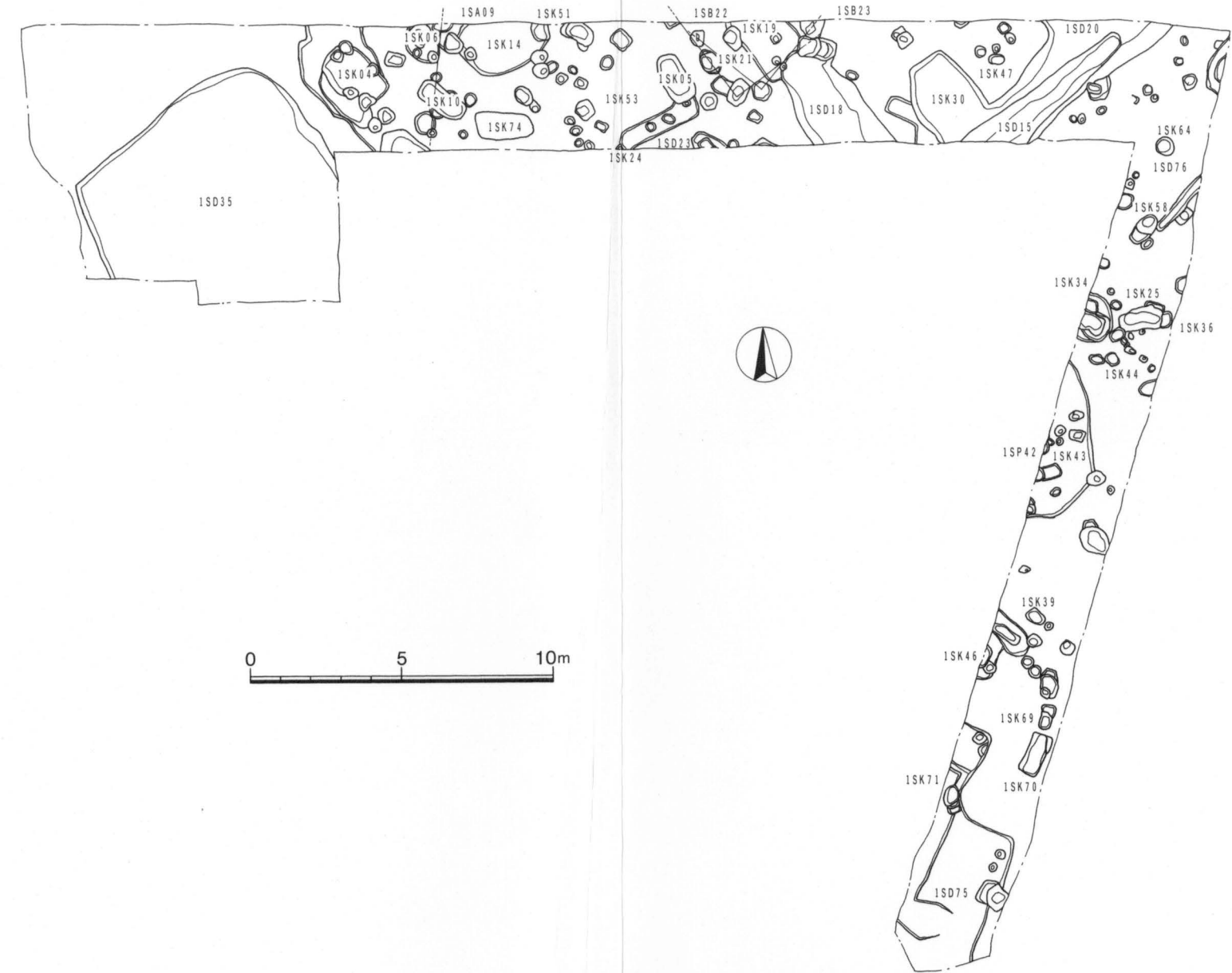


Fig.80 津島皿ヶ町遺跡調査区全体図 (1/200)

写真図版 PLATE

凡 例

遺物図版の遺物番号は、本文中の
遺物番号と一致する。